

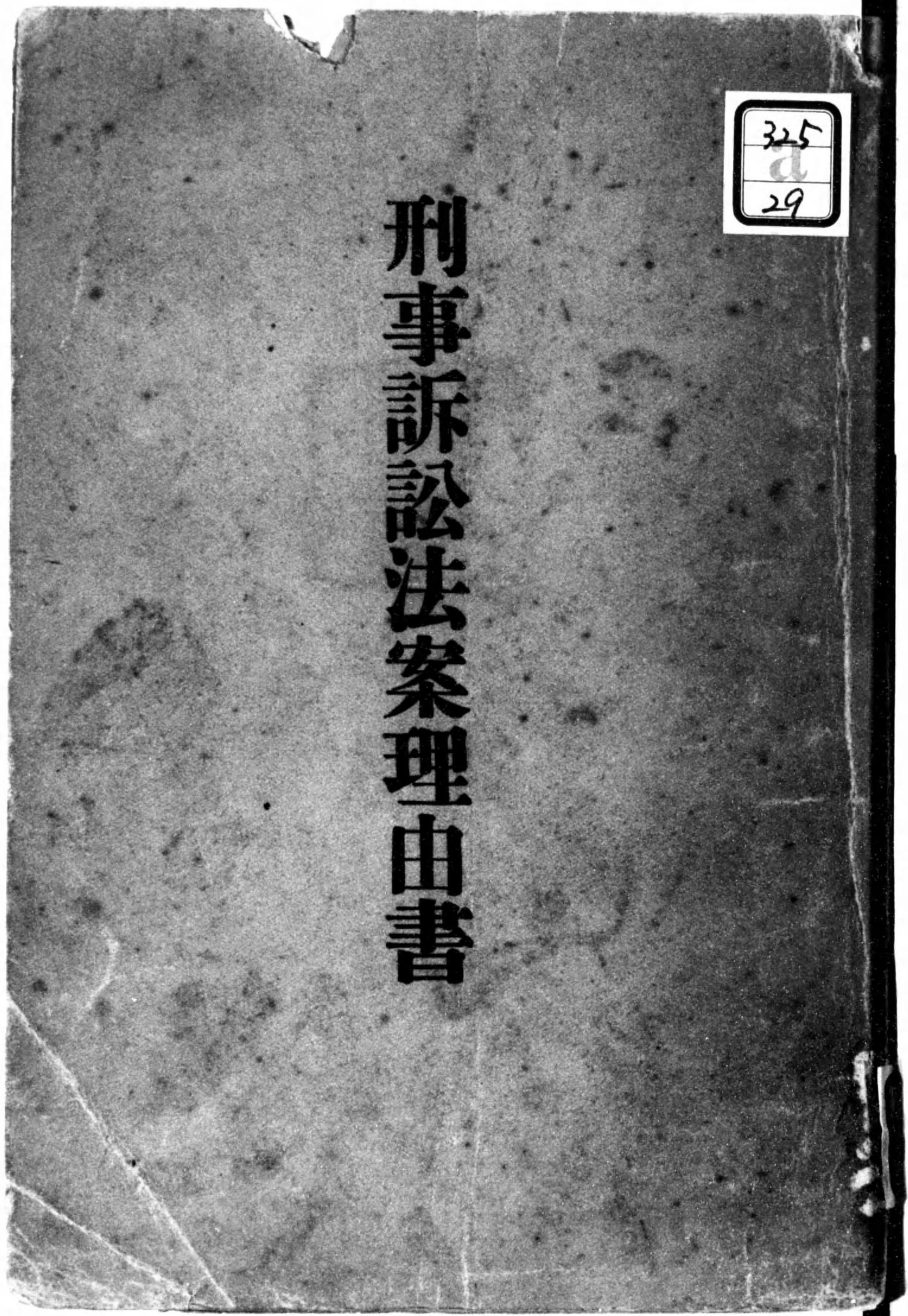
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 9 50 1 2 3 4 5

始



325  
d  
29

刑事訴訟法案理由書



325  
29



0438

# 刑事訴訟法案理由書目次

本案成立ノ經過 ..... 一

本案ノ要綱 ..... 二

第一編 總則 ..... 八

第一章 裁判所ノ管轄 ..... 八

第二章 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避 ..... 二四

第三章 訴訟能力 ..... 三三

第四章 辯護及輔佐 ..... 三四

第五章 裁判 ..... 四〇

第六章 書類 ..... 四三

第七章 送達 ..... 五五

第八章 期間 ..... 五九

第九章 被告人ノ召喚、勾引及勾留 ..... 六一

第十章 被告人訊問 ..... 九三

目次

第十一章	押收及搜索	九七
第十二章	檢證	一一九
第十三章	證人訊問	一二五
第十四章	鑑定	一四三
第十五章	通譯	一五〇
第十六章	訴訟費用	一五一
第二編	第一審	一五七
第一章	搜查	一五七
第二章	公訴	一七三
第三章	豫審	一八一
第四章	公判	一九六
第一節	公判準備	一九八
第二節	公判手續	二〇三
第三節	公判ノ裁判	二一八
第三編	上訴	二三一
第一章	通則	三三二
第二章	控訴	三三九
第三章	上告	三四六
第四章	抗告	二七五
第四編	大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續	二八六
第五編	再審	二九二
第六編	非常上告	三一九
第七編	略式手續	三二二
第八編	裁判ノ執行	三二六
第九編	私訴	三四三
第一章	通則	三四三
第二章	第一審	三四九
第三章	上訴	三五六
附則		三六五

# 刑事訴訟法案理由書

## (一) 本案成立ノ經過

現行刑事訴訟法ハ明治二十三年三月二十日ヲ以テ公布セラレ同年十一月一日ヨリ施行セラレタルモノナリ然ルニ司法省ハ常年ナラスシテ早ク既ニ其ノ不備ヲ認メ之カ完美ヲ期スル爲明治二十八年十二月刑事訴訟法調査委員ヲ設ケテ其ノ改正ニ着手シ同三十一年ニ至リ案略々成リ將ニ審議ニ附セラレムトセシカ時恰モ法典調査會規則ノ改正ニ遭遇シ汎ク諸般ノ法典及附屬法令ノ改正並制定ニ關スル事項ヲ同會ニ於テ起案審議セシムルコト爲リタルヨリ司法省ハ之ヲ同會ニ引繼クニ至レリ法典調査會ハ明治三十三年三月二十九日第一回委員會ヲ開キ爾後同三十四年三月ニ至ル迄會議ヲ累ヌルコト前後七十三回ニシテ草案ヲ作成シ同年五月之ヲ裁判所、檢事局並辯護士會ニ配付シテ其ノ意見ヲ徵シ仍審議中明治三十六年四月法典調査會廢止セラレ改正ノ事業一時中絶ス而シテ其ノ間明治三十二年及同四十一年刑事訴訟法ニ部分的ノ改正ヲ加タヘリト雖皆其ノ大綱ニ關スルモノニ非ス然ルニ刑法及監獄法ノ改正ニ伴ヒ全典改正ノ要愈切ナルモノアルヲ以テ明治四十一年司法省ハ更ニ其ノ調査立案ヲ法律取調委員會ノ議ニ附スルニ至レリ法律取調委員會ハ主査委員ヲ設ケテ鋭意調査立案ニ從事セシメ大正二年十月一タヒ其ノ稿ヲ終ヘタルモ主査委員會ニ於テ

一應ノ議決ヲ爲シタルニ止マリ未タ總會ノ議ニ附スルニ至ラス更ニ調査ヲ進メテ稿ヲ改メ大正五年五月二十三日成案ヲ得タルヲ以テ未定稿ノ儘之ヲ裁判所、檢事局、監獄、辯護士會、貴族院、衆議院、帝國大學及各私立大學ニ送付シテ其ノ意見ヲ徵シ又廣ク世ニ公ニシテ學者實際家ノ批判ヲ覓メタルニ各方面ヨリ意見ヲ提出スルモノ尠ナカラス依テ深ク其ノ意見ヲ參稽シテ三タヒ稿ヲ改メ大正七年九月二十三日之ヲ完了シテ委員總會ノ議ニ附スルニ至レリ法律取調委員會設立以來會議ヲ重ヌルコト實ニ五百八十九回ヲ算ス委員總會ハ該第三次草案ヲ議題トシ會ヲ開クコト十回審査將ニ酣ナラムトスルニ際シ大正八年七月法律取調委員會廢止セラレタルカ爲改正ノ事業ハ中途ニシテ休止スルノ已ムナキニ至レリ

然レトモ刑事訴訟法改正ノ事業ハ一日モ忽ニスヘカラサルモノアリ司法省ハ大正九年四月一日更ニ刑事訴訟法改正調査委員會ヲ設ケ先業ヲ繼承シテ調査立案ノ事業ニ膺ラシム刑事訴訟法改正調査委員會ハ法律取調委員會ノ第三次草案ヲ基礎トシテ調査ヲ進行シ會議ヲ累ヌルコト百一回慎重審議ヲ遂ケ大正十年八月二十四日全會一致ノ決議ヲ以テ茲ニ改正案ノ完成ヲ告グルニ至レリ

(二) 本案ノ要綱

一、本案ハ之ヲ大別シテ九編ト爲ス第一編ハ總則ニシテ十六章ヨリ成ル第一章裁判所ノ管轄、第二章裁判所職員ノ除斥忌避及回避、第三章訴訟能力、第四章辯護及輔佐、第五章裁判、第六章書類、第七章送達、

第八章期間、第九章被告人ノ召喚勾引及勾留、第十章被告人訊問、第十一章押收及搜索、第十二章檢證、第十三章證人訊問、第十四章鑑定、第十五章通譯、第十六章訴訟費用是レナリ第二編ハ第一審ノ規定ニシテ分テ四章ト爲ス即チ第一章捜査、第二章公訴、第三章豫審、第四章公判トシ第四章ハ更ニ之ヲ第一節公判準備、第二節公判手續、第三節公判ノ裁判ト爲ス第三編ハ上訴ニ關スル規定ニシテ、之ヲ四章ニ分別ス第一章通則、第二章控訴、第三章上告、第四章抗告是ナリ第四編ハ大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續、第五編ハ再審、第六編ハ非常上告、第七編ハ略式手續、第八編ハ裁判ノ執行ニ關スル規定ナリ此等ノ數編ニハ章ヲ置カス第九編ハ私訴ニ關スル規定ニシテ之ヲ分テ三章ト爲ス第一章通則、第二章第一審、第三章上訴是ナリ

二、今本案ノ組織ヲ現行法ト比較シテ觀察スルニ  
 イ、現行法ハ裁判所ト題スル一編ヲ設ケ其ノ内ニ管轄(第一章)除斥忌避及回避(第二章)ノ規定ヲ置キタレトモ本案ハ此ノ如キ編ヲ設ケス管轄並除斥及忌避回避ニ關スル規定ハ各總則中ノ一章トシテ之ヲ規定シタリ  
 ロ、現行法ハ犯罪ノ捜査起訴及豫審ヲ併セテ獨立ノ一編(第三編)ト爲シタレトモ本案ハ之ヲ第二編(即第一章)中ニ規定スルコトトセリ  
 ハ、現行法ハ豫審ノ章(第三編第三章)ニ被告人ノ召喚勾引勾留ニ關スル規定(現行法第三編第三章第一

節令狀) 被告人ノ訊問ニ關スル規定(同第四節)並證據集取ニ關スル規定(同第五節)檢證搜索及物件差押同第六節證人訊問同第七節鑑定) 即チ本案ノ被告人ノ召喚勾引勾留、被告人訊問、押收搜索、檢證、證人訊問、鑑定ニ該當スル規定ヲ網羅シタレトモ此等ノ規定ハ皆豫審手續ニ固有ノモノニ非サルヲ以テ本案ハ現行法ノ組織ヲ改メ總則中ニ於テ裁判所ヲ本位トシテ之ヲ規定シ豫審及各審級ノ手續ニ共通スヘキモノトセリ而シテ豫審ノ章ニハ豫審ニ固有ノ規定ノミヲ存置スルコトトセリ

ニ、本案總則中ノ一章タル訴訟能力ニ關スル規定ハ新設シタルモノニシテ現行法ニハ全ク其ノ實質ヲ存セス

ホ、本案總則中ニ辯護及輔佐、裁判、書類、送達、期間、通譯、訴訟費用ト題スル各章アリ現行法ニハ此ノ如キ表題ヲ存セサレトモ其ノ實質ヲ存シ此等ノ事項ハ各所ニ散在シテ規定セラレ居レリ本案ハ之ヲ各獨立ノ章ニ拾集シテ補正ヲ加ヘタリ

ヘ、現行法ハ公判ノ規定ヲ獨立ノ一編ト爲シ之ヲ通則、區裁判所ノ公判、地方裁判所ノ公判ノ三章ニ分チタレトモ本案ハ之ヲ搜索、豫審及起訴ト共ニ第二編ニ規定シ且現行法ニ於ケルカ如キ區別ヲ爲サスシテ公判ト題スル一章ヲ設ケ之ヲ公判ノ準備、公判ノ手續、公判ノ裁判ノ三節ニ分類シタリ

ト、現行法ハ非常上告ヲ上告ノ規定ニ附加シタレトモ本案ハ之ヲ分離シテ獨立ノ一編トセリ

チ、大正二年法律第二十號刑事略式手續法ハ簡易ノ刑事訴訟手續ニ外ナラサルヲ以テ之ヲ本案ニ編入シ

ヲ獨立ノ一編ト爲シタリ

リ、現行法ハ私訴ニ關スル法則ヲ公訴ノ手續中ニ錯綜シテ規定シタレトモ本案ハ獨立ノ一編ヲ設ケ之ニ關スル一切ノ規定ヲ收輯シタリ

三、本案ノ規定中現行法ト實質ニ於テ大差ナク殆ト字句ノ修正ニ止マルモノナシトセスト雖其ノ實質ニ變更ヲ加ヘタルモノ頗ル多シ即チ實際ノ經驗ニ徴シテ現行ノ手續ニ幾多ノ改善ヲ加ヘ又最新ノ學理ト東西ノ立法ヲ參酌シテ其ノ長ヲ採リ又時代ノ變遷ニ從ヒテ之ニ適應スヘキ幾多ノ改正ヲ加ヘタルモノアリ其ノ要旨ハ編ノ順序ニ從ヒ條章ヲ逐ツテ之ヲ説明スヘク茲ニ一々舉示スルコト難シ其ノ主要ナルモノヲ略述スレハ左ノ如シ

イ、道義ヲ重シ淳風良俗ヲ保持スルノ趣旨ヲ以テ幾多ノ規定ヲ設ケタルコト

ロ、管轄ニ關スル無用ノ限界ヲ除去シ牽連事件ノ併合、分離並ニ移送ヲ自由ニシ實際ノ便益ニ適應セシメタルコト

ハ、訴訟能力ノ章ヲ設ケテ意思無能力者及法人ノ代表ニ關スル規定ヲ置キタルコト

ニ、捜査ノ手續ニ關スル規定ヲ設ケ殊ニ捜査上必要アルトキ檢事ヲシテ強制處分ヲ判事ニ求ムルコトヲ得セシメタルコト

ホ、公訴ニ付任意主義ヲ採用シタルコトヲ明示スルト同時ニ公訴ノ取消ヲ認メ尙檢事ノ上訴拋棄及取下

ヲ認メテ主義ヲ一貫シタルコト

ヘ、彈劾式訴訟ノ主義ヲ一貫シ裁判所又ハ豫審判事ハ檢事ノ公訴提起アルニ非サレハ絶對ニ事件ノ審判ヲ爲スコトヲ得サルモノト爲シタルコト

ト、重罪事件ニ付豫審ヲ經由スルコトヲ要スルノ制ヲ改メ豫審ヲ求ムルヤ否ヤヲ檢事ノ裁量ニ委ネタルコト

チ、被告ノ當事者タル地位ヲ確保シ其ノ權利利益ヲ擁護スルノ趣旨ヲ以テ幾多ノ規定ヲ設ケタルコト  
リ、未決勾留ニ關シテハ人身ノ自由ヲ尊重スル趣旨ニ於テ勾留日數ノ制限ヲ定メ其ノ他多クノ規定ヲ設ケタルコト

ス、豫審中ニ於テモ辯護人ノ選任ヲ許シ辯護人ハ豫審手續ニ付一定ノ範圍ニ於テ之ニ參與スルコトヲ得ルモノト爲シ又公判ニ於テハ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人等ヲ直接ニ訊問スル權ヲ有スルモノト爲シタルコト

ル、公判ヲ以テ名實共ニ刑事訴訟手續ノ中樞タラシムルノ趣旨ニ於テ豫審ノ目的ヲ定メ之ヲシテ公判ノ前提手續タルノ性質ニ戻ルコトナカラシメタルコト

オ、公判ノ準備ニ關スル規定ヲ新設シ又計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公廷外ニ於ケル取調ヲ爲スノ制ヲ定メテ公判手續ノ進捗ヲ圖リタルコト

ワ、特別ノ場合ノ外被告人ノ出廷ヲ公判開廷ノ要件ト爲シ開席判決ノ制ヲ全廢シタルコト

カ、人ノ供述ヲ錄取シタル書類ヲ證據トスルハ原則トシテ法律ニ定メタル的確ナルモノニ限り其ノ他ノモノハ證據ト爲ラサルモノト爲シタルコト

コ、判決書ニハ被告人又ハ辯護人ノ主張シタル抗辯ノ重要ナルモノニ付説明スルヲ原則ト爲シタルコト  
ク、控訴ニ付テハ成ルヘク覆審ノ趣旨ヲ貫カムコトヲ期シタルコト

レ、上告ニ關スル制度ニ重大ナル改正ヲ加ヘテ根本ノ主義ヲ一變シタリ即チ第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲シ得ル場合ヲ認メタルコト、法令違背ヲ理由トスル場合ノ外一定ノ條件ノ下ニ事實ノ認定又ハ刑ノ量定ノ不當ヲ理由トシテ上告ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲シタルコト、上告裁判所原判決ヲ破毀シタル場合ニ於テハ原則トシテ之ヲ他ノ裁判所ヘ移送セスシテ自ら事實ノ審理ヲ爲シ被告事件ニ付判決ヲ爲スヘキモノト爲シタルコト

ソ、再審ノ原因並手續ニ付詳密ナル規定ヲ置キテ現制度ノ缺點ヲ補ヒタルコト

ツ、非常上告ヲ爲シ得ヘキ範圍ヲ擴張シ法律解釋ノ統一ヲ期スル制度ノ趣旨ニ適セシメタルコト  
ネ、私訴ノ手續ニ改正ヲ加ヘ各場合ニ適應シテ公私ノ便ヲ計ルニ力メタルコト

## 第一編 總則

### 第一章 裁判所ノ管轄

裁判所ノ管轄ハ之ヲ分別シテ事物ノ管轄及土地ノ管轄ト爲ス事物ノ管轄ニ關スル事項ニシテ裁判所構成法ノ規定ニ從フヘキモノハ之ヲ本章ニ掲ケス本章ニ於テハ先ツ裁判所ノ土地ノ管轄ヲ定メ尙事物及土地ノ管轄ニ關係アル事項ニシテ裁判所構成法ニ規定セサルモノ及其ノ規定ニ變更ヲ加フヘキモノニ付法則ヲ設クルコトトセリ

管轄ノ問題ト裁判權自體ノ問題トハ嚴ニ之ヲ區別セサルヘカラス通常裁判所ト特別裁判所トハ裁判權ヲ異ニスルカ故ニ其ノ間ニ於テ管轄ノ問題ヲ生スルコトナシ現行法ハ此ノ區別ヲ閑却シタルノ嫌アルヲ以テ本案ニ於テハ特ニ此ノ點ニ留意シテ規定ヲ設ケタリ

裁判權ヲ異ニスル裁判所ノ間ニ於テハ各其ノ權限ヲ確守シ他ノ畛域ニ立入ルコトヲ認容スヘキニ非ス裁判所ノ管轄ハ敘上ノ觀念ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ス裁判所ノ管轄ハ通常裁判所ノ間ニ於テ裁判權ノ行使ニ關シ事務ノ歸屬ヲ定ムルモノナルカ故ニ之ヲ規律スルニ當リテハ專ラ公私ノ便益ニ著眼シ可成流通ヲ自在ニシ事ニ當テ機宜ノ措置ヲ爲スニ便ナラシムルコトヲ期セサルヘカラス徒ニ規定ヲ嚴格ニシ彼此相侵スヘカラサルコト裁判權自體ヲ規律スルカ如クスルハ公私ノ便益ヲ犧牲ニシテ裁判權ノ行使ヲ滯留セシムル弊

アルヲ免レヌ本案ニ於テハ深ク此ノ點ニ留意シ現行法ノ不備ヲ補正シタリ

現行法ノ下ニ於テハ數個ノ裁判所管轄ヲ有スル場合ニ於テ其ノ中ノ或裁判所ヲシテ先著手、牽連等ノ事由ニ基キ管轄ヲ專有セシメ之ニ因リテ他ノ裁判所ノ固有ノ管轄權ヲ排除スルノ主義ヲ採用シタレトモ此ノ如キハ理論ニ偏シテ實際ノ便益ヲ輕視スルノ批難アルヲ免カレラ故ニ本案ハ此ノ如キ場合ニ於テ他ノ管轄裁判所ノ固有ノ管轄權ニ何等ノ影響ヲ及ホササルコトト爲シ以テ事件ノ分離、併合ヲ簡易ニシ裁判權ノ行使ニ不便ナカラシメンコトヲ期シタリ

管轄ノ規定既ニ定マルト雖モ特別ノ事情アルカ爲管轄裁判所ヲシテ審判セシメシテ他ノ裁判所ニ移シテ審判セシムルヲ得策トスル場合ナキニ非ス此ノ如キ場合ニ於テハ管轄ヲ移轉スルノ必要アリ又時トシテハ事實上管轄裁判所ノ存在セサルカ或ハ其ノ不明ナルカ爲管轄ノ指定ヲ必要トスル場合アリ故ニ本案ニ於テモ亦現行法ト均シク管轄ノ指定及移轉ニ關スル規定ヲ設ケタリ唯本案ニ於テハ現行法ノ規定ヲ不適當トシテ補正シタル點アルヲ以テ其ノ内容相同シカラサルモノアリ

第一條 裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル  
帝國外ニ在ル帝國艦船内ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ前項ニ規定スル地ノ外其ノ艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地又ハ犯罪後其ノ艦船ノ繫泊シタル地ニ依ル

本條ハ裁判所ノ土地管轄ヲ規定シタルモノナリ現行法ハ犯罪地及被告人所在地ヲ以テ土地管轄ノ標



準ト爲スモ本案ハ之ニ被告人ノ住所及居所ヲ加ヘタリ蓋シ被告人ノ住所並居所ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見スルコト多キヲ以テナリ

第二項ハ帝國外ニ在ル帝國艦船内ニ於テ犯シタル罪ニ付土地ノ管轄ヲ規定シタルモノニシテ現行法カ單ニ定艦港及犯罪後最初ニ著船シタル地ヲ以テ管轄ノ標準ト爲シタルヲ改メ第一項ニ掲ケタル土地ノ外艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地又ハ犯罪後其ノ艦船ノ繫泊シタル總テノ地ヲ以テ管轄ノ標準ト爲シタリ

現行法ハ特ニ外國ニ於テ犯シタル罪ニ付管轄裁判所ヲ定メ内地ニ於ケル逮捕地及被告人送致ノ地ヲ以テ之ヲ定ムルノ標準ト爲セトモ本案ニ於テハ此ノ如キ特別規定ヲ設クルコトナク此ノ場合ニ於テモ一般ノ原則ニ從ハシムルコトトシ一般ノ原則ニ依リテ管轄裁判所ヲ確定スルコト能ハサルトキハ第十五條ニ依リ管轄指定ノ手續ヲ爲スヘキモノトセリ

### 第二條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得

本條ニ依レハ上級裁判所ハ本來ノ管轄權ノ外事件ノ牽連ヲ理由トシテ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テモ亦管轄權ヲ有スルモノナリ茲ニ注意スヘキハ上級裁判所カ併合シテ管轄スルノ故ヲ以テ下級裁判所ノ固有ノ管轄權ニ消長ヲ及ササルコト是ナリ

### 第三條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件上級裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

事物管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スル場合ニ於テ上級裁判所總テノ事件ヲ審理スルコトヲ得ルハ前條ノ規定ニ照シテ明ナリ然レトモ事案ニ依リテハ併合審理ヲ適當トセス之ヲ分離シテ審理スルヲ便益トスル場合アリ斯ル場合ニ於テハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ本來ノ管轄權ヲ有スル下級裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得ルコトトセリ

### 第四條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件各別ニ上級裁判所及下級裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得

事物管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得ルハ第二條ノ規定スル所ナレトモ之アルカ爲ニ下級裁判所ノ管轄權ニ消長ヲ及ササルヲ以テ檢事數個ノ牽連事件ヲ各別ニ各管轄裁判所ニ起訴スルハ何等違法ノ點ナク從テ訴ヲ受ケタル裁判所ハ各自獨立シテ之ヲ審判セサルヘカラス然レトモ此ノ如キ場合ニ於テハ專ラ上級裁判所之ヲ併合シテ審理スルヲ適當

トスルコト多キヲ以テ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得ヘキモノトセリ此ノ場合ニ於テ下級裁判所ハ其ノ受理シタル事件ヲ上級裁判所ニ移送セサルヘカラス

本條ハ明文ノ示スカ如ク事件公判ニ繫屬スル場合ニノミ適用スヘキモノナリ故ニ區裁判所ノ公判ニ繫屬スル事件ヲ地方裁判所ノ豫審ニ繫屬スル事件ト併合シテ審理スルコトヲ許サス

第五條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得

本條ハ同等裁判所ノ間ニ於テ一ノ裁判所ハ他ノ裁判所ノ土地管轄ニ屬スル牽連事件ヲ管轄スルコトヲ明カニシタルモノナリ即チ一ノ裁判所ハ本來ノ管轄權ノ外事件ノ牽連ヲ理由トシテ他ノ同等裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テモ亦管轄權ヲ有スルモノナリ然レトモ之カ爲ニ他ノ裁判所ノ固有ノ管轄權ニ何等ノ消長ヲモ及ホスヘキモノニ非サルハ第二條ノ場合ニ同シ

第六條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ其ノ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ

土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スル場合ニ於テ之ヲ併セテ一ノ管轄裁判所ニ起訴スルコトヲ得ルハ前條ノ規定ニ徴シ明瞭ナリ此ノ場合ニ於テ受訴裁判所ハ其ノ儘事件ヲ併合シテ審理スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリト雖時宜ニ依リ之ヲ分離シテ審判スルヲ適當トスル場合ナキニアラス本條ハ此ノ場合ニ關スル規定ナリ本條ハ事件ノ公判ニ繫屬スル場合ト其ノ豫審ニ繫屬スル場合トヲ區別セス而シテ移送ノ決定アリタル場合ニ於テ同一ノ状態ニ於テ移送ヲ受ケタル裁判所ニ繫屬スルニ至ルヘキハ論ヲ俟タス

第七條 事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ  
前二項ノ場合ニ於テ各裁判所ノ決定一致セザルトキハ各裁判所ニ共通スル直近

上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ事件チ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

一四

本條ハ數個ノ同等裁判所ニ分離シテ起訴セラタル數個ノ牽連事件ノ併合ニ關スル規定ナリ土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スル場合ニ於テハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得ルハ第五條ノ規定スル所ナルモ之カ爲ニ他ノ同等裁判所ノ固有ノ管轄權ニ消長ヲ及ササルモノナルカ故ニ檢事ハ數個ノ牽連事件ヲ各別ニ數個ノ管轄裁判所ニ起訴スルコトヲ得ヘク公訴ヲ受ケタル各裁判所ハ獨立シテ審判スルコトヲ得ヘシ然ルニ此ノ如キ場合ニ於テハ寧ロ之ヲ併合シ一ノ裁判所ニ於テ審判スルヲ適當トスルコト多キヲ以テ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得ルモノトセリ

本條亦事件ノ豫審ニ繫屬スル場合ト公判ニ繫屬スル場合トヲ區別セズ唯併合スヘキ事件ハ總テ同一ノ状態ニ於テ繫屬スヘキモノナルコトヲ要ス豫審ノ程度ニ在ル事件ハ既ニ公判ニ繫屬スル事件トヲ併合スルハ爲シ得ヘカラサルコトナリ豫審ノ程度ニ在ル事件ヲ公判ニ繫屬スル事件ニ併合セントセハ必ス其ノ終結ヲ待タサルヘカラス

各裁判所ノ決定一ニ歸スルトキハ何等ノ問題ヲモ生セサレトモ其ノ間一致ヲ缺ク場合アルヘキヲ以テ之ニ備フルノ規定ヲ存セサルヘカス是レ本條第三項ノ規定ヲ存スル所以ナリ此ノ規定ニ從ヘハ直

近上級裁判所ノ指定シタル裁判所其ノ事件ヲ併合シテ審判スヘキモノニシタル事件ヲ其ノ裁判所ニ移送セサルヘカラス

第八條 數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

- 一 一人數罪ヲ犯シタルトキ
  - 二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ
  - 三 數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
  - 四 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
- 犯人藏匿ノ罪、證據湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪、贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

本條ハ如何ナル場合ニ於テ事件互ニ牽連スヘキモノナリヤヲ明カニシタルモノナリ現行法ハ牽連事件ニ付一人數罪ノ場合竝從犯ト正犯及正犯數名アル場合ヲ規定スルニ止マリ不便尠カラサルヲ以テ本條ニ依リ其ノ範圍ヲ擴張シ必要ト認メタル各場合ヲ網羅セリ

第九條 同一事件事物管轄ヲ異ニスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ事件ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

本條ハ數個ノ同等裁判所ニ分離シテ起訴セラタル數個ノ牽連事件ノ併合ニ關スル規定ナリ土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スル場合ニ於テハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得ルハ第五條ノ規定スル所ナルモ之カ爲ニ他ノ同等裁判所ノ固有ノ管轄權ニ消長ヲ及ササルモノナルカ故ニ檢事ハ數個ノ牽連事件ヲ各別ニ數個ノ管轄裁判所ニ起訴スルコトヲ得ヘク公訴ヲ受ケタル各裁判所ハ獨立シテ審判スルコトヲ得ヘシ然ルニ此ノ如キ場合ニ於テハ寧ロ之ヲ併合シ一ノ裁判所ニ於テ審判スルヲ適當トスルコト多キヲ以テ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得ルモノトセリ

本條亦事件ノ豫審ニ繫屬スル場合ト公判ニ繫屬スル場合トヲ區別セズ唯併合スヘキ事件ハ總テ同一ノ状態ニ於テ繫屬スヘキモノナルコトヲ要ス豫審ノ程度ニ在ル事件ハ既ニ公判ニ繫屬スル事件トヲ併合スルハ爲シ得ヘカラサルコトナリ豫審ノ程度ニ在ル事件ヲ公判ニ繫屬スル事件ニ併合セントセハ必ス其ノ終結ヲ待タサルヘカラス

各裁判所ノ決定一ニ歸スルトキハ何等ノ問題ヲモ生セサレトモ其ノ間一致ヲ缺ク場合アルヘキヲ以テ之ニ備フルノ規定ヲ存セサルヘカス是レ本條第三項ノ規定ヲ存スル所以ナリ此ノ規定ニ從ヘハ直

近上級裁判所ノ指定シタル裁判所其ノ事件ヲ併合シテ審判スヘキモノニシタル事件ヲ其ノ裁判所ニ移送セサルヘカラス

第八條 數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

- 一 一人數罪ヲ犯シタルトキ
  - 二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ
  - 三 數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
  - 四 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
- 犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪、贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

本條ハ如何ナル場合ニ於テ事件互ニ牽連スヘキモノナリヤヲ明カニシタルモノナリ現行法ハ牽連事件ニ付一人數罪ノ場合竝從犯ト正犯及正犯數名アル場合ヲ規定スルニ止マリ不便尠カラサルヲ以テ本條ニ依リ其ノ範圍ヲ擴張シ必要ト認メタル各場合ヲ網羅セリ

第九條 同一事件事物管轄ヲ異ニスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

本條ハ上級裁判所ト下級裁判所トノ間ニ存スル管轄ノ競合ニ因ル牴觸ヲ調和スル規定ナリ現行法ノ下ニ於テハ上級裁判所ト下級裁判所トノ間ニ管轄競合ノ問題ヲ生スル餘地ナシト雖本案ニ於テハ上級裁判所カ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル牽連事件ニ付管轄權ヲ有スル旨ヲ規定シ而モ之カ爲下級裁判所ノ管轄權ヲ奪フコトナキヲ以テ同一事件ニ付上級裁判所ト下級裁判所トカ重複シテ管轄權ヲ有スルニ至リ從ツテ同一ノ事件ニ付上級裁判所ト下級裁判所トカ同時ニ公訴ヲ受ケタル場合ヲ生スヘシ本條ハ此ノ場合ニ於テハ上級裁判所其ノ審判ヲ爲スヘキモノトシ其ノ先ニ公訴ヲ受ケタルト後ニ公訴ヲ受ケタルトヲ區別セス故ニ下級裁判所ハ上級裁判所ヨリ先ニ公訴ヲ受ケタル場合ト雖第三百六十七條第三號ニ依リ公訴棄却ノ決定ヲ爲スヘキモノトス唯下級裁判所ニ於テ審判スルヲ適當トスル事情アル場合ニ於テハ上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第十條 同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス  
各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ

受ケタル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

本條ハ同等裁判所ノ間ニ於ケル管轄ノ競合ニ因ル牴觸ヲ調和スル規定ナリ第一條ニ於テ管轄ノ標準トシテ規定シタル事項數多アルカ故ニ同一事件ニ付數個ノ同等裁判所カ管轄權ヲ有スルコトノ可能ナルハ想像ニ難カラス其ノ場合ニ於テ數個ノ裁判所カ同一事件ニ付公訴ヲ受ケタルトキハ其ノ中ノ一個ノ裁判所ヲシテ審判セシメサルヘカラス本條ハ敘上ノ場合ニ於テ公訴ヲ受ケタル時期ヲ標準トシテ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ審判ヲ爲サシムルコトトセリ現行法ハ一ノ裁判所ノ先著手ニ因リ他ノ裁判所ノ管轄權ヲ排斥スルモノト爲セトモ此ノ主義ハ本案ノ採用スル所ニ非ス最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所カ審判ヲ爲ス結果他ノ管轄裁判所審判ヲ爲スコトヲ得サルニ過キスシテ其ノ管轄權ニ何等ノ影響ヲモ及ササルヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ハ第三百六十七條第三號ニ依リ公訴棄却ノ決定ヲ爲スヘキモノニシテ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス而シテ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ審判セシムルヲ適當トスル事情アル場合ニ於テ強テ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ審判セシムルハ其ノ當ヲ得サルカ故ニ各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得ルコトトセリ

第十一條 裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フコ

トナ得

一八

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

本條ハ裁判所ノ管轄區域外ニ於ケル職務執行ニ關スル規定ナリ

土地ノ管轄既ニ定マル以上ハ裁判所ハ其ノ管轄區域内ニ於テ職務ノ執行ヲ爲スヘク濫ニ區域ノ外ニ出テテ職務ヲ行フカ如キハ事務ノ分配ヲ紛更スルモノニシテ若シ區域外ニ於テ職務ヲ行フノ要アルニ於テハ囑託ノ手續ニ依ルヲ原則トセサルヘカラス然リト雖管轄ハ本來事件ニ付定マルモノニシテ地域ハ事件ニ付管轄ヲ定ムルノ標準タルニ過キス苟モ帝國裁判權ノ及フヘキ範圍内ニ於テ絕對ニ裁判權ノ行使ヲ禁止スルハ謂レナキコトナリ故ニ裁判所自ラ管轄區域外ニ行動スルヲ以テ眞實發見ノ爲必要アリトスル場合ニ於テハ例外トシテ之ヲ承認セサルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第十二條 訴訟手續ハ管轄違ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

本條ハ管轄違ノ裁判所ノ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ規定シタルモノナリ管轄違ノ言渡アリタル場合ニ於テ其ノ以前ニ爲シタル訴訟手續ヲ有效ト爲スヘキヤ否ヤニ付疑アリ本案ハ明文ヲ設ケ之ヲ有效ト爲ス

第十三條 裁判所ハ管轄權ヲ有セサルトキト雖急速ヲ要スル場合ニ於テハ事實發

見ノ爲必要ナル處分ヲ爲スコトナ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

管轄權ナキ裁判所ハ其ノ事件ニ付處分ヲ爲スコト能ハサルハ當然ナリ然レトモ此ノ原則ヲ墨守スルトキハ往々急速ヲ要スヘキ事件ニ對シ機宜ノ措置ヲ爲ス能ハサルノ憾ナシトセス是レ本條ノ規定ヲ設クル所以ナリ

第十四條 檢事ハ左ノ場合ニ於テ關係アル第一審裁判所ニ共通スル直近上級裁判

所ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

一 裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所ノ定マラサルトキ

二 管轄違ヲ言渡シタル確定裁判アリタル事件ニ付他ニ管轄裁判所ナキトキ

本條ハ管轄指定ノ請求ニ付規定スルモノニシテ其ノ趣旨裁判所構成法第十條ト異ルコトナシ唯同條第一號ニ所謂權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且同法第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サル場合ノ如キハ本來管轄移轉ノ原由トスヘキモノナルカ故ニ本案ハ之ヲ(第十六條ニ移シ)管轄指定ノ原由ト爲サ

ス尙裁判所構成法第十條第三號ニ所謂法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スル場合ハ他ノ規定ヲ以テ解決スルヲ得ルヲ以テ之ヲ管轄指定ノ原由ト爲サス

第十五條 法律ニ依ル管轄裁判所ヲキトキ又ハ之ヲ知ルコト能ハサルトキハ檢事總長ハ大審院ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

現行法ハ法律ニ依ル管轄裁判所ナキ場合又ハ之ヲ知ルコト能ハサル場合ニ於テ管轄裁判所ヲ指定スル規定ヲ缺如ス本條ハ其ノ不備ヲ補フカ爲設ケタルモノナリ

第十六條 檢事ハ左ノ場合ニ於テ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

- 一 管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル裁判所ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ
- 二 被告人ノ地位、地方ノ民心、訴訟ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル虞アルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ被告人亦管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

本條ハ管轄移轉ノ請求ニ付規定スルモノニシテ現行法第三十六條及第三十七條ト其ノ趣意ヲ同シクヌ本條第一號ニ管轄移轉請求ノ原由トシテ掲ケタル場合ハ現行法ノ下ニ於テハ管轄指定ノ原由ナク

本案ハ之ヲ改メテ管轄移轉ノ原由ト爲シタル理由ハ第十四條ニ於テ説明シタリ

第十七條 犯罪ノ性質、被告人ノ地位、地方ノ民心其ノ他ノ事情ニ因リ管轄裁判所ニ於テ審判ヲ爲ストキハ公安ヲ害スル虞アリト認ムル場合ニ於テハ檢事總長ハ大審院ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

本條ノ趣旨現行法第三十四條第三十五條ニ同シ

第十八條 管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

檢事前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

本條乃至第二十三條ハ管轄ノ指定及移轉ニ關スル手續ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求手續ヲ規定シ第一項ハ檢事及被告人ノ爲スヘキ請求ニ共通スルモノニシテ第二項ハ檢事ノ請求ニ付特ニ設ケタル規定ナリ

第十九條 檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ繫屬セル事件ノ訴訟手續ヲ停止スヘキモノナルヲ以テ檢事ハ裁判所ヲシテ其ノ請求アリタルコトヲ知ラシメサルヘカラス是レ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第二十條 檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付第十六條第一項第二號ニ規定スル事由ノ爲管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ速ニ請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ管轄裁判所ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付第十六條第一項第二號ニ記載シタル事由ノ爲管轄移轉ノ請求ヲナシタル場合ニ於テハ被告人ヲシテ之ニ對スル意見ヲ陳述スルノ機會ヲ得セシムルヲ相當トス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第二十一條 被告人管轄移轉ノ請求書ヲ差出スニハ事件ノ繫屬スル裁判所ヲ經由スヘシ

前項ノ裁判所請求書ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

檢事ハ請求書ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

本條ハ被告人ノ爲スヘキ管轄移轉ノ請求ニ付特ニ設ケタル規定ナリ

第二十二條 豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタル場合ニ於テ裁判所ヲシテ依然其ノ訴訟手續ヲ進行セシムルハ當ヲ得ス故ニ本條ニ依リ其ノ訴訟手續ヲ停止スルヲ以テ原則ト爲ス唯急速ヲ要スル事項ノ審理ヲ遷延セシムルハ失當ナルヲ以テ但書ヲ設ケタリ

第二十三條 管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ



管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ニ付テノ裁判ハ其ノ請求ヲ受ケタル裁判所決定ヲ以テ之ヲ爲ス

二四

## 第二章 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

本章ノ規定ハ現行法第二編第二章ノ規定ニ相當スルモノニシテ現行法ト同シク判事及裁判所書記ノ除斥、忌避及回避ヲ認メタリ今本章ニ依リ現行法ヲ改正シタル要點ヲ擧クレハ除斥ノ原因ニ付現行法ノ規定未タ盡ササル所アルヲ以テ之ヲ擴張シテ必要ト認メタル各場合ヲ網羅シ忌避權ノ行使動モスレハ濫用ニ陥ルノ虞アルヲ以テ其ノ弊ヲ抑止スル爲適當ノ規定ヲ設ケ尙現行法ニ於テハ忌避ノ申請及其ノ裁判ハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノトスルモ之ニ關スル獨立ノ法則ヲ設クルヲ適當トシ之ヲ本章ニ掲クルコトトセリ

### 第二十四條 判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

- 一 判事被害者ナルトキ
- 二 判事私訴當事者ナルトキ
- 三 判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ配偶者、四親等内ノ血族三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナルトキ親族關係ノ止ミタル後亦同シ
- 四 判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人

ナルトキ

五 判事事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

六 判事事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ

七 判事事件ニ付檢事又ハ司法警察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ

八 判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ現行法第四十條ト同シク判事カ法律上其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ場合ヲ列擧シタルモノナリ

第一號ハ現行法第一號ニ同シ

第二號ハ新設シタルモノナリ本案ニ從ヘハ判事私訴ノ被告人ト爲ル場合ナキモ私訴ニ參加スヘキ場合ナシトセサルヲ以テ第一號ノミニテハ盡ササル所アリ故ニ本號ヲ新設シテ現行法ノ不備ヲ補足セリ

第三號ハ現行法第二號ニ相當スルモノナリ現行法ニ規定セル親族ノ範圍ハ全部ニ及ヒ廣キニ失スル

ヲ以テ之ヲ四親等内ノ血族及三親等内ノ姻族ニ限定シ尙現行法ニ於テ親族關係ノミヲ以テ除斥ノ原因トシ同居ノ戸主若ハ家族タル關係ヲ度外視スルハ狹キニ失スルヲ以テ之ヲ補足セリ又現行法ニ於テハ判事ノ配偶者ト被告人被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者トノ間ニ存スル親族關係ヲ以テ除斥ノ原因ト爲セトモ判事ノ配偶者ノ親族ハ判事ノ姻族ナルヲ以テ特ニ規定スルノ要ナク其ノ他ノ場合ニ付テハ忌避回避ノ規定ノ運用ニ待ツヲ適當トシ之ヲ削除シタリ

第四號ハ現行法第三號後段ニ相當スルモノニシテ現行法ニ於テ判事被告人若ハ被害者ノ法定代理人ナル場合ノミヲ認ムルハ不十分ナルヲ以テ之ヲ補足セリ

第五號ハ現行法第三號前段ニ同シ

第六號第七號ハ新設シタルモノナリ現行法ニ於テ兩號記載ノ事由ヲ以テ除斥ノ原因ト爲ササルハ缺陷ナリ

第八號ハ現行法第四號ニ相當ス現行法ニハ判事事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキトアルヲ以テ豫審ノ決定ニ干與セサレハ豫審手續ニ干與スルモ除斥ノ原因ト爲ラス又前審ノ判決ニ干與セサレハ假令前審ノ公判手續ニ干與スルモ除斥ノ原因ト爲ラサルヤ明カナリ然レトモ此ノ如キハ狹キニ失スルノ憾アルヲ以テ現行法ニ示シタル場合ノ外尙豫審終結決定又ハ前審ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ干與シタル場合ヲ擧ケ之ヲ除斥ノ原因トスルコトニ改

メ唯受託判事トシテ干與シタル場合ハ除斥ノ原因ト爲スノ必要ナシト認メタルヲ以テ但書ヲ以テ之ヲ除外セリ

第二十五條 判事職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキハ

ルトキハ檢事、被告人、私訴當事者之ヲ忌避スルコトヲ得  
本條ノ趣旨現行法第四十一條ニ同シ

第二十六條 事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシ

テ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原由アリシコトヲ知ラサリシトキ又ハ忌避ノ原由其ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ忌避權ノ濫用ニ對スル制限ヲ規定シタルモノニシテ其ノ趣旨現行法ニ引用セラレタル民事訴訟法第三十四條ニ同シ

第二十七條 合議裁判所ノ判事ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲シ豫審判事、受命判事、區裁判所判事ニ對スル忌避ノ申立ハ忌避スヘキ判事ニ之ヲ爲スヘシ

忌避ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ示スヘシ  
忌避ノ理由及前條但書ノ事實ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日内ニ書面ヲ以テ之ヲ  
疏明スヘシ

忌避セラレタル判事ハ第二十八條第四項但書及第二十九條ノ場合ヲ除クノ外忌  
避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スヘシ

本條ハ忌避申立ノ方式ヲ規定シタルモノナリ

第二十八條 合議裁判所ノ判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所決定  
ヲ爲スヘシ

忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ス

第一項ノ裁判所忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキ  
ハ直近上級裁判所決定ヲ爲スヘシ

豫審判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所、區裁判所判事忌避セラ  
レタルトキハ管轄地方裁判所決定ヲ爲スヘシ但シ忌避セラレタル判事忌避ノ申

立ヲ理由アリトスルトキハ其ノ決定アリタルモノト看做ス

本條ハ忌避ニ對スル裁判並其ノ裁判ヲ爲スヘキ裁判所ヲ定メタルモノナリ

第二項ハ忌避セラレタル判事ヲシテ決定ニ關與スルヲ得サラシムルモノニシテ當然ノ規定ナリ第三  
項末段ハ忌避セラレタル豫審判事又ハ區裁判所判事忌避ヲ相當ト認メタルトキハ管轄裁判所ニ於テ  
決定ヲ爲サス忌避セラレタル判事自ラ脱退シ得ヘキコトヲ定メタルモノナリ

第二十九條 訴訟ヲ遅延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申  
立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セス  
第二十六條又ハ第二十七條第二項第三項ノ規定ニ違反シテ爲シタル忌避ノ申立  
ヲ却下スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ忌避セラレタル豫審判事、受命判事、區裁判所判事ハ忌避ノ  
申立ヲ却下スル裁判ヲ爲スコトヲ得

本條ハ忌避ノ理由ヲ審査セスシテ直ニ其ノ申立ヲ却下スル場合ニ關スル規定ニシテ忌避濫用ノ弊害  
ヲ抑止センカ爲ニ新ニ設ケタルモノナリ而シテ此ノ場合ニ於テ忌避セラレタル判事ヲシテ決定ヲ爲  
サシメ又ハ之ニ關與セシメテレハ規定ノ趣旨ヲ貫ク能ハサルヲ以テ前條第二項ノ規定ヲ適用セサル

第三十條 忌避ノ申立アリタルトキハ前條ノ場合ヲ除クノ外訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本條ノ趣旨ハ現行法第四十三條ノ規定ト略同シ唯現行法ハ公判ニ於テハ常ニ辯論ヲ中止シ豫審ニ於テハ處分ヲ繼續スルヲ原則トシ急速ヲ要セサル事件ニ付手續ヲ中止スルコトヲ得ルモノトナセトモ本案ニ於テハ豫審タルト公判タルトヲ問ハス訴訟手續ヲ停止スルヲ原則トシ前條ニ規定スル場合及急速ヲ要スル場合ヲ以テ其ノ例外ト爲シタリ

第三十一條 忌避ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

本條ハ現行法ニ引用セラレタル民事訴訟法第三十八條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第三十二條 忌避ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ第二十四條各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十七條第四項及第二十八條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘキ場合ヲ規定ス判事第二十四條各號ニ該當スル場合ニ於テハ

第二十五條ノ規定ニ依リ當事者ニ於テ之ヲ忌避スルコトヲ得ルハ勿論ナリト雖裁判所自ラ判事ニ除斥ノ原因アルコトヲ認メタル以上ハ敢テ當事者ノ忌避ヲ待ツコトナク進ンテ除斥ノ決定ヲ爲スヲ相當トス是レ本條第一項ノ規定アル所以ニシテ其ノ趣旨現行法ニ引用セララルル民事訴訟法第四十條第一項後段ト異ナルコトナシ

第一項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲ス場合ニ於テハ原因ノ有無ニ關シ當該判事ノ意見ヲ徵スルヲ適當トシ又當該判事ヲシテ此ノ決定ニ關與セシメサルヲ相當トスルコト忌避ノ場合ト同様ナルヲ以テ第二項ヲ設ケ此ノ趣旨ヲ明ニセリ

第三十三條 判事忌避セラルヘキ原由アリト思料スルトキハ回避スヘシ

回避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ規定ハ回避ニ付之ヲ準用ス

本條ハ判事ノ回避ニ關スル規定ニシテ其ノ趣旨現行法第四十四條ニ同シ

第三十四條 前二條ノ決定ハ之ヲ送達セス

除斥ノ決定及回避ニ付テノ決定ハ當該判事ヲシテ之ヲ知ラシムルヲ以テ足ルモノニシテ當事者ニ之ヲ送達スルノ必要ナキカ故ニ本條ヲ設ク其ノ趣旨現行法ニ引用セラレタル民事訴訟法第四十條第二

項後段ニ同シ

第三十五條 本章ノ規定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除クノ外裁判所書記ニ之ヲ準用ス

豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スヘシ

決定ハ裁判所書記所屬ノ裁判所之ヲ爲スヘシ但シ第二十九條第二項ノ裁判ハ裁判所書記ノ附屬スル判事之ヲ爲スコトヲ得

本條ハ裁判所書記ノ除斥、忌避及回避ニ關スル規定ナリ

豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スル適當トスルカ故ニ第二項ヲ以テ其ノ趣旨ヲ明ニシタリ

第三項本文ハ現行法第四十五條但書ト其ノ趣旨ヲ同シクス唯第二十九條第一項ノ理由ニ依リ申立ヲ却下スヘキ場合ニ於テハ特ニ裁判所ノ決定ヲ待タス裁判所書記ノ附屬スル判事ヲシテ決定ヲ爲サシムルヲ以テ十分ナリトスルカ故ニ但書ヲ設ケテ其ノ趣旨ヲ明ニセリ

### 第三章 訴訟能力

法人又ハ意思能力ヲ有セサル者被告人ト爲リタル場合ニ於テハ自ラ訴訟行爲ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ法律上其ノ訴訟上ノ無能力ヲ補充スルノ必要アリ現行法ニ於テハ此ノ點ニ關スル規定ヲ缺如シ實際上不便ナルヲ以テ本案ハ斯ル場合ニ應セムカ爲代表ノ制度ヲ設ケ之ヲ本章ニ規定シタリ

第三十六條 被告人法人ナルトキハ其ノ代表者訴訟行爲ニ付キ之ヲ代表ス

數人共同シテ法人ヲ代表スル場合ト雖訴訟行爲ニ付テハ各自之ヲ代表ス

本條ハ法人被告人ナル場合ニ於ケル代表ノ制度ヲ規定シタルモノナリ我法制ニ於テハ概括的ニ法人ノ犯罪能力ヲ認ムルコトナク唯例外トシテ特別法ニ於テ之ヲ認ムルニ過キス而シテ特別法ヲ以テ法人ヲ處罰スル場合ニ於テモ法人ノ當事者能力ヲ否認シ之ヲ被告人ト爲サシテ其ノ代表者ヲ被告人ト爲スヲ例トス明治三十三年法律第五十二號第二條ハ此ノ趣旨ヲ以テ規定シタルモノナリ本案ニ於テハ此ノ制度ヲ改メ法人ノ當事者能力ヲ認メテ之ヲ被告人ト爲シ其ノ訴訟行爲ニ付テハ其ノ代表者之ヲ代表スヘキモノトセリ尙定款等ニ基キ數人カ共同シテ法人ヲ代表スル場合ニ於テモ刑事訴訟ニ關シテハ各自獨立シテ法人ヲ代表スヘキモノト定ム

第三十七條 刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用キサル罪ニ該ル事件ニ付被

告人意思能力ヲ有セサルトキハ其ノ法定代理人訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

各種特別法中刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用ヒサル罪ヲ規定スルモノアリ而シテ之ニ該當スル事件ニ付公訴ノ提起アリタルトキ被告人事實上意思能力ヲ有セサルコト其ノ例ニ乏シカラスル場合ニ於テ何人カヲシテ訴訟行爲ニ付之ヲ代表セシムルニ非サレハ訴訟ノ進行ハ得テ之ヲ望ムヘカラス是レ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第三十八條 前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ  
特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲ス者アルニ至ル迄其ノ任務ヲ行フ

本條ハ前二條ノ規定ニ依ル代表者ナキ場合ニ於テ特別代理人ヲ選任スヘキ旨ヲ定ム特別代理人ハ訴訟行爲ニ付法人又ハ無能力者ヲ代表スヘキモノニシテ其ノ權限ハ法定代理人又ハ代表者ノ就任シテ訴訟行爲ヲ爲スニ至ルマテ繼續ス

#### 第四章 辯護及輔佐

現行法ニ於テハ公判ニ於テノ辯護人ヲ用ユルコトヲ認ムルカ故ニ總則中之ニ關スル規定ヲ存セスト雖本

案ニ於テハ公判開始後ハ勿論豫審中ト雖一定ノ範圍内ニ於テ辯護人ノ關與シ得ヘキコトヲ認ムルカ故ニ總則中獨立ノ一章ヲ設ケテ之ヲ規定ス又輔佐ハ辯護ト等シク被告人ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲スモノナルカ故ニ之ヲ辯護ト同一ノ章ニ規定ス

第三十九條 被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及夫並被告人ノ屬スル家ノ戶主ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

本條第一項ハ辯護人選任ノ時期ヲ規定スルモノニシテ被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得ルモノトス而シテ第二百九十條ニ依レハ公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リテ之ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ被告人ハ公判開始後ハ勿論豫審中ト雖辯護人ヲ選任スルコトヲ得ヘシ抑豫審中ニ於テ辯護人ノ關與ヲ認ムヘキヤ否ヤハ考量ヲ要スヘキ問題ナリ現行法ハ豫審密行ノ主義ヲ嚴守シ其ノ進行中辯護人ノ關與スルコトヲ許サス本案ニ於テハ豫審中ト雖一定ノ範圍内ニ於テ辯護人ノ關與ヲ認ムルニ非サレハ十分ニ被告人ノ利益ヲ保護スル能ハサル場合アルヘキヲ慮リ豫審請求後直ニ辯護人ノ選任ヲ爲シ得ヘキモノトセリ

現行法ハ第七十九條第一項ニ於テ被告人自ラ辯護人ヲ用ユルコトヲ規定スルモ被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、夫及被告人ノ屬スル家ノ戸主カ獨立シテ被告人ノ爲ニ辯護人ヲ用ユルコトヲ認メス此ノ如キハ被告人ノ保護ヲ完ウスル所以ニ非サルヲ以テ本案ハ本條第二項ノ規定ヲ設ケ此ノ缺點ヲ補正シタリ

第四十條 辯護人ハ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

裁判所又ハ豫審判事ノ許可ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得

本條ハ辯護人ノ資格ヲ定ムルモノニシテ其ノ趣旨現行法第七十九條第二項ニ同シ唯本案ニ於テハ豫審中辯護人ノ選任ヲ許スヲ以テ許可ヲ與フル者ヲ裁判所ニ限ラス之ニ豫審判事ヲ加ヘタルノ差アルノミ

第四十一條 辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘシ

豫審中爲シタル辯護人ノ選任ハ第一審ノ公判ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

本條ハ辯護人選任ノ手續ヲ定ムル規定ナリ公判ノ各審級ヲ通シテ辯護人ヲ用ユルト之ヲ一審級又ハ二審級ニ限ルトハ特別ノ規定アル場合ノ外被告人法定代理人其ノ他選任スヘキ者ノ隨意ナリ唯選任

ノ效力ヲ他ノ審級ニ及ホスコトト爲スハ其ノ當ヲ得サルヲ以テ何レノ場合ニ於テモ辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘキモノト定ム而シテ豫審中ニ於テ爲シタル辯護人ノ選任ハ第一審公判ニ於テ其ノ效力ヲ保有セシムルヲ相當トシ第二項ヲ以テ其ノ趣旨ヲ明ニセリ

第四十二條 辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

本條ハ辯護人選任ノ形式ヲ定メ辯護人ノ選任ヲ爲サントスル者ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ以テ爲スコトヲ要スルモノト爲セリ口頭ヲ以テスル選任ヲ許ササルハ手續ヲ鄭重ニシ過誤ナカラシムムコトヲ期スルカ爲ナリ

第四十三條 第三百三十六條又ハ第三百三十七條ノ規定ニ依リ附スヘキ辯護人ハ

裁判所所在地ニ在ル辯護士又ハ司法官試補ノ中ヨリ裁判長之ヲ選任スヘシ

被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

本條ハ官選辯護ニ關スル規定ニシテ現行法第七十九條第二項第二百三十七條第二項ト略其ノ趣旨ヲ同シク司法官試補中ヨリ官選辯護人ヲ選任スルノ制度ハ本案ノ創設スル所ナリ

第四十四條 辯護人ハ被告事件公判ニ付セラレタル後裁判所ニ於テ訴訟ニ關スル

書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

豫審ニ於テハ辯護人ノ立會フコトヲ得ヘキ豫審處分ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

辯護人ハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ證據物ヲ謄寫スルコトヲ得

本條ハ書類證據物ノ閱覽謄寫ニ付辯護人ノ有スル權利ヲ規定シタルモノナリ第一項ハ現行法第百八十條ト趣旨ヲ同シクシ第二項ハ豫審處分ニ關スル書類及證據物ノ閱覽謄寫ニ付規定スルモノニシテ新設シタルモノナリ第三項ニ於テ證據物ノ謄寫ニ付裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ要件トスルコトヲ規定シタルハ證據物ノ取扱ヲ鄭重ニスルノ趣旨ニ外ナラス

第四十五條 被告事件公判ニ付セラレタル後ニ於テハ辯護人ト勾留ヲ受ケタル被告トノ接見及信書ノ往復ヲ禁スルコトヲ得

本條ハ辯護人ト勾留ヲ受ケタル被告人トノ交通ニ關スル規定ニシテ一般ノ法則ニ對スル例外ヲ定メタルモノナリ現行法第八十五條第三項ハ廣ク被告人ト他人トノ接見及書類物件ノ授受ヲ禁シ又ハ其ノ書類物件ヲ差押フルコトヲ得ル旨ヲ規定シ其ノ接見又ハ信書ノ往復ヲ爲ス相手方ニ付何等ノ區別ヲ爲ササルヲ以テ辯護人モ亦此ノ制限ニ服從セサルヘカラス然レトモ此ノ如キハ被告人ノ辯護權ヲ

尊重スル所以ニ非サルヲ以テ本案ハ公訴提起後ニ於テハ辯護人ト勾留ヲ受ケタル被告人トノ接見及信書ノ往復ニ付制限ヲ加ヘサル旨ヲ規定シ辯護權ノ行使ニ支障ナカラシメンコトヲ期セリ

第四十六條 辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ限り獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

本條ハ辯護人ノ獨立訴訟行爲ニ關スル規定ナリ即チ辯護人訴訟行爲ヲ爲スニハ被告人ノ意思ニ依ルヘキヲ原則トシ別段ノ明文アル場合(第百五十八條第百七十八條第二百二十七條第三百五條等)ニ於テハ例外トシテ獨立シテ訴訟行爲ヲ爲シ得ルコトヲ明ニス

第四十七條 被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及夫竝被告人ノ屬スル家ノ戸主ハ被告事件公判ニ付セラレタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人タラントスル者ハ審級毎ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

輔佐人ハ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ獨立シテ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ輔佐人ニ關スル規定ニシテ現行法第百八十一條第二百四十四條ノ規定ヲ擴張シテ其ノ不備ヲ



### 第五章 裁判

本案ニ於テモ現行法ト同シク裁判ノ方式ニ判決決定及命令ノ三種アルコトヲ認メタリ而シテ裁判ハ各審級ニ通シテ爲スヘキモノナレハ之ニ關スル一般ノ規定ハ之ヲ一括シテ總則中ニ置クヲ妥當トシ之ヲ本章ニ掲ケタリ

第四十八條 判決ハ口頭辯論ニ基キテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ之ヲ爲ストキハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ

得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

凡ソ裁判ヲ爲スニ付訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルヤ否ヤハ其ノ判決ナルト決定ナルト命令ナルトニ依リ差異アリ判決ヲ爲スニ付テハ口頭辯論ニ基クヘキコトヲ原則トシ此原則ニ對スル例外ハ上告審ニ於ケル特別ノ場合及第五百十四條ニ掲クル場合ナリ判決ノ基本ト爲ルヘキ口頭辯論ハ公判廷ヲ開キ檢事及被告人ノ口頭ノ陳述ヲ聽クヘキモノナリ被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲シ得ルハ第三百六十九條ノ如ク特別ノ明文アルノ場合ニ限ル決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ之ヲ爲ス場合ニ於テハ必ス訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘキモノトシ其ノ他ノ場合ニ於テハ別段ノ規定ナキ限リ訴訟關係人ノ供述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ許ス命令ハ常ニ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス叙上ノ法則ハ本條第一項乃至第三項ノ示ス所ナリ右ノ如ク決定命令ニ付キ書面審理ヲ原則ト爲シ口頭審理ニ基クコトヲ要セサルモノト爲シタル所以ノモノハ此等ノ裁判ハ多クハ判決ノ如ク事件ノ本體ニ關スルモノニ非スシテ事件ニ付裁判ヲ爲ス前刑事訴訟ニ隨伴シテ起ルヘキ問題ヲ決スルニ過キササルモノナルヲ以テナリ

決定又ハ命令ヲ爲スニ付口頭審理ヲ必要トセサルモ書面ノミニ依リ盡ササル場合アルヘキヲ以テ必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトシ本條四項以下ノ規定ヲ設ク

第四十九條 裁判ニハ理由ヲ附スヘシ

上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

本條ニ於テハ上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ノ外裁判ニハ總テ理由ヲ附スヘキモノト爲ス判決ノ理由ニ付テハ公判ノ章ニ於テ別ニ規定スル所アリ

第五十條 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ裁判ノ告知ノ方法ヲ規定シタルモノナリ裁判ハ告知ニ依リテ其ノ效力ヲ生スルモノニシテ其ノ告知ノ方法ニ二種アリ宣告ノ方法ニ依ルモノ及送達ノ方法ニ依ルモノ是レナリ公判廷ニ於テハ宣告ノ方法ニ依リ其ノ他ノ場合ニ於テハ原則トシテ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スモノトス

第五十一條 裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ  
判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

本條ハ裁判宣告ノ方式ヲ規定シタルモノニシテ其ノ趣旨現行法第二百四條第二項ニ同シ

第五十二條 檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判アリタルトキハ檢事ヲシテ正確ナル指揮ヲ爲サシムルノ必要上速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スルコトヲ以テ通則トセサルヘカラス  
是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第五十三條 被告人其ノ他訴訟關係人ハ其ノ費用ヲ以テ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

本條ハ現行法第二百六條ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ單ニ判決ニ付テノミ規定スレトモ本案ハ規定ノ範圍ヲ擴張シ總テノ裁判ニ通シテ之ヲ適用スルコトトセリ

### 第六章 書類

現行法ニ於テ第二十條乃至第二十一條ノニニ書類作成ノ方式ニ關スル規定ヲ掲クル外書類ニ關スル一般ノ通則ヲ設ケサルハ缺點ナルカ故ニ本案ニ於テハ特ニ一章ヲ設ケ一括シテ之ヲ掲クルコトトセリ

第五十四條 訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判所書記之ヲ作成スヘシ

本條ハ訴訟書類作成ノ職責ヲ有スル者ヲ定ム裁判所書記ハ書類ヲ作成シ且之ヲ整理スルノ責任ヲ有ス唯裁判ノ原本、豫審請求書、公判請求書又ハ裁判所書記ノ立會ナクシテ取調ヲ爲ス場合ニ於ケル調書ノ如ク特ニ作成スヘキ者ヲ定ムルモノニ付テハ本條ノ例ニ依ルヘキモノニ非ス

第五十五條 訴訟ニ關スル書類ハ公判開廷前ニ於テハ之ヲ公ニスルコトヲ得ス

公判開廷前ニ於テ訴訟ニ關スル書類ノ内容ヲ公表スルハ其ノ弊害尠シトセス就中訴訟關係人ノ名譽ヲ毀損シ之ニ回復スヘカラサル損害ヲ被ラシムルノ虞アリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第五十六條 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述
  - 二 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由
- 調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽

セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

本條ハ被告人、被疑者（起訴前犯罪ノ嫌疑ヲ受クル者）證人、鑑定人、通事及翻譯人ノ訊問ニ付テハ必ス調書ヲ作成スヘキコト並其ノ調書ニ記載スヘキ事項ヲ規定シタルモノニシテ現行法第九十二條第九十五條第九十六條第一百一條第三百一一條及第三百三十六條等ノ規定ヲ一括シテ修正シタルモノナリ

第五十七條 檢證、押収又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押収ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り之ヲ調書ニ添附スヘシ

本條ハ檢證押収及搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘキコトヲ定メ押収ヲ爲シタル場合ニハ其ノ範圍ヲ明瞭ナラシムル爲其ノ品目ヲ調書ニ記載スルカ又ハ目錄ヲ作り之ヲ調書ニ添附スヘキモノト定ム

第五十八條 前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外

ニ於テ裁判所取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

本條ハ前二條ノ規定ニ依リ作成スヘキ調書ニ共通シテ其ノ要件ヲ定ム而シテ其ノ要件トシテ示ス所ハ皆調書ノ正確ヲ保ツ爲缺クヘカラサルモノナリ

第五十九條 裁判所書記ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

本條ハ裁判所書記ノ立會ナクシテ作成スヘキ調書ニ關スル規定ナリ被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事及翻譯人ノ取調又ハ檢證、押收若ハ搜索ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ立會アルヲ原則トシ別段ノ定ナキ限リ裁判所書記調書ヲ作り之ヲ供述者ニ讀ミ聞カスヘキコト既ニ前數條ニ規定セル所ナリト雖此等ノ取調又ハ處分ハ裁判所書記ノ立會ナクシテ檢事又ハ司法警察官ニ於テ爲ス場合アリ本條ハ此等ノ場合ニ於テ書類ノ作成ニ關スル職務ヲ行フヘキ者ヲ明ニスルモノナリ

第六十條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

- 一 公判ヲ爲シタル裁判所及年月日
- 二 判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名
- 三 被告人出頭セサリシトキハ其ノ旨
- 四 公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由
- 五 被告事件ノ陳述及公判開廷中口頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ要旨
- 六 辯論ノ要旨
- 七 第五十六條第二項ニ掲クル事項
- 八 朗讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類
- 九 被告人ニ示シタル書類及證據物
- 十 公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收
- 十一 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル

事項

十二 被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト

十三 判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト

本條ハ現行法第二百八條及第二百九條ノ規定ヲ合セ修正シタルモノニシテ公判ニ付テ調書ヲ作ルヘキコト並其ノ調書ニ記載スヘキ事項ヲ規定シタルモノナリ現行法ノ下ニ於テモ公判始末書ニハ前掲二條ニ明示シタル事項ノ外尙一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘキモノト爲スト雖本條第二項第三號第五號第六號第九號第十號等ニ掲ケタル事項ノ如キハ最モ重要ナルモノナルヲ以テ特ニ舉示スルノ必要アリ故ニ本案ニ於テハ記載事項トシテ之ヲ明示シタリ又現行法ニ於テハ公ニ辯論ヲ爲シタルコトヲモ公判始末書ニ記載セシムルコトト爲シタルモ辯論ハ特ニ禁止スル場合ノ外常ニ之ヲ公開スヘキモノナルカ故ニ本案ニ於テハ公開ヲ禁シタルトキニ於テノミ其ノ旨ヲ記載スルコトトシ公開シタル旨ヲ記載スルノ必要ナキモノトセリ

第六十一條 公判調書ニ付テハ第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

供述者ノ請求アルトキハ裁判所書記ヲシテ其ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ増減變更ノ申立アリタルトキハ其ノ供述ヲ記載セシムヘシ

公判調書ハ裁判所檢察其ノ他ノ訴訟關係人ノ實見シタル事實ヲ記載スルモノナルヲ以テ其ノ記載ノ方式ニ付第五十六條第二項乃至第四項ニ掲ケタルカ如キ嚴格ナル規定ヲ設ケサルモ之カ爲ニ調書ノ公正ヲ害スルコトナカルヘシ然レトモ供述者ニ於テ讀聞ケ又ハ増減變更ノ記載ヲ請求シタル場合ニ於テ之ヲ拒ムヘキ理由ナシ本條ハ敍上ノ趣旨ヲ明ニシタルモノナリ

第六十二條 公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ

本條ハ現行法第二百十條第一項ノ規定ヲ修正シタルモノナリ現行法ニ於テハ公判始末書ハ判決言渡ヨリ三日內ニ整頓スヘキモノトシ公判開廷ノ都度之ヲ爲スノ要ナキカ故ニ公判ノ開廷數回ニ互リタル場合ニ於テハ判決言渡後一括シテ整頓スルモ何等違法ノ嫌アルコトナシ然レトモ此ノ如クナルトキハ調書ノ正確ヲ期スルノ點ニ於テ遺漏ナキヲ保セス故ニ本案ニ於テハ公判調書ハ公判開廷毎ニ之ヲ作成シ其ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘキコトトセリ

第六十三條 公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ  
裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

本條ハ現行法第二百十條第一項後段ノ規定ニ相當スルモノナリ現行法ニ於テハ裁判長、區裁判所判事又ハ裁判所書記死亡其ノ他ノ事由ニ因リ署名捺印スルコトヲ得サル場合ニ付テノ規定ヲ缺如スルヲ以テ本案ハ明文ヲ設ケテ此ノ缺點ヲ補正シタリ

第六十四條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

本條ハ公判調書ノ效力ヲ規定スルモノナリ公判手續カ適法ニ行ハレサルトキハ其ノ全部又ハ一部無効ト爲ルヘキ場合アルカ故ニ其ノ適法ニ行ハレタルヤ否ヤヲ證明スルノ方法ヲ定メサルヘカラス本案ニ於テ公判調書ノ制度ヲ設クルハ此ノ必要ニ應スルヲ以テ主要ノ目的ト爲スモノタルコト疑ヲ容レズ而シテ既ニ公判調書ノ制度備ハル以上ハ之ニ依リテ公判手續ノ適否ヲ證明スルコトヲ得ルハ勿論之ヲ以テ唯一ノ證明方法ト爲ササルヘカラス蓋シ他ノ證明方法ヲ許容スルハ其ノ必要ナキノミナラス却テ無用ノ手續ニ因リ徒ニ紛雜ヲ累ヌルノ虞アルヲ以テナリ現行法ニハ此ノ明文ナシト雖解釋上右ト同一ノ趣旨ニ依ルヘキモノト爲ス本條ハ明文ヲ以テ之ヲ明ニシタルモノナリ

第六十五條 辯護人ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ速記者ヲシテ公判ニ於ケル被告人又ハ證人ノ供述ヲ筆記セシムルコトヲ得

被告人又ハ證人ノ正確ナル供述ヲ知得スルコトハ辯護人ノ重要ナル職責ナリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

速記ハ參考ノ用ニ供スルモノナリ之ヲ以テ公判調書ヲ補足スルモノト解スヘキモノニ非ス

第六十六條 裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

凡ソ裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作成スルヲ原則トス判決ニ付テハ全ク例外ヲ認メス決定、命令ニ付テハ宣告スルモノノ外皆裁判書ヲ作成スルモノトシ其ノ宣告スルモノニ付テハ裁判書ヲ作成スルコトナク其ノ決定又ハ命令ヲ調書ニ記載セシムルヲ以テ足ル例ヘハ公判廷ニ於テ宣告スル證據決定ノ如キ是ナリ

第六十七條 裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ

本條ハ裁判書ノ作成者ヲ規定シタルモノナリ  
裁判書ハ審理ノ結果判斷シタル所ヲ記述スルモノニシテ見聞シタル事項ヲ筆記スルモノニ非ス故ニ

判断ヲ爲シタル者又ハ之ニ關與シタル者之ヲ作成セサルヘカラス即チ一般ノ書類ノ如ク裁判所書記ヲシテ作成セシムヘキモノニ非ス故ニ本條ヲ設ケテ敍上ノ趣旨ヲ明ニス

第六十八條 裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

本條ハ現行法第二百五條ニ相當スル規定ナリ裁判ノ原本ニハ通常其ノ裁判ヲ爲シタル判事悉ク署名捺印スヘキモノナリト雖死亡其ノ他ノ事由ニ因リ署名捺印スルコト能ハサル場合ナキヲ保セス本條ハ此ノ場合ニ應スヘキ規定ニシテ現行法ノ不備ヲ補正シタルモノナリ

第六十九條 裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齢、職業及住居ヲ記載スヘシ裁判ヲ受クル者法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘシ

本條第一項ニ於テハ裁判書ニ共通スル一般要件トシテ裁判ヲ受クヘキ者ヲ表示シ之ヲ識別スル爲必

要ナル記載ヲ爲スヘキコトヲ定メ第二項ニ於テハ判決書ノ要件トシテ第一項ニ記載シタル事項ノ外公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘキコトヲ定ム

第七十條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ之ヲ作ルヘシ

本條ハ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本、抄本ノ作成ニ關スルモノナリ

裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ハ其ノ謄本又ハ抄本ヲ作成スルヲ必要トスルコトアリ之ヲ送達シ又ハ之ヲ請求者ニ下付スル場合ノ如シ斯ル場合ニ於テハ通常原本ヲ謄寫シ又ハ之ヲ抄録シテ之ヲ作成スヘキモノナレトモ原本ノミニ依ルヘキモノトスルトキハ不便ノ場合アルヲ免レサルカ故ニ謄本ニ依リテモ亦之ヲ作成スルコトヲ許スコトトセリ

第七十一條 官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ  
書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

本條ハ官吏、公吏ノ作ルヘキ書類ノ方式ヲ規定シタルモノニシテ現行法第二十條第一項ニ相當スルモノナリ現行法ニ於テハ書類ノ作成其ノ方式ニ違背シタルトキ之ニ無効ノ制裁ヲ付シタレトモ本案

ハ此ノ主義ヲ採用セス之ヲ正當ノ文書ト見ルヘキヤ否ヤハ事實ノ問題トシテ解決スヘキモノト爲ス

第七十二條 官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

本條ハ書類ノ改竄ニ關スル規定ニシテ現行法第二十一條ニ相當スルモノナリ現行法ノ下ニ於テハ書類ノ改竄ニ關シ一定ノ方式ヲ定メ之ニ違背シタルトキハ其ノ改竄ノ效力ヲ否認スルノ主義ヲ採レトモ本案ハ此ノ如キ主義ニ依ラス前條ト同シク事實ノ問題トシテ之ヲ決スヘキモノト爲ス

第七十三條 官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

本條ハ官吏、公吏ニ非サル者ノ作成スヘキ書類ノ方式ヲ規定シタルモノニシテ現行法第二十條第二項ニ相當スルモノナリ

第七十四條 官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代書セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇

印スヘシ  
他人ヲシテ代書セシメタル場合ニ於テハ代書シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

本條ノ趣旨現行法第二十一條ノ一ニ同シ

### 第七章 送達

現行法ハ送達ノ規定ヲ總則中ニ置キ僅ニ第十八條及第十九條ノ二ヶ條ヲ設クルニ過キス而シテ其ノ規定不備ニシテ實際ノ運用上不便尠シトセス本案ニ於テハ新ニ一章ヲ設ケテ必要ナル規定ヲ網羅シ現行法ノ不備ヲ補正セリ

第七十五條 被告人、私訴當事者、代理人、辯護人又ハ輔佐人ハ書類ノ送達ヲ受クル爲書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ裁判所ニ届出ツヘシ裁判所所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ者ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ  
前項ノ規定ニ依ル届出ハ同一ノ地ニ在ル各審級ノ裁判所ニ對シ其ノ效力ヲ有ス



前二項ノ規定ハ在監者ニ之ヲ適用セス

送達ニ付テハ送達受取人ハ之ヲ本人ト看做シ其ノ住居又ハ事務所ハ之ヲ本人ノ住居ト看做ス

本條ハ訴訟關係人ノ住居ノ届出及送達受取人ニ關スル規定ニシテ現行法第十八條ニ相應スルモノナリ本案ニ於テハ現行法ニ於ケル假住所ノ制ヲ廢シ新ニ送達受取人ヲ選任スルノ制ヲ定メ之ニ對スル送達ヲ以テ本人ニ對シテ爲シタル送達ト同一ノ效力ヲ有スルモノト爲ス

住居ノ届出又ハ送達受取人ノ届出ハ同一ノ地ニ在ル各審級ノ裁判所ニ對シテ其ノ效アルモノトシ審級ヲ異ニスル毎ニ重ネテ届出ヲ爲スノ煩ヲ省キ又在監者ニハ是等ノ届出ヲ要セサルモノトス

第七十六條 住居、事務所又ハ送達受取人ヲ届出ツヘキ者其ノ届出ヲ爲ササルト

キハ裁判所書記ハ書類ヲ郵便ニ付シテ其ノ送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本條ハ現行法第十八條後段ニ相當スル規定ナリ現行法ニ於テハ裁判所所在地ニ住セサル訴訟關係人カ假住所ノ届出ヲ爲ササルトキハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ述フルコトヲ得サルモノトスレトモ此ノ如キハ全ク送達ヲ爲サスシテ送達シタルト同一ノ效果ヲ生セシムルモノニシテ酷ニ失スルノ嫌

アリ故ニ本案ハ住居、事務所又ハ送達受取人ヲ届出ツヘキ者其ノ届出ヲ爲ササルトキハ書類ヲ郵便ニ付シ之ヲ以テ送達ノ效力ヲ生スヘキモノトセリ

第七十七條 檢事ニ對スル送達ハ書類ヲ檢事局ニ送付シテ之ヲ爲スヘシ

本條ハ檢事ニ對スル送達ヲ規定シタルモノナリ檢事ニ對スル送達ハ單ニ書類ヲ檢事局ニ送付スルヲ以テ足ルモノトス是レ現今ニ於テモ實際行ハルル所ナリト雖モ何等明文ナキトキハ疑ヲ生スルノ餘地アリ是レ新ニ本條ヲ設クル所以ナリトス

第七十八條 被告人ノ住居、事務所及現在地知レサルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得

被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル場合ニ於テ他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

本條ハ公示送達ヲ爲スヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ公示送達ヲ爲スヘキ場合ハ被告人ノ住居、事務所、現在地共ニ知レサルトキ及被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在リテ他ノ方法ヲ以テ送達スルコト能ハサルトキニ限ル裁判權ノ及ハサル場所ハ外國ノ外國慣例又ハ條約ニ依リ特ニ裁判權ノ行使ヲ除外シタル場所ヲモ包含ス此ノ如キ場所ニ於テモ條約又ハ外國政府ノ承認ニ依リ特ニ送達ヲ爲ス

ノ方法存スルトキハ之ニ從フヘキモノナリ

五八

第七十九條 公示送達ハ裁判所ノ命シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示シテ之ヲ爲スヘシ

公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ裁判所書記召喚狀ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ掲載シタル日ヨリ三十日、其ノ他ノ公示送達ハ揭示場ニ公示ヲ始メタル日ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

本條ハ公示送達ノ手續及效力發生ノ時期ヲ規定シタルモノナリ

第八十條 書類ノ送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス但シ司法警察官ノ發スル書類ノ送達ニ付テハ裁判所書記ニ屬スル職務ハ司法警察官之ヲ行ヒ執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察吏之ヲ行フ

本條ハ現行法第十九條ニ相當スル規定ニシテ別段ノ規定アル場合ノ外書類ノ送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス唯司法警察官ノ發スル書類ノ送達機關ハ民事訴訟法ニ依ルコトヲ得サルヲ以テ但書ノ規定ヲ設ケタリ

## 第八章 期間

本章ハ現行法第十五條及第十六條ノ規定ヲ修正シタルニ過キス現行法ハ第十七條ニ於テ期間經過ハ原則トシテ失權ノ效果ヲ生スルコトヲ規定スト雖本案ニ於テハ此ノ如キ概括的規定ヲ削除シタリ蓋シ期間經過ノ效果ハ各場合ニ付規定スルヲ相當トスルヲ以テナリ例ヘハ公訴ノ時効ハ公訴權ノ消滅ヲ來シ上訴期間ノ經過シタルトキ之ヲ不適法トシテ棄却スヘキカ如シ

第八十一條 期間ノ計算ニ付テハ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ日、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但シ時効期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス

多クモ

月及年ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算ス  
期間ノ末日日曜日、一月一日二日四日、十二月二十九日三十日三十一日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時効期

間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

六〇

本條ハ現行法第十五條ノ規定ニ相當スルモノナリ本條ニ於テ八月又ハ年ヲ以テスル期間ニ付テモ日ヲ以テスルモノト同シク初日ヲ算入セサル旨ノ明文ヲ設ケ現行法ニ於テ月ヲ三十日トセルヲ改メ民法刑法等ノ例ニ從ヒ月モ亦年ト同シク曆ニ從フヘキモノト爲シ尙現行法ト同シク期間ノ最終日休暇ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セサル原則ヲ規定シタレトモ現行法ニ於テハ休暇日ノ意味不明ナルヲ以テ之ヲ列舉シタリ

時効期間ニ付例外ヲ設ケタルハ現行法ニ同シ

第八十二條 法定ノ期間ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ海陸路二十里毎ニ一日ヲ加フ其ノ距離又ハ端數二十里ニ滿タサルモ五里以上ナルトキハ一日ヲ加フ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス

外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

本條ハ現行法第十六條ノ規定ニ相當スルモノナリ其ノ里程ヲ増加シタルハ現今ニ於ケル海陸交通ノ實情ニ適合セシムルノ趣旨ニ外ナラス

## 第九章 被告人ノ召喚、勾引及勾留

現行法ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關スル規定ヲ豫審ノ章ニ置キタルモ此等ノ規定ハ本來豫審及公判ニ共通シ搜索ニ付テモ適用スヘキ場合アルヲ以テ本案ハ改メテ之ヲ總則中ニ置クコトトセリ本章ニ於テハ裁判所ノ爲ス召喚、勾引及勾留ヲ本位トシテ規定シ豫審ニ於テモ同一ノ規定ニ依ルヘキコトヲ明ニシ尙檢事及司法警察官ノ爲スヘキモノニ付規程ヲ定メタリ

第八十三條 裁判所公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ

被告人ヲ召喚スルハ之ヲ訊問スルカ爲ナリ裁判所公訴ヲ受理シタルトキハ直ニ公判ヲ開キテ被告人ヲ訊問スル場合ナルト公判準備ノ爲メ之ヲ訊問スル場合ナルトヲ問ハス別段ノ請求ヲ俟タスシテ被告人ヲ召喚スヘキモノナリ豫審ニ於テモ第三百二條ニ依リ被告人ヲ訊問スヘキモノナルヲ以テ本條及ヒ第三百二條ニ依リ被告人ヲ召喚スヘキモノナリ

第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人ヨリ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出頭シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘ

受訴裁判所ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ニ對シテハ監獄官吏ニ通知シテ之ヲ召喚スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人監獄官吏ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

本條ハ召喚ノ方式ヲ規定ス召喚ハ召喚狀ヲ發シテ爲スヲ本則トシ之ヲ第一項ニ示ス尙本條第二項第三項ニハ本則ニ依ラサル簡易ノ方法ヲ定メ之ヲ以テ召喚狀ノ送達ト同一ノ效力ヲ有スルモノトセリ

第八十五條 召喚ニ因リ出頭シタル被告人ハ速ニ之ヲ訊問スヘシ

被告人裁判所構内ニ在ルトキハ召喚ヲ爲ササル場合ニ於テモ之ヲ訊問スルコトヲ得

召喚ハ訊問ノ爲ニ爲スモノナルヲ以テ召喚ニ應シテ出頭シタル被告人ハ速ニ之ヲ訊問セサルヘカラス本條第一項此ノ趣旨ヲ明ニス被告人ノ訊問ハ召喚ニ依リ裁判所ニ出頭セシメテ之ヲ爲スヲ本則トスルモ被告人裁判所構内ニ在ル場合ニ於テハ其ノ訊問ヲ受クル爲メ任意ニ出頭シタル場合ナルト偶然來合セタル場合ナルトヲ分タス本則ニ依ラスシテ直ニ之ヲ訊問スルコト得ヘキモノト爲ス本條第

二項此ノ趣旨ヲ明ニス

第八十六條 召喚ヲ受ケタル被告人期日ニ出頭セサルトキハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

本條ノ趣旨現行法第七十一條ニ同シ

第八十七條 左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

- 一 被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ
  - 二 被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ
  - 三 被告人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ
- 五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ前項第一號ノ場合ヲ除クノ外被告人ヲ勾引スルコトヲ得ス但シ前條及第六百六條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

本條ハ被告人ヲ召喚スルコトナク直ニ之ヲ勾引スルコトヲ得ヘキ場合ヲ定メタルモノナリ  
現行法ニ依レハ豫審ニ於テハ罰金以下ノ刑ニ該ル事件ト禁錮以上ノ刑ニ該ル事件トヲ問ハス一定ノ條件ヲ具備スルコトヲ前提トシテ被告人ヲ勾引スルヲ得ヘキモトシ公判ニ於テハ禁錮以上ノ刑ニ該

ル事件ニ付テノミ何時ニテモ被告人ヲ勾引スルコトヲ得ヘキモノト爲ス本條ハ豫審ト公判トヲ區別セス一定ノ條件ノ下ニ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得ヘキモノト爲ス直ニ勾引スルコトヲ得ヘキ場合ハ第一號乃至第三號ニ之ヲ掲ク即チ此ノ條件ノ一ヲ具備スレハ召喚狀ヲ發セスシテ直ニ勾引スルコトヲ得全然之ヲ具備セサルトキハ前條ニ依ルニ非サレハ之ヲ勾引スルコトヲ得ス本條第二項ハ事件ヲ標準トシテ更ニ制限ヲ設ク即チ五百圓ヲ超過セサル罰金、拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ第一項第一號ノ場合即チ被告人定リタル住居ヲ有セサル場合ニ限り直ニ勾引スルコトヲ許シ第一項ニ示シタル他ノ原由アルモ之ヲ許サス蓋シ斯ル輕微ノ罪ニ付テハ假令第二號又ハ第三號ノ條件ヲ具備スルモ犯人一定ノ住居ヲ有スルトキハ一旦之ヲ召喚シ召喚ニ應セサルトキ始メテ勾引スルヲ妥當トシ召喚ヲ爲サスシテ直ニ其ノ自由ヲ拘束スルハ酷ニ失スルノ嫌アリ反之一定ノ住居ヲ有セサル浮浪ノ徒ハ之ヲ召喚スルモ概シテ其ノ效ナカルヘク其ノ犯シタル罪ノ如何ニ拘ハラス之ヲ召喚シテ然ル後之ヲ勾引スヘキモノトスルハ徒ニ無用ノ手續ヲ履ミテ事ヲ遷延セシムルニ過キサルヘシ是レ第二項ノ規定ヲ設クル所以ナリ勾引ノ條件ニ付五百圓ヲ超過スル罰金ヲ懲役禁錮ト同一ニ取扱ヒタルハ多額ノ罰金ノ免脱ヲ圖ルノ餘地ヲ少カラシメムカ爲ナリ殊ニ第三號ノ條件アル場合ニ之ヲ必要トスルハ交通ノ便發達セル現時ニ於テハ全財産ヲ携ヘ逃亡シ多額ノ罰金ノ免脱ヲ圖ルコト稀ナリトセス若シ逃亡シ又ハ逃亡スルノ虞アル場合ニ直ニ勾引スルコトヲ得サレハ徵稅ヲ目的トスル法規ノ如キ

ハ殆ト其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ラム

第八十八條 被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

本條ハ勾引ノ方式ヲ定メ現行法ト同シク勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘキモノトセリ勾引狀ノ方式ハ第九十七條ヲ以テ之ヲ定ム

第八十九條 勾引シタル被告人ハ裁判所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ之ヲ

訊問スヘシ其ノ時間内ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

本條趣旨現行法第七十三條ニ同シ

第九十條 第八十七條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引スルコトヲ得ヘキ原由アルトキ

ハ之ヲ勾留スルコトヲ得

被告人ノ勾留ハ第八十五條又ハ前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ被告人逃亡シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
被告人監獄ニ在ルトキハ第一項ノ原由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得

現行法ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル事件ニ限り勾留ヲ爲スコトヲ得セシメタルモ第八十七條ニ付説明シタ

第一編 總則 第九章 被告人ノ召喚勾引及勾留 第六五  
 本條ノ規定ハ被告人ノ召喚勾引及勾留ニ關スルニ在リ  
 現行法ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル事件ニ限り勾留ヲ爲スコトヲ得セシメタルモ第八十七條ニ付説明シタ  
 第六五

ル如ク逃亡又ハ罪證湮滅ニ因リ多額ノ罰金ヲ免ントスル者ニ對シテ處罰ノ目的ヲ達スル爲ニハ其ノ自由ヲ拘束スルノ己ムヲ得サル場合アリ又一定ノ住居ヲ有セサル浮浪ノ徒ニ至リテハ其ノ犯ス所極メテ輕微ナルトキト雖之ヲ拘束スルニ非サレハ刑事訴追ノ目的ヲ達スル能ハサルコト多カルヘキヲ以テ本條第一項ニ於テ勾留ノ條件ヲ勾引ノ條件ト同一ニシ現行法ノ制ヲ改メタリ勾留ヲ爲スニハ其ノ原由存スルヤ否ヤヲ審査スルコトヲ要スルヲ以テ原則トシ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス唯被告人逃亡シタルトキハ訊問セスシテ直ニ勾留スルコトヲ得ヘキモノトス此ノ點ハ現行法第七十五條ト異ナルコトナシ

審理ノ必要上他ノ監獄ニ在ル者ヲ受訴裁判所所在地ノ監獄ニ勾留シ又ハ既決ノ囚徒ヲ拘置監ニ移ス場合アリ此ノ如キ場合ニハ新ニ自由ヲ拘束スルモノニ非サルカ故ニ別ニ第八十七條ノ條件ヲ審査スルコトヲ要セス是レ本條第三項ノ規定ヲ設クル所以ナリ

### 第九十一條 被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

本條ハ勾留ノ方式ヲ定メ現行法ト同シク勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘキモノトス勾留狀ノ方式ハ第九十七條ヲ以テ之ヲ定ム

### 第九十二條 被告人ヲ勾留シタル場合ニ於テハ其ノ身體及名譽ヲ保全スルコトニ

#### 注意スヘシ

被告人ノ勾留ハ未タ其ノ罪責定マラサルニ先タチ身體ノ自由ヲ拘束スルモノニシテ其ノ目的トスル所ハ逃亡ヲ防キ罪證湮滅ノ虞ナカラシムルニ外ナラス故ニ罪責ノ定マルニ至ル迄清白人ヲ以テ之ヲ遇シ目的ヲ達成スルニ必要ナル限度ヲ超ヘテ之ニ苦痛ヲ與フルコトアルヘカラス本條此ノ趣旨ニ則リ努メテ被拘禁者ノ身體名譽ノ保全ニ注意スヘキコトヲ訓示ス此ノ事タルヤ事理極メテ明白ナルモ豫斷ノ爲メ失誤ニ陥リ世上ノ評論ニ動サレテ不當ノ取扱ヲ爲シタルノ例絶無ニ非ス事極メテ緊要ナルヲ以テ特ニ訓示的規定ヲ置キ萬一ノ失ナカラシメンコトヲ期ス

### 第九十三條 裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第八十三條乃至第九十一條ニ規定スル處分ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

召喚、勾引、勾留ハ裁判所之ヲ爲スヲ原則トスルモ事態急速ヲ要スル場合アルヘキヲ以テ其ノ必要ニ應スル爲メ裁判長自ラ其ノ處分ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキモノトセリ

第九十四條 裁判長ハ被告人ノ現在地ノ豫審判事若ハ區裁判所判事、法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事又ハ司法警察官ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス  
囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ

現行法第七十條第七十一條ニ於テハ召喚ノ囑託ヲ許シ召喚ニ應セサルトキ受託判事ニ於テ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ルモノトシ勾引ノミノ囑託ヲ許サス本案ニ於テハ此ノ制ヲ改メ勾引ノミノ囑託ヲ爲シ得ヘキモノト定ム蓋シ勾引ノ條件具備スルトキハ直ニ勾引シ得サルノ事由ナク殊ニ被告人遠隔ノ地ニ在リ逃亡ノ虞アル場合ニ於テハ受託裁判所ノ裁判長直ニ勾引ノ囑託ヲ爲シ受託官署直ニ之ニ應シテ勾引狀ヲ發スルニ非サレハ時機ヲ失スルノ虞アルヲ以テナリ本條第二項ニ於テ受託官廳ノ範圍ヲ擴メタルハ機宜ノ處置ヲ爲スニ便ナラシムカ爲ナリ  
轉囑ニ付テハ現行法ニハ明文ナク解釋上之ヲ是認ス本案ハ明文ヲ以テ之ヲ定メ司法警察官ヲ除クノ外皆轉囑ノ權限アルコトヲ認メタリ受託ノ權限ナキ者囑託ヲ受ケタルトキ直ニ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルヲ得セシムルハ迅速ニ事ヲ處理シ時機ヲ失スル虞ナカラシムカ爲ナリ

受託官署ハ受託裁判所ヨリ直接ニ囑託ヲ受ケタル場合ト轉囑ノ場合ト囑託ノ移送ヲ受ケタル場合トヲ問ハス囑託ニ依リ勾引狀ヲ發スヘキモノニシテ囑託ヲ發シタル官署ノ勾引狀ヲ執行スヘキモノニ非ス是レ本條第四項ノ定ムル所ナリ

第九十五條 被告人ノ所在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢事長ニ被告人ノ所在ヲ送付シ其ノ捜査及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事長ハ其ノ管内ノ檢事ヲシテ勾引狀ヲ發シ捜査及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

現行法第八十條ハ被告人ノ所在不明ナル場合ニ於テ豫審判事ニ限リ檢事長ニ捜査及逮捕ヲ囑託スルノ權アルモノト爲ス本案ハ公判ニ於テモ亦同様ノ必要アルヲ慮リ裁判長ニモ此ノ權限アルヲ認メ尙逮捕ノ囑託ニ代フルニ勾引ノ囑託ヲ以テシ囑託ヲ受ケタル檢事長ハ管内ノ檢事ヲシテ勾引狀ヲ發シ捜査及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘキモノト定ム

第九十六條 前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リテ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ  
被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル裁判所ニ送致スヘシ此ノ場

合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

七〇

本條ハ受託官署ノ履行スヘキ手續ヲ定メ囑託ニ依リ勾引狀ヲ發シタルトキハ其ノ執行ニ因リ被告人ヲ受取リタル後四十八時間内ニ之ヲ取調ヘ人違ナキコトヲ確メタル上速ニ之ヲ指定セラレタル裁判所ニ送引スヘキモノト爲ス

第二項末段ハ送致ヲ受ケタル官署ノ履ムヘキ手續ニシテ第八十九條ヲ補足シタルモノナリ

第九十七條 召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命判事之ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時、場所及召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ  
勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

裁判長第九十三條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ

ハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

召喚狀、勾引狀、勾留狀ニ記載スヘキ事項ハ現行法ニ同シ裁判所之ヲ發スルトキハ裁判長裁判所ヲ代表シテ記名捺印シ裁判長第九十三條ニ依リ之ヲ發スル場合ニハ裁判所ノ發スル場合ト區別スル爲其ノ旨ヲ記載シテ裁判長之ニ記名捺印シ受命判事第九十三條ニ依リ之ヲ發スル場合ニ於テハ受命判事之ニ記名捺印ス

本條第三項及第四項ニハ現行法ニ存セサル規定アリ即チ召喚狀ニハ之ニ應セサレハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘク勾留狀ニハ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘキモノトス勾留狀ニ勾留スヘキ監獄ヲ指定スルモ第百十條ノ適用ニ依リ同一ノ勾留狀ヲ以テ被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ妨ケス

第九十八條 前條第一項及第二項ノ規定ハ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

囑託ニ因リ發スル勾引狀ニハ一般ノ記載事項ノ外囑託ニ因リ發スル旨ヲ記載シ且囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名ヲ明示シ引致スヘキ裁判所ヲ明ニス



第九十九條 召喚狀ハ之ヲ送達ス

現行法第七十六條第三項前段ニ同シ

第百條 勾引狀又ハ勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ監獄官吏之ヲ執行ス

檢事ノ指揮ニ依リ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テハ之ヲ發シタル官署ハ其ノ原本ヲ檢事ニ送付スヘシ

勾引狀及勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ因リ之ヲ執行ス勾引狀ハ總テ司法警察官吏ヲシテ之ヲ執行セシメ勾留狀ハ一般ノ場合ニハ司法警察官吏ヲシテ執行セシメ監獄ニ在ル被告人ニ對シ發シタルモノハ監獄官吏ヲシテ之ヲ執行セシム勾引狀、勾留狀執行ノ指揮ハ檢事之ヲ爲スヲ本則トスレトモ急速ヲ要スル場合ニハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事ヲシテ直接ニ司法警察官吏ニ對シテ執行ノ指揮ヲ爲スコトヲ得セシム裁判所、受命判事又ハ豫審判事檢事ノ在ラサル出張先ニ於テ執行指揮

ヲ爲スノ必要ヲ生スル場合アルヘキヲ以テナリ

勾引狀、勾留狀ノ執行ハ原本ニ依リ爲スヘキモノニシテ謄本又ハ抄本ニ依リ爲スヘキモノニ非ス故ニ執行ヲ指揮スヘキ檢事ニハ必ス其ノ原本ヲ交付スヘキモノトス

第百一條 勾引狀ハ數通ヲ作り之ヲ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得

現行法ニ於テハ正本數通ヲ作ルヘキ旨ヲ規定セリ思フニ正本ト稱スルハ原本ニ外ナラス本案ニ於テハ正本ナル名稱ヲ認メス且實際ノ取扱ニ從ヒ常ニ原本ニ依リ執行スルコトト定メタルヲ以テ數人ノ司法警察官吏ヲシテ執行セシムル場合ニ於テハ原本數通ヲ作りテ之ニ交付スヘキモノト爲ス

現行法ニハ勾留狀ニ付テモ同様ノ規定ヲ設ク本案ニ於テ之ヲ探ラサルハ數通ノ令狀ヲ以テ廣ク被告人ヲ搜查スル場合ニハ必ス勾引狀ニ依ルヘキモノニシテ勾留狀ニ依ルヘキ場合ナキヲ以テナリ

第百二條 司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

現行法ハ司法警察官吏管外ニ於テ自ラ令狀ノ執行ヲ爲スコトヲ許サス此ノ如クナルトキハ急速ヲ要スル場合ニ應スル能ハサルカ故ニ本條ヲ設ケ之ヲ補正シタリ

第百三條 勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル裁判所ニ引

勾引狀  
又ハ其ノ地ノ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

致スヘシ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付テハ之ヲ發シタル官署ニ引致スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

第四百四條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ其ノ贍本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

現行法ハ被告人ノ請求ニ依リ合狀ヲ示スヘキ旨ヲ規定スルモ勾引狀又ハ勾留狀ハ執行ノ際必ス之ヲ被告人ニ示シ尙請求アレハ其ノ贍本ヲ交付スルヲ相當トシ本二條ノ如ク改メタリ

現行法ハ被告人ノ請求ニ依リ合狀ヲ示スヘキ旨ヲ規定スルモ勾引狀又ハ勾留狀ハ執行ノ際必ス之ヲ被告人ニ示シ尙請求アレハ其ノ贍本ヲ交付スルヲ相當トシ本二條ノ如ク改メタリ

第四百五條 軍所用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍所用ノ廳舎又ハ艦船ノ外ニ在リテ現ニ勤務ニ從事スル軍人、軍屬又ハ陸軍海軍所屬ノ學生生徒ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ハ軍所用ノ廳舎及艦船ノ内ニ於テモ之ヲ執行スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリト雖其ノ域内ノ秩序ヲ重ンスルノ趣旨ニ於テ特別ノ法則ヲ設ケ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ之ヲ示シテ引渡ヲ求ムルノ方法ヲ採ルコトトセリ

前項以外ノ場所ニ於テ現ニ勤務ニ從事スル軍人等ニ對シ勾引狀、勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テモ同様ノ理由ニ因リ特別ノ執行方法ヲ定ム

第四百六條 裁判長ハ必要アルトキハ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スル

コトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ其ノ場所ニ引致シタル時ヨリ之ヲ起算ス

召喚ハ裁判所ニ出頭ヲ命スルコトヲ本則トス然レトモ裁判長必要ト認ムルトキハ裁判所外指定ノ場所ニ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得又勾引ハ裁判所ニ引致スルヲ本則トスレトモ被告人故ナク前上ノ命令ニ從ハサルトキハ之ヲ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得セシム是レ其ノ場所ニ於テ被告人ヲ訊問スルノ必要ヲ生スヘキ場合ヲ慮リタルモノナリ

第四百七條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要

アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ之ヲ裁判所ニ引致スヘク又勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ勾留狀ニ指示シタル監獄署ニ拘禁スルヲ本則トスレトモ遠隔ノ地ヨリ護送スルカ如キ場合ニハ直ニ指定ノ場所ニ引致シ難キコトアリ故ニ本條ヲ設ケ護送ノ途中必要アルトキハ假リニ之ヲ最寄ノ監獄ニ留置シ得ヘキモノト爲ス

第百八條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ四十八時間内ニ訊問スヘキモノニシテ其ノ間拘束ヲ繼續スルトキハ之ヲ裁判所ニ留置スルヲ本則トスルモ時トシテ之ヲ不便トスルコトアルヘキヲ以テ本條ヲ設ケ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得セシム

第百九條 勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ記名捺印スヘシ  
勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ之ヲ差出スヘシ

勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取りタル檢事其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

本條第一項第二項ハ其ノ趣旨現行法第七十七條第三項第四項ト異ナルコトナシ  
勾引ニハ四十八時間ノ制限アリ其ノ起算ハ引致ノ時ヨリスルヲ以テ執行後檢事ヲシテ勾引狀ニ引致ノ日時ヲ記載セシムルコトトセリ

第百十條 檢事ハ裁判所ノ同意ヲ得テ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得

勾留ハ勾留狀ニ指定シタル監獄ニ拘禁スルヲ本則トスレトモ取調ノ都合上之ヲ他ノ監獄ニ移ス必要ヲ生スルコトアリ今日ノ實際ノ取扱ニ於テハ此ノ場合ニハ別ニ勾留狀ヲ發セス檢事ノ指揮ニヨリ移監スルヲ得ヘキモノトセルモ明文上ノ根據ナシ本案ハ之ヲ明文ニ示スヲ妥當トシ且勾留ノ執行ハ裁判ノ執行ニシテ移監ハ其ノ裁判ヲ以テ指定シタル監獄ヲ離レシムルモノナルヲ以テ裁判所ノ同意ヲ得ルコトヲ必要ト爲ス

第百十一條 勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍内ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同

勾留狀又ハ勾引狀ニ依リ監獄ニ拘禁セラレタル被告人ハ刑事訴訟法監獄法其ノ他法令ノ定ムル所ニ從ヒ拘束ヲ受クヘキモノナリ故ニ是等ノ法令ヲ以テ特ニ制限ヲ加ヘサル以上ハ他人トノ接見又ハ書類若ハ物ノ授受ニ付束縛ヲ受クヘキモノニ非ス本條ハ此ノ趣旨ヲ明ニスル爲他人トノ接見又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲シ得ルコトヲ本則トシテ規定シ特ニ之ヲ禁スヘキ場合ハ明確ニ本法ニ之ヲ規定シ其ノ取締ニ付必要トスル規定ハ監獄法等ヲ以テ之ヲ定ム

第一百十二條 裁判所ハ罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ヲ圖ル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類其ノ他ノ物ヲ檢閲シ、其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得但シ糧食ハ其ノ授受ヲ禁シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

裁判所檢閲ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢事之ヲ爲スコトヲ得

現行法第八十五條第二項ニ於テハ接見及書類若ハ物ノ授受ノ禁止ニ關シ別ニ條件ヲ限定セス本案ハ之ニ制限ヲ加ヘ罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ヲ圖ルノ虞アルニ非サレハ其ノ禁止ヲ爲スコトヲ得サルモノトシ書類ノ檢閲ニ付テモ同一ノ條件ニ從フヘキモノト爲ス殊ニ糧食ノ授受ヲ禁シ又ハ之ヲ差押フル

ハ人身ノ保護ヲ全クスル所以ニ非サルヲ以テ特ニ明文ヲ設ケテ之ヲ認容セサルコトヲ明ニス糧食ノ授受ハ之ヲ禁スルコトヲ得サルモ之ヲ檢閲スルコトヲ妨ケス若シ檢閲ノ結果交付スヘカラサル事由ヲ發見シタル場合ニ於テハ其ノ事由ニ因リ機宜ノ措置ヲ爲スヲ妨ケサルハ勿論ナリ現行法ハ監房ヲ別異スルノ規定ヲ設クルモ監房ヲ別異スルハ接見禁止ニ伴ヒ當然爲シ得ヘキ措置ニシテ特ニ明文ヲ以テ之ヲ定ムルノ要ナキモノトシ之ヲ削除セリ

裁判所ニ於テ事件ノ内容ヲ調査スル能ハサル場合アリ控訴裁判所未タ訴訟記録ノ送致ヲ受ケサル場合ノ如シ此ノ如キ場合ニ於テハ事實上裁判所ニ於テ檢閲ヲ爲スコトヲ得ス之ニ由テ本條第二項ノ規定ヲ設ク

第一百十三條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得

身體ノ自由ハ最モ尊重スヘキモノナルヲ以テ被告人ノ勾留期間ハ努メテ之ヲ短縮セサルヘカラス故ニ本案ハ事件處理ノ常態ニ覈ヘ其ノ期間ヲ二月トスルノ規定ヲ設ケタリ然レトモ被告人多數ナルカ又ハ犯罪事實ノ内容複雑ナルカ爲二月以上ニ渉ルノ已ムヲ得サルニ至ルコトナシトセス故ニ裁判所ノ決定ヲ以テ勾留ヲ更新スルヲ得ヘキモノトセリ裁判所勾留ヲ更新スル場合ニ於テモ其ノ期間ハ二月ニ限定セララルコト勿論ニシテ若シ尙ホ足ラサルトキハ更ニ更新ノ決定ヲ爲ササルヘカラス

第一百四條 勾留ノ原由消滅シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

現行法ニ勾留取消ノ規定ナキハ缺點ナリ勾留ノ原因消滅シタルトキハ前條所定ノ期間内ト雖之ヲ取消スヘキハ當然ナリ本條此ノ趣旨ヲ明ニシ現行法ノ缺點ヲ補足ス

第一百五條 勾留セラレタル被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、夫、被告人ノ屬スル家ノ戸主若ハ辯護人ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得

現行法亦保釋ヲ認ムルモ保釋ノ請求ヲ爲シ得ヘキ者ヲ被告人ニ限レルハ狹キニ失ス本條ニ列舉スル者ハ皆被告人ノ利益ヲ圖ルヘキ地位ニ在リ就中被告人ト近親ノ關係アル者ハ其ノ拘束ヲ受クルト否トニ付深キ利害ヲ有ス之ニ由テ本案ハ此等ノ者ニモ保釋ヲ請求スルノ權利アルコトヲ認メタリ

第十六條 保釋ノ請求アリタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ  
保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ  
保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

本條第一項第二項ハ現行法第五百十條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第三項ノ規定ヲ設ケタルハ保證金ノミヲ以テ出頭ヲ確保スルコトヲ得ナル場合ニ於テモ尙住居ノ制

限ヲ條件トシテ保釋ヲ許スコトヲ得ヘキモノトシ成ルヘク拘束ヲ解キ得ヘキ範圍ヲ廣カラシメムトスルノ趣旨ニ出テタルナリ

第十七條 保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ納メシメタル後之ヲ執行スヘシ

檢事ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ納メシムルコトヲ得

檢事ハ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地内ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分ナル資産ヲ有スル者ノ差出シタル保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得保證書ニハ保證金額及何時ニテモ其ノ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ

保釋許可ノ決定ハ保證金ヲ差出スコトヲ條件トスルモノナルヲ以テ其ノ執行ハ保證金ヲ納付シタル後ニ非サレハ爲スコトヲ得ス

現行法ニ於テハ保證金ハ保釋ノ請求ヲ爲ス者ニ限り之ヲ納付スルヲ得ヘキモノト爲スモ此ノ如ク制限スルノ必要毫モ存セサルヲ以テ本案ニ於テハ請求者以外ノ者ヲシテ保證金ヲ差出サシムルコトヲ得ヘキモノトシ可成其ノ執行ヲ容易ナラシムルノ方針ヲ採リタリ又同一ノ趣旨ヲ以テ有價證券又ハ他人ノ保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ得セシム

第十八條 裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル被告人ヲ親族

其ノ他ノ者ニ責付シ又ハ被告人ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ被告人ノ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ召喚ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ

現行法ハ親族故舊ニ責付スヘキコトヲ規定ス本案ハ廣ク親族其ノ他ノ者ニ責付シ得ヘキコトヲ定ム故舊ノ字範圍明確ナラス字義ヲ以テ論スレハ狭キニ失スルノ嫌アルヲ以テ修正ヲ加ヘタルニ過キス

本案ハ責付ノ外新ニ被告人ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルノ處分ヲ認メタリ即チ被告人保證金ヲ納ムルコトヲ得サル爲保釋ノ處分ヲ爲スコトヲ得サルカ又ハ引受人ナキ爲責付ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テモ可成拘束ヲ解キ得ルノ途ヲ開キ勾留ノ時間ヲ短縮セムトスルノ趣旨ニ出テタルモノナリ

第一百十九條 裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ決定ヲ以テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

保釋中被告人召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス、住居ノ制限ニ違反シ又

ハ逃亡シタル爲保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃亡シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

本條第一項ノ趣旨ハ現行法第百五十六條第百六十條第二項ニ同シ勾留ノ執行停止ノ取消ヲ加ヘタルハ前條ノ規定ヲ新設シタルニ因ル

現行法ハ保證金ノ沒收ヲ不出頭ノ理由ニ因リ保釋ヲ取消ス場合ニ限ルモ本案ニ於テハ被告人逃亡シ又ハ住居ノ制限ニ違背シタル爲保釋ヲ取消ス場合ニ於テモ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒收スヘキモノト爲シタリ被告人ノ逃亡ヲ加ヘタルハ現行法ノ不備ヲ補足シタルモノニシテ住居ノ制限ニ違反シタル場合ヲ加ヘタルハ前條ノ規定ヲ新設シタル結果ナリ前上ニ示ス場合ノ外判決確定後刑ノ執行ノ爲召喚ヲ受ケ出頭セサル場合ニ於テモ保證金ヲ沒取スヘキモノト爲シタルハ審判ノ爲發シタル召喚ニ應セサリシ場合ト取扱ヲ異ニスヘキ理由ナキヲ以テナリ

第二百二十條 勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ檢事ハ沒

取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ

本條ハ當然ノ規定ニシテ説明ノ要ナシ

第二百一十一條 上訴提起期間内又ハ上訴中ノ事件ニ付勾留ノ期間ヲ更新シ、勾留ヲ取消シ又ハ保釋ヲ爲シ、責付ヲ爲シ、勾留ノ執行停止ヲ爲シ若ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テ訴訟記録原裁判所ニ在ルトキハ原裁判所其ノ決定ヲ爲スヘシ

本案ニ於テハ勾留期間ノ更新、勾留ノ取消、保釋、責付、勾留ノ執行停止及其ノ取消ハ事件ノ繫屬スル裁判所ニ於テ之ヲ爲スヲ本則トス然ルニ上訴提起期間内ハ勿論上訴中ト雖訴訟記録原裁判所ニ在ルトキハ上訴裁判所ニ於テ決定ヲ爲シ難キヲ以テ本條ノ明文ヲ設ケ原裁判所ニ於テ其ノ決定ヲ爲スヘキモノト定ム

第二百一十二條 豫審判事ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

本章ニ於テ召喚、勾引、勾留ニ關シテ裁判所又ハ裁判長ニ與ヘタル職權ハ豫審中ニ在テハ豫審判事ニ屬スヘキモノナリ當然ノ結論トシテ本章ノ規定ハ特ニ例外ヲ認メサル限リ總テ之ヲ豫審ニ適用スヘキモノトス

第二百二十三條 左ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢事ハ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

- 一 被疑者定リタル住居ヲ有セサルトキ
  - 二 現行犯人其ノ場所ニ在ラサルトキ
  - 三 現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ
  - 四 既決ノ囚人又ハ本法ニ依リ拘禁セラレタル者逃亡シタルトキ
  - 五 死體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ
  - 六 被疑者強盜又ハ窃盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ
- 司法警察官ハ前項各號ノ場合ニ於テ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

本條ハ急速ヲ要スル場合ニ於テ檢事、司法警察官ニ勾引狀ヲ發スルコトヲ許シタル規定ナリ  
本案ハ獨逸法系ノ立法ノ如ク急速ヲ要スル場合ニ於テ何等ノ制限ヲモ加ヘスシテ檢事、司法警察官

吏ニ逮捕ヲ許セルモノト其ノ趣旨ヲ異ニシ法文ニ列記シテ場合ヲ制限シ且事急速ヲ要シ判事ノ勾引狀ヲ求ムル能ハサルコトヲ條件トセリ本條各號ニ列記スル場合ハ何レモ實際ノ必要ニ顧ミテ之ヲ定メタルナリ今其ノ大要ヲ案スルニ第一號ハ被疑者定リタル住居ヲ有セサルトキ本條ノ處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ定ム本號記載ノ者ハ事急ナルニ當テ檢事又ハ司法警察官ノ勾引狀ヲ以テ拘束スルニ非サレハ其ノ所在ヲ失ヒ訴追ノ目的ヲ達スル能ハサルノ虞アルヲ以テナリ第二號ハ現行犯ノ場合ニ付規定ス本案ハ現行犯ニ付犯人其ノ現場ニ在ルトキト其ノ現場ニ在ラサルトキトヲ區別シ犯人現場ニ在ルトキハ第二百二十四條第二百二十五條ニ依リ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得ヘク現場ニ在ラサルトキハ本條ニ依リ檢事、司法警察官ノ勾引狀ヲ以テ之ヲ引致スルコトヲ得セシム第三號ハ現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタル場合ナリ現在ノ法規ノ下ニ於テモ現行犯ノ共犯ヲ發見シタルトキハ之ニ對シテ所謂現行犯處分ヲ行フコトヲ得本條ハ之ト同一ノ趣旨ニ出ツルモノナリ第四號ハ既決ノ囚人又ハ本法ニ依リ逮捕、勾引、勾留セラレタル者逃亡シタル場合ナリ外國ノ立法例多クハ此ノ場合ニ於テ檢事、司法警察官ニ逮捕狀ヲ發スルノ權ヲ與フルモ本案ニ於テハ勾引狀ヲ發スヘキモノト爲ス第五號ハ檢事、司法警察官死體ノ檢證ニ因リ其ノ事件ノ犯人ヲ發見シタル場合ナリ此ノ場合ハ事急速ヲ要スル場合多ク遷延スルニ因リ重大ナル犯人ヲ逸スルノ虞アリ故ニ現行犯ニ對スルト同一ノ處分ヲ爲シ得ヘキモノトス第六號ハ強竊盜ノ犯人ニ對シテ本條ノ處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ定ム強竊

盜ハ最モ多ク行ハルル犯罪ニシテ或ハ之ヲ常習トシ或ハ之ヲ營業トシ之カ爲良民ニ害ヲ及ホスコト甚シキモノアリ搜查ノ職ニ在ル者殊ニ司法警察官ニ於テ之ヲ勾引スルコトヲ得サルトキハ常ニ犯人ヲ逸シ良民保護ノ急ニ應スル能ハサルノ憾アリ本號ノ規定ヲ置クハ社會ノ實情ニ照シ恂ニ已ムヲ得サルニ出ツルモノナリ  
勾引狀ハ檢事自ラ之ヲ發スルノ外他ノ檢事ニ囑託シ又ハ司法警察官ニ命令シテ之ヲ發セシムルコトヲ得司法警察官モ亦他ノ司法警察官ニ命令シ又ハ囑託シテ之ヲ發スルコトヲ得ルモノトシ實際ノ運用ヲ便ニシ以テ急ニ應スルノ趣旨ヲ徹底ス

第二百二十四條 檢事又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ犯人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ  
一 檢事ハ司法警察官吏ニ犯人ノ逮捕ヲ命スヘシ必要アル場合ニ於テハ自ラ之ヲ逮捕スルコトヲ得

二 司法警察官ハ直ニ犯人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ司法警察吏ニ命スヘシ  
三 司法警察吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ逮捕スヘシ



本條ハ檢事、司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知り犯人現場ニ在ル場合ニ於テ其ノ爲スヘキ處分ヲ規定シタルモノナリ

現行法ハ單ニ現行犯アル場合ニハ直ニ逮捕スルコトヲ得ル旨ヲ規定シ何等制限ヲ定ムルコトナシ本案ニ於テハ被告人現場ニ在リテ而カモ其ノ住居氏名分明ナラサルカ又ハ勾引狀ヲ發スヘキ原因アルニ非サレハ逮捕處分ヲ爲ササルコトトセリ

第二百二十五條 現行犯人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得  
犯人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ司法警察官吏ニ引渡スヘシ

本條第一項ハ現行法第六十條ヲ修正シタルモノニシテ逮捕シ得ル場合ヲ犯人其ノ場所ニ在ルトキニ限レリ現行法ニ依レハ通常人現行犯人ヲ逮捕シタルトキハ之ヲ司法警察官ニ引致シ又ハ司法警察官吏ニ引渡スヘキモノトシ檢事ニ引致シ又ハ引渡スヘキコトヲ規定セス本條ハ之ヲ補足シ檢事ニ引渡スコトヲ得ヘキモノト爲ス

第二百二十六條 司法警察吏現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取りタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘシ

司法警察吏犯人ヲ受取りタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

本條第一項ハ現行法第五十九條第一項ト趣旨ヲ一ニシ本條第二項ハ現行法第六十一條第一項後段同條第三項ト其ノ趣旨ヲ一ニス

第二百二十七條 司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取り又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取りタルトキハ即時訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ遅クモ四十八時間内ニ書類及證據物ト共ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

司法警察官自ラ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ司法警察官吏其ノ他ノ者ノ逮捕シタル現行犯人ヲ受取り又ハ第二百二十三條第二項ニ依リ自ラ發シタル勾引狀ノ執行ニ依リ被疑者ヲ受取りタル場合ニ於テ其ノ履行スヘキ手續ヲ定メタルモノナリ檢事其ノ他權限アル官署ニ送致スヘキモノトスルハ自ラ勾引狀ヲ發スルノ權限ヲ有セサルヲ以テナリ勾引狀ニ依ル留置ノ期間ヲ四十八時間ニ制限シタルハ第八十九

第二百二十八條 司法警察官吏檢事若ハ司法警察官ノ命令ニ因リ現行犯人ヲ逮捕シ又ハ司法警察官檢事若ハ司法警察官ノ命令ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラス速ニ之ヲ命令シタル檢事又ハ司法警察官ニ引致スヘシ

司法警察官他ノ司法警察官ノ囑託ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ囑託シタル司法警察官ニ送致スヘシ

司法警察官吏第二百二十四條第一號ニ依ル檢事ノ命令ニ依リテ現行犯人ヲ逮捕シタルトキ又ハ第二百二十三條第一項ニ依ル檢事ノ命令ニ依リテ被疑者ニ對シテ勾引狀ヲ發シタルトキハ何等ノ手續ヲ爲スコトナク直ニ檢事ニ引致スヘキモノトス

第二百二十九條 檢事現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取り又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取りタルトキハ遅クモ二十四時間内ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スル場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾留狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ勾留狀ヲ發シ速ニ公訴ヲ提起シ又

ハ書類及證據物ト共ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

檢事他ノ檢事ヨリ被疑者ヲ受取りタルトキハ前項ノ手續ニ準シ處分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

檢事他ノ檢事ノ囑託ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ第一項ノ手續ニ依ラス速ニ之ヲ囑託シタル檢事ニ送致スヘシ

本條第一項ニ記載スル場合ニ於テ檢事ヲシテ勾留ノ權ヲ有セシムルハ現行法ニ於テ檢事ニ現行犯ヲ勾留スルノ權ヲ與フルト其ノ趣旨ニ於テ異ナル所ナシ此ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾留狀ヲ求ムルコト能ハサルコトヲ條件トスルハ勾引狀ヲ發スル場合ト同一ナリ唯裁判所ハ四十八時間内ニ引致シタル被告人ヲ訊問スヘキモノナルモ檢事ハ四十八時間内ニ引致シタル被疑者ヲ訊問セサルヘカラス檢事勾留狀ヲ發シタルトキハ速ニ公訴ヲ提起スルカ又ハ他管送致ノ手續ヲ爲ササルヘカラス此ノ場合ニ於テ檢事ノ發シタル勾留狀ハ其ノ效力ヲ繼續スヘキモノナリ

檢事前項ノ手續ニ依リ他ノ檢事ヨリ被疑者ヲ受取りタル場合ニ於テハ前項ノ場合ト手續ヲ異ニスヘキ理由ナキヲ以テ第二項ニ依リ之ニ準シテ處分スヘキモノトセリ此ノ場合ニハ送致シタル檢事前項

ノ手續ニ依リ既ニ勾留狀ヲ發シタルモノナルヲ以テ送致ヲ受ケタル檢事留置ノ必要ナシト認ムルト  
キハ勾留ヲ取消ササルヘカラス

檢事他ノ檢事ノ囑託ニ因リ被疑者ニ對シテ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ自ラ其ノ被疑者ヲ訊問シ  
或ハ之ヲ釋放シ或ハ之ニ對シテ勾留狀ヲ發スヘキモノニ非サルヲ以テ此等ノ手續ヲ爲サスシテ速ニ  
囑託ヲ發シタル檢事ニ送致スヘキモノト定ム

第三百三十條 現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行  
犯トス

兇器贓物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ、犯人トシテ追呼セラレ又  
ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯人其ノ  
場所ニ在リタルモノト看做ス

本案ニ於ケル現行犯ノ意義ハ現行法ニ於ケルト異ナルコトナシ本案ハ現行法ニ所謂準現行犯ナルモ  
ノヲ認メ一定ノ條件ヲ具備スルトキハ現行犯人其ノ場所ニ在ルモノト看做シ之ト同一ノ法則ニ從ハ  
シムルコトトセリ所謂準現行犯ノ場合ハ現行法ト大同小異ナリ誰何セラレテ逃走シタル場合ヲ加ヘ  
現行法第五十七條第三號ニ示シタルモノヲ除キタルノ差アルノミ

第三百三十一條 第九十七條、第九十八條及第百條乃至第百十條ノ規定ハ第百二十

三條及第百二十九條ノ勾引又ハ勾留ニ付之ヲ準用ス

本條ハ檢事ノ爲ス勾引、勾留ニ一般ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ定メタルモノナリ

第三百三十二條 五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル罪ノ現行犯ニ付テハ犯人  
ノ住居若ハ氏名分明ナラサル場合又ハ犯人逃亡スル虞アル場合ニ限り第百二十  
四條乃至前條ノ規定ヲ適用ス

五百圓ヲ超過セサル罰金、拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付勾引ノ原由ヲ制限シタルト同一ノ趣旨ヲ以テ  
此等ノ罪ノ現行犯ニ對スル檢事及司法警察官吏ノ處分ニ付テモ之ニ制限ヲ加フ即チ犯人ノ住居氏名  
分明ナラサル場合又ハ犯人逃亡ノ虞アル場合ノ外之ニ對シテ第百二十四條以下ノ規定ヲ適用スヘカ  
ラサルモノト爲ス一般ノ場合ニ於テ逃亡ノ虞アルコトヲ以テ勾引ノ原由ト爲ササルニ之ヲ現行犯處  
分ヲ爲スノ原由ト爲スハ現行犯ノ性質ヨリ來ル區別ニシテ當然ナリ

### 第十章 被告人訊問

本章ノ規定ハ現行法第九十三條乃至第百條ノ規定ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ主トシテ證據調ノ見地ヨ  
リ規定ヲ設ケ被告人ノ訊問ヲ豫審ノ章ニ置キタレトモ本案ニ於テハ被告人ノ當事者トシテ有スル防禦權ノ  
行使ニ重キヲ置キ主トシテ此ノ見地ヨリ之ヲ規定シ豫審及公判ニ共通スルモノトシテ改メテ其ノ規定ヲ總

則中ニ置クコトトシ尙之ヲ檢事及司法警察官被疑者ヲ訊問スル場合ニ準用スヘキモノトセリ

第二百三十三條 被告人ニ對シテハ先ツ其人違ナキコトヲ確ムルニ足ルヘキ事項

ヲ訊問スヘシ

被告人ノ訊問ヲ爲スニ當リテハ先ツ氏名、年齢、職業、住所等其ノ本人タルコトヲ確ムルニ足ルヘ

キ事項ヲ訊問シ人違ニ非サルコトヲ認メタル後事件ニ付訊問ヲ爲スハ當然ノ順序ナリ本條此ノ趣旨ヲ明ニス

第二百三十四條 被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキコトア

リヤ否ヲ問フヘシ

内務省令ニ依リて

被告人ノ供述ハ其ノ利益ニ歸スルト其ノ不利益ニ歸スルトヲ問ハス常ニ之ヲ裁判ノ資料ト爲スコトヲ得ヘク殊ニ被告人ノ自白カ其ノ有罪ヲ認ムルニ付最モ有力ナル證據ト爲ルヘキハ言ヲ俟タサル所ナリト雖之ヲ證據調ノ見地ヨリ規定シ被告人ヲ以テ單ニ取調ノ目的ニ過キサルモノト爲スハ失當ナリ被告人ハ訴訟ノ當事者ニシテ防禦ノ主體ナリ其ノ陳述ハ防禦權ノ行使ニ屬シ義務トシテ爲スヘキモノニ非サルカ故ニ證據ニ供スルノ目的ヲ以テ其ノ陳述ヲ強要スヘキニ非ス必スヤ事件ニ付辯解ヲ爲サシムルコトヲ本旨トセサルヘカラス從テ被告人ヲ訊問スルニ當リテハ先ツ被告事件ヲ告ケテ事

件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問ヒ之ニ防禦權行使ノ機會ヲ與ヘサルヘカラス

第二百三十五條 被告人ニ對シテハ丁寧深切ヲ旨トシ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳

述スル機會ヲ與フヘシ

被告人ノ訊問ハ被告人ヲシテ其ノ防禦權ヲ行使セシムルヲ本旨ト爲スカ故ニ常ニ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スルノ機會ヲ與ヘ其ノ言ハントスル所ヲ盡サシメサルヘカラス而シテ訊問ノ正當ナルヲ期セントセハ訊問者自ラ慎ヲ加ヘサルヘカラス即チ其ノ態度嚴正ナルト共ニ丁寧ナルコトヲ要シ其ノ心至公至平ナルヲ期スルト共ニ深切ヲ旨トスルコトヲ忘ルヘカラス本條被告人ニ臨ムニ當リテ丁寧深切ヲ旨トスヘキコトヲ訓示スルハ彼上ノ趣旨ニ外ナラス  
現行法ハ第九十四條ヲ以テ罪狀ヲ自白セシムル爲メ恐喝詐言ヲ用フヘカラストノ消極的規定ヲ設クルモ本案ハ前條及本條ニ於テ正面ヨリ其ノ趣旨ヲ示シタルヲ以テ此ノ如キ規定ヲ存置スルノ必要ナキモノトシ之ヲ刪除シタリ

第二百三十六條 被告人ヲ訊問スルトキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

裁判所及豫審判事ノ爲スヘキ被告人訊問ハ必ス書記ノ立會ヲ要ス現行法第九十二條第二項ニハ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキハ立會人二名アルコトヲ要ストアルモ本案ハ書記ノ立會ナ

クシテ訊問スルコトノ不適當ナルヲ認メ此ノ如キ例外規定ヲ置カサルコトトセリ

第三百二十七條 事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

本條ハ實質ニ於テ現行法第九十八條ト異ルコトナシ

第三百二十八條 被告人聲ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得 *ニミミミ、カウ*

本條ノ趣旨現行法第百條第一項ニ同シ

第三百二十九條 本章ノ規定ハ被疑者ヲ訊問スル場合ニ之ヲ準用ス但シ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

檢事又ハ司法警察官第百二十九條又ハ第百二十七條ニ依リ被疑者ヲ訊問スル場合ニ於テモ被告人訊問ノ本旨ニ從フヘキハ當然ナリ故ニ此ノ場合ニ於テモ前數條ノ規定ニ準據スヘキモノト爲ス

本條ニ從ヘハ檢事被疑者ヲ訊問スル場合ニ於テハ必ス書記ヲシテ之ニ立會ハシメサルヘカラス而シテ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ニハ此ノ規定ニ依ル能ハサルヲ以テ司法警察吏ヲ以テ書記ニ代フルコトトセリ

### 第十一章 押收及搜索

現行法ハ押收及搜索ヲ豫審ノ章ニ規定シタルモ本案ハ第九章ニ述フルト同一ノ理由ニ因リ之ヲ總則中ニ規定セリ

押收及搜索ハ物、住居又ハ身體ニ對シテ爲ス一種ノ強制處分ニシテ勾引、勾留ト等シク個人ノ權利ニ直接ノ關係ヲ及ホシ殊ニ犯罪ニ關與セサル者ノ利害ニ影響スルコト尠カラサルヲ以テ本案ハ公益ノ要求ト個人ノ保護トヲ參酌シテ適當ノ規定ヲ設ケタリ

押收ハ強制シテ爲スモノアリ強制處分ニ因ラサルモノアリ差押及提出命令ニ因ルモノハ前者ニ屬シ領置ハ後者ニ屬ス

第四百十條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證據物又ハ沒收スヘキ物ト

思料スルモノアルトキハ之ヲ差押フヘシ

裁判所ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

押收ノ目的物ハ證據物及沒收スヘキ物ナリ現行法第百六條ハ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ差押フルコトヲ得ル旨ヲ規定スルニ止マルヲ以テ單ニ沒收ヲ必要トスル物ニ付テハ之ヲ差押ヘ得ヘキヤ

否法文上疑ナキ能ハス故ニ本條第一項ヲ以テ之ヲ差押ヘ得ヘキコトヲ明示シタリ  
本條第二項ニ於テハ物件提出ノ命令ヲ認メタリ現行法ニ於テ此ノ命令ヲ爲シ得ルヤ否ハ議論ノ存ス  
ル所ナルヲ以テ條文ヲ以テ之ヲ明ニシ差押フヘキ物一定セルトキハ之ヲ指定シテ提出セシムルノ便  
法ヲ採用シタリ物ノ所有者、所持者又ハ保管者ニシテ此ノ命令ヲ受クルトキハ被告人ノ外皆提出ノ  
義務ヲ有ス被告人ハ供述ノ義務ナキト同シク物ヲ提出スルノ義務ヲ負フヘキモノニ非ス

第四百十一條 裁判所ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ

電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スル  
モノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當セサル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ  
官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノハ被告事件ニ關係アリト思料スルニ足  
ルヘキ狀況アルモノニ限り之ヲ差押ヘ又ハ提出セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ發信人又ハ受信人ニ通知ス  
ヘシ但シ通知ニ因リ審理ヲ妨クル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ發信人又ハ受信人ノ手ニ在ルトキハ證據物又ハ沒收物トシテ當  
然之ヲ差押フルコトヲ得ヘキモ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ニ於テ保管又ハ所持スルモノニ關  
シテハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ差押フルヲ得ス是レ本條ヲ設クル所以ナリ本條ハ被告人ヨリ  
發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタルモノト其ノ以外ノモノトヲ區別シ前者ハ常ニ通信官署其ノ他ノ占  
有者ヨリ之ヲ差押ヘ又ハ之ニ對シテ提出ヲ命スルコトヲ得後者ハ被告事件ニ關係アリト思料スルニ足  
ルヘキ狀況アルトキニ限り之ヲ差押ヘ又ハ其ノ提出ヲ命スルコトヲ得ヘキモノト爲ス是レ信書ノ祕  
密ヲ重ンシ可成被告人以外ノ者ノ蒙ルヘキ迷惑ヲ尠カラシムルノ趣旨ニ出ツルモノナリ  
本條第三項ノ規定ヲ設ケタルハ可成通信ヲ妨ケサルノ趣旨ニ出ツルモノナリ

第四百十二條 被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者

ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

本案ハ差押ノ外領置ノ處分ヲ認メ所持者ノ存セサル遺留物並任意ニ提出シタル物ニ對シテハ差押ヲ  
爲サスシテ之ヲ領置シ得ルコトトセリ領置ハ強制力ヲ用ヒサル押收ナリ

第四百十三條 裁判所ハ必要アルトキハ被告人ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所

ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アル場合ニ限り搜索ヲ爲スコトヲ得  
婦女ノ身體ノ搜索ニ付テハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

搜索ハ身體、物又ハ場所ニ就キ之ヲ爲スコトヲ得而シテ第四百四十一條ノ場合ト均シク被告人ニ對スル場合ト被告人以外ノ者ニ對スル場合トヲ區別シ前ノ場合ニハ別ニ條件ヲ定メサルモ後ノ場合ニハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アルニ非サレハ搜索ヲ爲スコトヲ得サルコトトセリ從テ現行法ノ如ク單ニ證據物藏匿ノ疑即チ單純ナル推測ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ許ササルナリ婦女ノ身體ハ其ノ生命トモイフヘキ節操ト關係ヲ有スルモノナレハ之レカ搜索ヲ爲スニ當リテハ之ニ因リ生スル無形ノ損害ヲ考慮シ特ニ慎重ノ方法ヲ以テ之ニ臨マサルヘカラス故ニ本案ハ急速ヲ要スル場合ノ外必ス成年ノ婦女ノ立會ヲ要スル旨ヲ規定シタリ

第四百四十四條 搜索ニ付テハ秘密ヲ保チ且搜索ヲ受クル者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

搜索ヲ受ケタル者ハ犯罪ニ關係アリトノ疑ヲ受クルコトヲ免レサルヲ以テ其ノ事實ヲ公表セラルル

ニ於テハ其ノ名譽及信用ヲ害スルコト尠シトセス故ニ搜索ヲ爲スニ當リテハ能ク其ノ秘密ヲ保チ且搜索ヲ受クル者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意セサルヘカラス

第四百四十五條 搜索ヲ爲シタル場合ニ於テ證據物又ハ沒收スヘキ物ナキトキハ搜索ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ其ノ旨ノ證明書ヲ交付スヘシ

一旦搜索ヲ受ケタルトキハ假令證據物又ハ沒收スヘキ物存セザリシ場合ト雖仍犯罪ニ關係アリトノ疑ヲ受クルノ虞アリ且押收物ノ有無明カナラサルトキハ甚シク搜索ヲ受ケタル者ヲシテ不安ヲ感セシムルヲ以テ證據物並沒收物ナキ場合ニ於テハ請求ニ因リ其ノ旨ノ證明書ヲ交付スヘキモノト定ム

第四百四十六條 押収又ハ搜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

押収及搜索ヲ爲スニ當リテハ其ノ目的ヲ達スル爲鎖鑰、封緘ノ開披其ノ他種々ノ處分ヲ必要トスルコトアリテ一々之ヲ列舉スルコト能ハサルヲ以テ著明ナルモノヲ例示シ廣ク必要ナル處分ヲ爲シ得ヘキ旨ノ規定ヲ設ケタリ又押収ニ因リ裁判所ノ手ニ歸シタル物即チ押收物ニ付テモ同様必要ノ處分ヲ要スルコトアルヘキヲ以テ末段ノ規定ヲ設ケ其ノ義務ヲ明ニス

第四百七十七條 軍事上秘密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押収又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ押収、搜索ノ場所ニ關スル重要ナル制限ナリ押収又ハ搜索ハ軍事上秘密ヲ要スル場所ニ於テモ絕對ニ爲シ得ヘカラサルニ非ス然レトモ之カ爲秘密ヲ漏洩スヘカラサルヤ言フ俟タス故ニ其ノ場所ヲ主宰スル者ハ秘密保持ノ必要上之ヲ拒ムコトヲ得ヘキモノト爲ス

第四百四十八條 公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押収ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押収ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ押収ノ禁止ニ關スル規定ニシテ證據物ハ裁判上必要ナルモノ又ハ他人ニ開示スルニ因リテ重大ナル利益ヲ害スルカ如キ場合ニ於テハ裁判上ノ必要ト其ノ害トヲ比シ輕重ヲ考數シテ之カ集取ヲ許スヘキヤ否ヲ決セサルヘカラス本條規定スル所ハ此ノ問題ニ關スルモノナリ公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物職務上秘密ニスヘキモノニシテ之カ開示ニ因リ帝國ノ安寧ヲ害スルトキハ押収ヲ爲スコトヲ得ス現行法ニ依レハ所持者タル公務員又ハ公務員タリシ者ニ於テ拒否スヘキモノトシ其ノ承諾ニ依ラサレハ之ヲ差押フルコトヲ得サルモノト爲ス本案ハ公務員ノ屬スル監督官廳ヲシテ拒否セシムルヲ妥當ト爲シ所持者又ハ保管者ニハ單ニ職務上ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立ツル權ヲ與フルニ止メ監督官廳ノ承諾ヲ以テ押収ノ條件ト爲シタリ  
本條第二項ニ列記セル者ハ孰レモ在職中天皇ニ直屬シ之ヲ監督スル官廳ナキヲ以テ此ノ等ノ者ヨリ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタル場合ニ於テハ勅許ヲ受クルコトヲ以テ押収ノ條件ト爲シタリ

第四百四十九條 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲保管又ハ所持スル物ニシテ他人ノ秘密ニ關スルモノニ付差押ヲ拒ムコトヲ得但シ



本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ業務上委託ヲ受ケタル爲所持スル物ニシテ他人ノ秘密ニ關スルモノモ付其ノ所持者ニ差押ヲ拒ムノ權利ヲ與ヘタル規定ニシテ大體ニ於テ現行法ト趣旨ヲ同シクス然レトモ現行法ノ如ク本人即チ委託者ノ意思ヲ顧ミサルハ理由ナキコトヲ以テ本案ニ於テハ委託者本人押收ヲ承諾シタルトキハ拒絶權ナキモノトセリ

第二百五十條 裁判所ハ押收スヘキ物又ハ搜索スヘキ場所、身體若ハ物ヲ指定シタ

ル命令狀ヲ發シ司法警察官ヲシテ押收又ハ搜索ヲ爲サシムルコトヲ得

命令狀ニハ押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

押收及搜索ノ處分ハ裁判所自ラ之ヲ行フヲ原則トス即チ裁判所ニ於テ裁判ト執行トヲ兼不行フヲ普通トス然レトモ裁判ト執行ハ必スシモ分離シ得ヘカラサルモノニ非ス裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其ノ執行ヲ他ノ機關ニ委ネ得ルモノトス即チ本案ニ於テハ便宜ヲ慮リ裁判所ニ於テ客體ヲ指定シ方式ヲ備ヘタル押收又ハ搜索ノ命令狀ヲ作り司法警察官ニ之カ執行ヲ命令シ得ルノ規定ヲ設ケタリ

第二百五十一條 司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ被

告事件ニ關スル他ノ證據物ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スルコトヲ得

司法警察官裁判所ノ命令ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ被告事件ニ關スル他ノ證據物ヲ發見シタル場合ニ之ヲ押收シ得サルニ於テハ反テ證據ノ湮滅ヲ促カスニ至ルノ虞アルヲ以テ本條ノ規定ヲ設ケタリ

第二百五十二條 司法警察官前二條ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲シタルトキハ檢

事ヲ經由シテ之ニ關スル書類及押收物ヲ裁判所ニ差出スヘシ

本條ハ前二條ノ結果トシテ當然履ムヘキ手續ヲ規定シタルモノナリ

第二百五十三條 裁判所押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據

物ヲ發見シタルトキハ假ニ之ヲ押收シテ檢事ニ送付スルコトヲ得

檢事前項ノ規定ニ依リ押收シタル物ヲ留置スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ

還付スヘシ

本條ニ於テハ裁判所押收、搜索ヲ爲スニ當リテ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假リニ之ヲ押收シテ檢事ニ送付シ得ヘキ旨ヲ定ム蓋シ偽造貨弊、偽造文書等ノ如キ顯著ナル犯罪ノ證據物ハ現ニ處分ヲ爲ス事件ニ關係ナシト雖之ヲ押收セサレハ公益ノ要求ヲ充スコト能ハサルヲ

以テナリ

第一百五十四條 押収又ハ搜索ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ爲スヘキ地ノ豫  
審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託ス  
ルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送  
スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ノ爲ス押収又ハ搜索ニ付テハ裁判所ノ爲ス押収又ハ搜索  
ニ關スル規定ヲ準用ヲ但シ第四百四十一條第三項ノ通知ハ裁判所之ヲ爲スヘシ

本條ハ押収、搜索ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ相當官署ニ囑託シ得ルコトヲ規定シタルモノ  
ニシテ第九十三條第九十四條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第一百五十五條 日出前、日没後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾  
アルニ非サレハ押収又ハ搜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ

艦船ニ入ルコトヲ得ス

猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス此ノ場  
合ニ於テハ其ノ事由ヲ調書ニ記載スヘシ

日没前押収又ハ搜索ニ著手シタルトキハ日没後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ  
得

本條ハ押収、搜索ニ關スル時ノ制限ヲ規定スルモノニシテ其ノ原則トスル所ハ現行法第七十八條第  
三項ニ同シ猶豫スヘカラサル場合ヲ例外トシタルハ物ノ所持者之ヲ攜帶シテ逃亡セムトスルカ如キ  
危急ノ場合ヲ慮リタルモノナリ

日出前著手シタル押収、搜索ヲ日没後迄繼續シ得ルコトハ既ニ間接國稅犯則者處分法ノ規定スル所  
ナリ既ニ著手シタル處分ヲ中途ニ於テ止ムルハ不便少カラス而シテ斯ル場合ニ於テ之ヲ繼續スルハ  
新ニ著手スルニ比シ被告人其ノ他ノ者ニ迷惑ヲ及ホスコト少カルヘシ故ニ本案ハ此ノ規定ヲ採用シ  
タリ

第五十六條 左ノ場所ニ於テ爲ス押収又ハ搜索ニ付テハ前條第一項ニ規定スル  
制限ニ依ルコトヲ要セス

- 一 賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セララルモノト認ムヘキ場所
- 二 旅店、飲食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコトヲ得ヘキ場所但シ公開シタル時間内ニ限ル

本條ハ押收、搜索ニ關スル時ノ制限ニ對スル例外ヲ規定ス本條第二號ハ現行法第七十八條第三項但書ニ定ムルトコロト同シク第一號ハ現行刑事訴訟法中ニ之ヲ存セサルモ行政執行法ニ於テハ此ノ如キ場所ニ付時ノ制限ヲ置カサル旨ヲ規定ス本條ニ之ヲ加ヘタルハ司法處分ヲ爲スニ付テモ亦之ヲ制限外ニ置クヲ相當ト認メタルニ因ルモノナリ

**第一百五十七條** 公務所又ハ軍所用ノ廳舎若ハ艦船内ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ  
前項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ内ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ此等ノ者ヲシテ立會ハシムルコト能ハサルトキハ鄰人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハムヘシ

本條ハ押收、搜索ニ立會フヘキ者ヲ定ム本條第二項ハ大體現行法第百條第二項ト其ノ趣旨ヲ同シクス現行法ニ於テハ官署、公署又ハ軍所用ノ廳舎、艦船ニ於ケル押收、搜索ニ付特ニ立會ノ規定ヲ置カサルモ本案ハ之ヲ必要ト認メ本條第一項ノ規定ヲ新設セリ

**第一百五十八條** 檢事、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ搜索ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限ニ在ラス  
押收又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

拘禁セラレサル被告人ニ押收、搜索ノ處分ニ立會フノ權利ヲ與ヘタルハ現行法第百八條ニ同シ現行法ニ於テハ豫審中辯護人ヲ選任スルコトヲ得サルヲ以テ豫審ノ章ニハ辯護人ノ立會ヲ許ス規定ヲ存セス而シテ公判ノ編ニハ此ノ點ニ付何等ノ規定ヲモ置カサルヲ以テ結局辯護人ハ全ク立會フノ權ヲ有セサルコトト爲ルヘシ然レトモ被告人ニ與ヘテ辯護人ニ與ヘサルハ理由ナキコトナリ之ニ由テ本條ハ辯護人ニ立會ノ權アルヲ明示セリ而シテ本條ノ規定ハ豫審ニモ適用セララルモノナレハ本案ノ下ニ於テハ公判中ナルト豫審中ナルトヲ問ハス辯護人ニ於テ立會ノ權ヲ有スルモノナリ檢事ニ付テハ現行法何等ノ明文ヲ設ケサルモ其ノ立會ノ權ヲ有スルハ言ヲ俟タズ本條ニ檢事ヲ加ヘタルハ之ヲ

明示シテ疑ノ餘地ナカラシメタルモノナリ

第一百五十九條 押収又ハ搜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

押収、搜索ノ處分ヲ爲スヘキ日時、場所ヲ檢事其ノ他之ニ立會フ權利ヲ有スル者ニ通知スヘキハ當然ナリ然レトモ急速ノ處分ヲ要スル場合ニ於テ事實上不能ノ場合多カルヘキヲ以テ但書ヲ置キ必スシモ本則ニ依ルヲ要セサル旨ヲ規定セリ

第六十條 押収又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

檢事ハ總テノ場合ニ於テ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得ルモ裁判所ハ特ニ明文ナキ以上ハ司法警察官吏ヲ使用スルコトヲ得ス故ニ本條ヲ以テ裁判所ニモ此ノ權アルコトヲ明ニシタリ

第六十一條 押収又ハ搜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ

出入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得

本條ノ趣旨現行法第一百一條ト異ナルコトナシ

第六十二條 押収又ハ搜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

本條ノ趣旨現行法第七條ニ同シ

第六十三條 押収ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者、所持者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘシ

品目ノ詳細ナルモノ

目録ノ謄本

本條ハ押収ヲ受ケタル者ノ請求アルトキ第五十七條第二項ニ依リ調製スヘキ調書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘキコトヲ定ム蓋シ押収ヲ受ケタル者ノ權利ヲ確保セムカ爲ナリ

第六十四條 押収物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

危険ヲ生スル虞アル押收物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

押收物ハ裁判所ノ占有ニ歸スルモノナルヲ以テ裁判所ハ所有者其ノ他權利者ノ利益ヲ保護スル爲相當ノ處置ヲ爲シ其ノ滅失毀損ヲ防カサルヘカラス

押收物ハ必スシモ裁判所ニ持來ルコトヲ必要トスルモノニ非ス運搬又ハ保管ニ不便ナル物ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシメ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得セシム

末項ニ所謂危険ヲ生スル虞アル物トハ爆發物ノ如キ物ヲイフ之ヲ廢棄スルコトヲ得セシムルハ當然ナリ

第六十五條 沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ賣却シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

沒收スルコトヲ得ヘキ物ハ國家ニ歸屬シ結局公賣ニ付スヘキモノナルヲ以テ本條ノ如ク處分スルヲ妨ケサルモ單ニ證據トシテ押收スル物ニ付テハ此ノ如キ處分ヲ爲スコトヲ許サス若シ公賣シテ代價ヲ保管スルコトトセハ全ク押收ノ意義ヲ失ヒ始メヨリ押收セサルカ又ハ速ニ還付スルヲ相當トスヘ

シ本條ノ處分ヲ沒收物ニ限リタルハ此ノ理由ニ因ル

第六十六條 押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

押收ハ事件ノ終了ニ至ル迄持續スルヲ普通トスレトモ此ノ原則ヲ固守スルトキハ故ナク物ノ利用ヲ妨クルト同時ニ官廳ニ無用ノ煩累ヲ及ホスノ虞アルヲ以テ本條ヲ以テ還付及假還付ノ規定ヲ設ケタリ

第六十七條 押收シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルトキニ限り被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

贓物ハ元來被害者ノ訴訟上ノ請求ヲ待テ之ニ還付スルヲ本則トスレトモ事件單純ニシテ之ヲ還付スヘキ理由明瞭ナルトキハ其ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ還付シテ可ナリ故ニ第三百七十五條ニ於テハ事件ノ終結ト同時ニ此ノ處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シ本條第一項ニ於テハ事件ノ終結ヲ待タス此ノ處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ明ニセリ

本條第一項ノ處分ハ被害者ノ權利ヲ確定スルモノニ非ス故ニ相當ノ理由アルトキハ利害關係人ハ還付ヲ受ケタル被害者ニ對シテ其ノ取戻ヲ求メ又ハ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノトス

第六十八條 押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

本案ハ押收、搜索ノ處分ニハ必ス書記ノ立會ヲ要スルモノトシ特ニ明文アル場合ノ外現行法ニ於ケルカ如ク書記以外ノ立會人ヲ認メス

第六十九條 豫審判事ハ押收及搜索ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

押收及搜索ノ規定ハ豫審公判ニ共通スヘキモノナルカ前數條ハ皆裁判所ヲ本位トシテ規定シタルヲ以テ本條ヲ以テ豫審判事ノ職權ヲ定メ豫審ニ於テモ同一ノ法則ニ從フヘキコトヲ明ニス

第七十條 檢事ハ第二百二十三條第十項各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取りタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限り押收若ハ搜索ヲ

爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限り押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押收物ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ第六十四條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

檢事又ハ司法警察官カ現行犯其ノ他特定ノ事件ニ付被疑者ヲ逮捕シ又ハ之ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル等強制處分ヲ爲シ得ヘキコトハ前ニ述ヘタル所ナリ本條ハ同一ノ場合ニ於テ檢事又ハ司法警察官カ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ押收又ハ搜索ヲモ爲シ得ヘキコトヲ規定ス是レ現行法第四百十四條第四百十六條第四百十七條ニ依リ現行犯ニ對シテ爲スヘキ特別ノ處分ト其ノ趣旨ヲ同シクスルモノナリ

第七十一條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ

入り押収又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得

現行犯ヲ逮捕シ又ハ之ニ對シテ勾引狀ヲ發シタル場合ニ檢事、司法警察官カ押収又ハ搜索ノ處分ヲ爲シ得ルコトハ前條ノ認ムルコトナリ本條ハ現行犯アリタル場所ニ就キ押収搜索ヲ爲ス場合ニ付特例ヲ認ムルモノナリ即チ現行犯アリシ場所人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物、艦船ナルトキト雖急速ヲ要スルトキハ時ノ制限ナク其ノ場所ニ立入り前記ノ處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定ス行政執行法第二條ノ規定ニ比較スルモ刑事訴訟法ニ此ノ規定ヲ置クノ當然ナルハ言フ俟タス

第七十二條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官吏ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り犯人ヲ逮捕スル爲搜索ヲ爲スコトヲ得檢事又ハ司法警察官吏現行犯人ヲ逮捕スル爲追行シタル場合ニ於テ犯人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ逃入りタルトキ亦同シ

人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船内ニ現行犯アル場合ニ於テ犯人逮捕ノ爲ニ爲ス搜索ニ付テモ急速ヲ要スルトキハ時ノ制限ナク其ノ場所ニ立入ルコトヲ許スモノトス現行犯人ヲ逮捕スルカ如キ場合ハ極メテ急速ヲ要シ立會人ヲ求ムル暇ナキコト多キニ居ルヲ以テナリ現行犯人ヲ逮

捕スル爲追行シタル場合ニ於テ犯人此等ノ場所ニ逃入りタルトキ亦同一ノ規定ニ從フハ處分ヲ異ニスヘキ理由ナキニ由ル

第七十三條 司法警察官吏勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ入り搜索ヲ爲スコトヲ得

現行法第七十八條ニ於テハ巡查、憲兵卒ニ此ノ權限ヲ認メタルモ其ノ指揮ヲ爲ス司法警察官ニ此ノ權限ヲ認メサルハ狭キニ失スルヲ以テ之ヲ補正シタリ

本條ノ場合ニ於ケル時ノ制限並立會人ニ關スル規定ノ準用ニ付キテハ次條ニ定ムル所ナリ

第七十四條 第四百十條乃至第四百九條、第五百十三條、第五百十五條乃至第五百十七條及第六十一條乃至第六十七條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外檢事又ハ司法警察官ノ爲ス押収又ハ搜索ニ付之ヲ準用ス

第七十五條、第七十六條、第七十七條、第七十八條乃至第七十九條及第八十一條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外司法警察吏ノ爲ス搜索ニ付之ヲ準用ス

第七十二條ノ搜索ヲ爲ス場合及第二百二十三條第十項第三號乃至第六號ノ規定ニ依リ發シタル勾引狀ヲ執行スル爲前條ノ搜索ヲ爲ス場合ニ於テハ第二百五十七條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

檢事司法警察官ノ爲ス押收及搜索ニ付テハ大體裁判所ノ爲ス押收及搜索ニ關スル規定ニ依ルヘキモノトシテ本條列記ノ條文ヲ準用ス第五百十條乃至第五百五十二條ヲ準用セサルハ檢事、司法警察官ノ特別處分ハ第七十條ニ依リ當然押收、搜索ノ命令ヲ爲シ得ヘキヲ以テナリ第六十條ヲ準用セサルハ檢事及司法警察官ハ其ノ職務ノ性質上當然配下ノ警察官吏ニ命シテ補助ヲ爲サシムルヲ得ルヲ以テナリ第六十八條ノ準用ナキハ急速ノ處分ヲ要スル場合ニ必ス裁判所書記ノ立會ヲ必要トスルトキハ書記ノ配置少ナキ檢事局ニテハ不便ヲ感スルコト少カラス又司法警察官ニハ此ノ機關ナク當然此ノ規定ニ依ルコトヲ得サルヲ以テナリ  
司法警察吏ノ爲ス搜索ハ被告人逮捕ノ爲ニミ爲スモノナレハ此ノ場合ニ付必要ナル規定ノミヲ準用セリ

第三項ハ前二項ノ準用法文中第五十七條第二項ヲ除外スヘキ特別ノ場合ヲ定メタルモノニシテ何レモ急速ノ處分ヲ必要トスルニ由ルモノナリ

### 第十二章 檢證

現行法ハ檢證ノ規定ヲ豫審ノ章ニ置キタルモ本案ハ第九章ニ述フルト同一ノ理由ニ因リ改メテ之ヲ總則中ニ置クコトトセリ

現行法ハ檢證ト搜索及物件差押トヲ同一ノ章ニ規定シタルモ檢證ハ檢證物ヲ實驗スル證據調ニシテ證據物ヲ發見シ又ハ之ヲ保全スル強制處分ト其ノ性質ヲ異ニスルカ故ニ本案ニ於テハ之ヲ各別ニ規定スルコトトセリ

第七十五條 裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ

現行法第二百二條ハ犯所又ハ其ノ他ノ場所ニ臨ミテ爲ス旨ヲ規定スルモ檢證ハ本ト檢證物ヲ實驗スル證據調ニシテ裁判所ノ内外ヲ問ハス之ヲ行フヘキモノナルヲ以テ之ヲ本條ノ如ク改メタリ

第七十六條 檢證ニ付テハ身體ノ検査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘、物ノ毀壞其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體ノ検査ハ一定ノ證據ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ヲ検査スル場合ニ於テハ醫師又ハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシム



死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テハ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知スヘシ

檢證ヲ爲スニハ種々ノ處分ヲ爲スコトヲ要シ法律ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得ス故ニ本條第一項ニ於テ其ノ重要ナルモノヲ例示シ廣ク其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ得ル旨ヲ規定セリ

身體ニ對スル檢證ハ身體ノ不可侵權ニ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ被告人以外ノ者ノ身體ノ檢證ニハ一定ノ條件ヲ附シ一定ノ證據ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限り之ヲ爲シ得ヘキモノトセリ

本條第三項ニ於テハ婦女ノ身體檢査ニ付第四百四十六條第三項ト同一ノ趣旨ニ依リ醫師又ハ成年ノ婦女ノ立會ヲ要スルコトト爲シタリ

死體又ハ墳墓ノ保全ニ付テハ刑法ヲ以テ其ノ侵犯ニ對スル制裁ヲ定メ之ヲ保護スルコトニ留意セリ  
刑事訴訟手續上檢證ヲ爲スカ爲死體ヲ解剖シ墳墓ヲ發掘スルカ如キハ必要止ムヲ得スト雖之ヲ爲スニ當リテハ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ我固有ノ良俗ニ背戾セサルコトヲ念トスヘキハ當然ナリ殊ニ遺族在ルトキハ之ニ通知シタル上之ヲ爲スヲ穩當トス故ニ新タニ本條第四項ノ規定ヲ設ケテ其ノ義ヲ明ニス

第七十七條 日出前、日没後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日没前檢證ニ著手シタルトキハ日没後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第五十六條ニ規定スル場所ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

本條ハ檢證ニ關スル時ノ制限ヲ規定シタルモノニシテ其ノ原則トスル所ハ押收、搜索ノ場合ト異ナルコトナシ唯本條ニ於テハ日出後ニ至レハ檢證ノ目的ヲ達スル能ハサル場合ヲ例外トシテ規定シタリ日出後ニ至レハ檢證スヘキ状態ニ變動ヲ生スルカ如キ場合又ハ特ニ夜間檢證スルニ非サレハ必要ノ事項ヲ發見スル能ハサル場合アルヲ以テナリ

第七十八條 第四百七條、第五十四條、第五十七條乃至第六十二條及第六十八條ノ規定ハ檢證ニ付之ヲ準用ス

檢證ニ付テモ押收、搜索ニ關スル規定ヲ準用シ左ノ規定ニ從ハシム

- (一) 軍事上ノ祕密ヲ要スル所ニ於ケル檢證ニ付テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス
- (二) 檢證ハ部員ニ命シテ之ヲ爲サシメ又ハ相當官憲ニ囑託スルコトヲ得
- (三) 官署、公署又ハ軍所用ノ廳舎若ハ艦船内ニ在リテハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ之ニ立會ハシムルコトヲ要ス
- (四) 檢事、不勾留ノ被告人及辯護人ニ立會ノ權ヲ認メ急速ヲ要スル場合ノ外檢證ノ日時及場所ヲ立會權アル者ニ豫メ通知スルヲ要ス
- (五) 必要アルトキハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得
- (六) 檢證ノ場所ニ他人ノ出入ヲ禁シ之ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分中之ヲ留置スルコトヲ得
- (七) 處分中止ノ際ハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘキモノトス
- (八) 檢證ノ處分ニハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムルコトヲ要ス

第一百七十九條 豫審判事ハ檢證ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

本條ハ第六十九條ト同一ノ趣旨ニ依ルモノナリ

第一百八十條 檢事ハ第二百二十三條第十項各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之

ヲ受取りタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限り檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限り檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第一百八十一條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り檢證ヲ爲スコトヲ得

檢事及司法警察官カ現行犯其ノ他特定ノ事件ニ付檢證ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタルモノニシテ其ノ範圍竝條件ハ大體押收及搜索ニ付規定スルトコロト異ナルコトナシ

第一百八十二條 變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事檢視ヲ爲スヘシ

前項ノ處分ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ引

續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

一二四

檢事ハ司法警察官ヲシテ前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

變死ハ犯罪ニ起因スル場合尠カラス從テ變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ヲシテ其ノ檢視ヲ爲スノ職責ヲ有セシム

本條第一項ノ處分ヲ爲シタル結果犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ普通ノ手續ニ從ヒ起訴シタル上豫審判事又ハ裁判所ノ檢證ヲ求ムルトキハ遲延ノ爲其ノ目的ヲ達シ得サル場合多カルヘシ故此ノ場合ニ於テハ檢事自ラ引續キ檢證ヲ爲シ得ルモノトス

檢事自ラ檢視又ハ檢證ヲ爲スハ實際ノ便宜ニ適セサルコトアリ故ニ司法警察官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノト爲ス

第八十三條

第四百七十七條、第五百七十七條、第六十一條、第六十二條、第七

十六條及第七十七條ノ規定ハ檢事又ハ司法警察官ノ爲ス檢證ニ付之ヲ準用ス

檢事及司法警察官ノ檢證ハ大體裁判所ノ爲スヘキ檢證ト同一ノ規定ニ從ハシム本條準用スヘキ規定ヲ列記シ其ノ趣旨ヲ明ニス

### 第十三章 證人訊問

證人訊問ハ重要ナル證據調タルト同時ニ個人ノ利害ニ影響スル所鮮カラサルヲ以テ本案ハ公益ノ要求ト私人ノ利益トヲ顧慮シ現行法ノ不備ヲ補正スルニ付遺漏ナキヲ期シタリ而シテ現行法ハ之ヲ豫審ノ章ニ規定シタルモ本案ハ第九章ニ示ス所ト同一ノ趣旨ニ依リ改メテ之ヲ總則中ニ規定シタリ

第八十四條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ

訊問スルコトヲ得

我裁判權ニ服從スル者ハ其身分、國籍ノ如何ヲ問ハス證人トシテ裁判所ノ訊問ヲ受クルノ義務ヲ負擔スルヲ原則トス本案ハ本章ノ冒頭ニ於テ此ノ原則ヲ明示シタリ

第八十五條 公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得タル事實ニ付本人又ハ當該公務

所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮内大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院

長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

本條乃至第八十八條ハ證言ノ義務ヲ免除スヘキ場合ヲ規定ス

本條ハ職務上ノ秘密ニ關スルコトヲ申立タル事項ニ付勅許ヲ受ケ又ハ監督官廳ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ訊問スルコトヲ許ササルコトヲ規定スルモノニシテ押收、搜索ニ付第四百四十八條ニ規定スル所ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第八十六條 左ニ掲クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

- 一 被告人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者
  - 二 被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人
  - 三 被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者
- 共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ノミニ

關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

被告人ト各號列擧ノ如キ關係アル者ニ證言拒絶ノ權利ヲ認メタルハ情誼ヲ重ンスルニ因ル蓋シ本條ニ列記スル者ハ情誼上被告事件ニ關シ供述スルコトヲ憚ルモノナリ然ルニ強テ供述ヲ爲サシムルハ人情ニ反スルヲ以テ證言ノ義務ヲ免除スルヲ相當ト認ム

共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ親族其ノ他ノ關係アリト雖他ノ共同被告人ノミニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムヘキ理由ナキヲ以テ第二項ノ規定ヲ設ケタリ

第八十七條 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、宗教

若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ秘密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條ニ於テ業務上秘密ヲ守ルヘキ事項ニ付證言拒絶ノ權利ヲ認メタルハ現行法第二百二十五條第二項ト其ノ趣旨ヲ同シクス唯現行法ニ於テハ醫師其ノ他本條ニ列擧シタル者カ證言ヲ爲スト否トハ其ノ者ノ意思ニ依リ決スヘキモノトセルモ本案ハ之ヲ改メ押收ニ關スル場合ト同シク秘密ニ付利益ヲ有スル本人ノ承諾アルトキハ證言ヲ拒絶スルコトヲ得サルモノトセリ

第八十八條 證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者刑事訴追ヲ受クル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得  
現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ起訴セラレ未タ確定判決ヲ經サルトキ亦前項ニ同シ

法律ヲ以テ自己又ハ自己ト第八十六條ノ關係アル者ノ犯罪ヲ供述スルノ義務ヲ負ハシムルハ人情ヲ無視シ事理ニ反ス犯罪ヲ供述セシメサルモ犯罪ヲ推定セラルルノ虞アル事項ヲ供述セシムルモ亦同シ本條ヲ以テ證言拒絶ノ權利ヲ認メタルハ此ノ理由ニ基クモノナリ

第八十九條 證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ疏明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得  
證言ヲ拒ム者之ヲ拒ム事由ヲ疏明スコト能ハサルトキ又ハ宣誓ヲ爲ササルトキハ決定ヲ以テ其ノ申立ヲ却下スヘシ

證言ヲ拒ム者ヲシテ之ヲ拒ム事由ヲ疏明セシムルコトハ現行法第二百二十五條第二項ニ同シ但シ第八十八條ノ場合ニ於テハ實際上疏明ヲ爲スコトノ困難ナル場合多カルヘキヲ以テ宣誓ヲ以テ疏明ニ

代フルコトヲ許シタリ證言ヲ拒ム者疏明ヲ爲ス能ハサルカ又ハ前記ノ宣誓ヲ爲ササルトキハ決定ヲ以テ拒絶ノ申立ヲ却下スヘキモノトス

第九十條 召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且出頭セサルニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

本條ハ現行法第十八條第一項ト其ノ趣旨ヲ同シクス異ナル所ハ現行法ノ如ク秩序罰ノ性質ヲ有スル制裁ニ罰金ノ名ヲ付スルノ適當ナラサルヲ慮リ之ヲ過料ニ改メタリ

第九十一條 召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

本條ハ現行法第十八條第二項ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第九十二條 第八十四條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

證人ノ召喚ハ召喚狀ヲ送達シテ爲スヲ本則ト爲スヘキコト被告人ノ召喚ト異ナルコトナク又被告人ノ召喚ト同シク簡易ノ方法ニ依ルコトヲ得シムルヲ便トスルカ故ニ被告人ノ召喚ニ關スル第八十四條及第九十九條ヲ證人ノ召喚ニ準用シタリ

第九十三條 第八十八條、第九條乃至第一百五條及第九條ノ規定ハ證人ノ勾引ニ付之ヲ準用ス

證人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ勾引狀ノ執行方法ハ被告人ノ勾引ト異ナルコトナシ本條被告人ノ勾引ニ關スル法條ヲ準用シテ其ノ義ヲ明ニス

第九十四條 證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ其ノ氏名及住居、被告人ノ氏名並被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所並出頭セサルトキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

召喚狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本條第一項及第二項ハ召喚狀及勾引狀ノ形式ヲ定メタルモノニシテ其ノ第一項一於テ證人ノ召喚狀及勾引狀ニ氏名、住居ノ記載ヲ要スルモノトシタルハ當然ノコトニシテ説明ノ要ナク被告人ノ氏名及被告事件ヲ記載セシムルコトトシタルハ證人ヲシテ如何ナル事件ニ付訊問ヲ受クヘキヤヲ知ラシ

ムルヲ適當ト認メタルニ因ル第二項ハ現行法第一百五條第二項ト其ノ趣旨ヲ同シクス本條第三項ハ現行法第一百五條第三項ト趣旨ニシテ異ナル處ハ但書ニ於テ急速ヲ要スル場合ヲ除外シ實際ノ必要ニ應セシメタルノ點ニ在リ

第九十五條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第九十六條 第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告知ヘシ

本條第一項ハ現行法第二百一十一條ト其ノ趣旨ヲ同シクス現行法ニ於テ氏名、年齢等ヲ問フヘキ旨規定シタルハ人違ナキヤ否ヲ取調フルヲ目的トスルモノニシテ本案ト趣旨ヲ異ニスルモノニ非ス被告ト親族其ノ他第八十六條第一項ニ規定シタル關係ヲ有スル者ハ證書ヲ拒ム權利ヲ有ス然ルニ此等ノ者此ノ權利アルコトヲ知ラサル爲之ヲ行使セサル場合ナキヲ保スル能ハス故ニ本條第二項ニ於テ此等ノ者ニ證言拒絕ノ權アル旨ヲ告知スヘキモノト爲シタリ

第九十六條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

別段ノ規定アル場合ノ外證人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトハ現行法ト異ナルコトナシ

第九十七條 宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムルヲ本則ト爲スモ訊問ヲ爲シタル後ニ非サレハ宣誓ヲ爲サシムヘキヤ否ヤ疑ハシキ場合アルヲ以テ新ニ後段ノ規定ヲ設ケタリ

第九十八條 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ但シ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサリシコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ  
裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

本條第一項及第二項ハ現行法第二百二十二條ト同趣旨ニシテ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ヲ附加シタルニ過キス現行法ハ裁判所書記宣誓書ヲ讀ミ聞カス旨規定スルモ宣誓ノ形式ハ極メテ嚴肅ナルコトヲ要スルヲ以テ本條第二項ニ於テハ裁判長自ら起立シテ之ヲ朗讀スルコトニ改メタリ此ノ場合ニ於テ被告

人ハ勿論檢事、辯護人其ノ他法廷ニ在ル者悉ク起立スヘキコトハ明文ヲ俟タスシテ當然行ハルヘキコトナリ

第九十九條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽證ノ罰ヲ告クヘシ

宣誓前偽證ノ罰ヲ論告スルコトハ從來慣行セラルル所ナルモ明文ヲ置クヲ相當ト認メ本條ノ規定ヲ設ケタリ

第二百條 證人ノ宣誓ハ各別ニ之ヲ爲サシムヘシ

宣誓ノ重要ナル手續タルコトヲ認メ極メテ嚴肅ニ之ヲ行フヘキモノト爲シタル結果同時ニ爲サシムルコトヲ不當ト認メ必ス各別ニ爲サシムヘキモノト定ム

第二百一條 證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

- 一 十六歳未満ノ者
- 二 宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者
- 三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者

四 第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサルモノ  
 五 第八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者  
 六 被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虛  
 偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ト共犯ト看做ス

第一項ニ掲クル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケテ  
 ルルコトナシ

本條ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スヘキ場合ヲ規定ス證言ニ信ヲ措ク能ハサル場合ニ宣誓ヲ爲サシ  
 メサルコト近來ノ立法ノ傾向ナレトモ之ヲ概括的ニ規定スルトキハ法ノ運用上支障尠カラサルヲ以  
 テ本案ハ現行法ト同シク其ノ主要ナル場合ヲ列舉シテ規定スルニ止メタリ而シテ現行法ニ於テハ本  
 條ニ列舉シタル者ノ外公權ヲ剝奪セラレ又ハ停止セラレタル者、重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ當ルヘ  
 キ輕罪事件ニ付公判ニ付セラレタル者並供述ヲ爲スヘキ事件ニ付曾テ訴ヲ受ケ證憑不十分ノ爲免訴  
 ト爲リタル者並民事原告人及之ト特種ノ關係アル者ノ證人ト爲ルコトヲ許サスシテ事實參考ノ爲宣  
 誓セシメスシテ之ヲ訊問スルヲ得ル旨ヲ規定スレトモ本案ニ於テハ此等ノ者ノ宣誓義務ヲ免除スヘ

キ理由ヲ認メサリシナリ

本條第二項ニ例舉シタル罪ノ犯人カ其ノ本犯ノ被告事件ニ付爲ス證言ハ信ヲ措キ難キ點ニ於テ其ノ  
 本犯ノ共犯ノ爲ス證言ト異ナルコトナシ故ニ第二項ノ規定アリ

本條第一項ニ列舉シタル者ノ供述ハ決シテ證言タルノ效力ヲ有セサルニ非ス而シテ偶々此等ノ者カ  
 宣誓ヲ爲シテ供述シタルトキハ違法タルコトヲ免レサルモ之ヲ無効ニ歸セシムヘキ理由毫モ存セス  
 即チ本條第三項ヲ以テ此ノ趣旨ヲ明ニス

第二百二條 證人ノ供述證人若ハ之ト第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者  
 ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財産上ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サ  
 シメスシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

本條ハ裁判所ノ裁量ニ依リ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スルヲ得ヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ即チ  
 證人ノ供述カ證人又ハ其ノ親族其ノ他ノ者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財産ニ重大ナル損害ヲ生スル虞ア  
 ル場合ニ於テハ其ノ供述ニ信ヲ措キ難キ場合多カルヘキヲ以テ裁判所ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ  
 訊問スルヲ得ヘキモノト爲ス

第二百三條 證人ハ各別ニ之ヲ訊問スヘシ



後ニ訊問スヘキ證人在廷スルトキハ退廷ヲ命スヘシ

本條第一項ハ現行法第二百二十七條ノ本文ト趣旨ヲ同シクス

本條第二項ノ規定ハ第一項ヨリ生スル當然ノ結果ナリ

第二百四條 事實發見ノ爲必要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

本條ハ現行法第二百二十七條但書ト趣旨ヲ同シクス

第二百五條 證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲サシムヘシ  
必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

本條ハ證人訊問ニ關スル訓示ノ規定ナリ證人ノ訊問ハ眞情ヲ得ルニ最モ適當ナル方法ニ依ルヘク訊問スヘキ人ノ熟練ニ待ツコト多キカ故ニ法律ヲ以テ之ヲ制限スヘキ謂ハレナシ然レトモ訊問事項ヲ定メテ斷片的ニ問ヲ發シ之ニ對シテ斷片的ニ答ヲ求メ爲ニ證人ノ供述前後ノ連絡ヲ缺キ之ヲ聞ク者又ハ其ノ調書ヲ讀ム者ヲシテ眞偽ヲ判斷スルニ由ナカラシムルカ如キ又押問答ノ爲證人ヲシテ支離滅裂ノ供述ヲ爲サシメ人ヲシテ了解ニ苦マシムルカ如キハ最モ拙劣ナル取調ナリ故ニ本條第一項ヲ

項ヲ以テ連絡シタル供述ヲ爲サシムヘキコトヲ示シ此ノ如キ弊ニ陥ルコトナカラシメムトシタルモノナリ

本條第二項ノ規定ハ殆ト言フヲ要セサル如クナルモ證人ノ陳述曖昧ナルモ之ヲ確ムルコトヲ爲サス又其ノ眞偽ニ付疑アルモ之ヲ判別スルコトヲ努メサルカ如キハ非常ナル怠慢ナルニ拘ラス時トシテ經驗ニ乏シキ審問官ノ陥リ易キ弊ナルヲ以テ特ニ此規定ヲ示シ過誤ナカラシメンコトヲ期シタリ

第二百六條 證人ニハ其實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得

前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

證言ハ訴訟外ノ實驗ニ基キ過去ノ事實ヲ供述スルコトヲ本質トスルモノナリ本案ニ於テモ亦之ヲ認メサルニ非ス然ルニ實際ニ於テ證人ハ實驗シタル事實ヨリ推測シタル事項ヲ供述スルコトアリ而シテ其ノ推測ハ普通ノ智識ヲ以テ爲シ得ヘキモノアリ特別ノ智能ヲ以テスルニ非サレハ爲シ得ヘカラルモノアリ特別ノ智能ヲ以テ推測シタル事項ノ供述ハ嚴格ノ意味ニ於テハ證言ニ非スシテ寧ろ鑑定ノ性質ヲ有ス而シテ多クノ場合ニ於テハ此ノ點ニ付疑ヲ生スルコトナカルヘシト雖時トシテハ實驗ト推測トノ間ニ明確ナル分界ヲナス能ハサルコトアリ又普通ノ知識ニ依ル推測ト特別ノ知能ニ依

ル判断ト分別スルコト極メテ困難ナル場合アリ故ニ推測ニ屬スルコトヲ理由トシテ別ニ鑑定人ノ宣誓ヲ要スルモノト爲スハ甚タ不便ナルノミナラス屢々宣誓ノ效力ニ付疑ヲ生スルノ虞ナリ之ニ由テ推測モ亦之ヲ證言ノ一部ト看做スヲ至當ト認メ又ハ其ノ性質鑑定ニ屬スルノ故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ失ハシメサルモノトシ本條ノ規定ヲ設ケタリ

第二百七條 第八十五條、第三百三十六條及第三百三十八條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

證人ハ被告人ト同シク出頭シタルトキハ速ニ之ヲ訊問スヘク證人裁判所構内ニ在ルトキハ召喚セサル場合ト雖之ヲ訊問スルコトヲ得ヘク其ノ訊問ニハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トシ聲者、啞者ノ訊問ニ書面ヲ用フルコトヲ得ヘシ

本條被告人ノ召喚並被告人ノ訊問ニ關スル法條ヲ準用シテ其ノ義ヲ明ニス

第二百八條 證人ハ必要アル場合ニ於テハ裁判所外ニ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人ノ出頭スヘキ場所ハ多クノ場合ニ於テハ裁判所ナリ然レトモ犯所其ノ他ノ場所ニ於テ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ所在ニ付之ヲ訊問スル必要アル場合尠カラヌ現行法ニ於テモ第百十條第百十五條第百

二十一條等ニ同趣旨ノ規定アリ本案ハ之ヲ一括シテ本條ニ規定ス

第二百九條 親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ現在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

帝國議會ノ議員議會ノ開會中開會地ニ滞在スルトキハ其ノ滞在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

本條ノ趣旨現行法第百三十條ニ同シ現行法ノ如ク皇族證人ナル場合ノ規定ヲ設ケサルハ皇族ノ身位其ノ他ノ權義ニ關スル規定ハ皇室典範ノ示ス所ニ從ヒ特別ノ法規ニ讓ルヘキモノト爲シタルニ因ル

第二百十條 證人正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以下ノ過料ニ處ス第百八十九條第一項但書ノ場合ニ於テ虛偽ノ宣誓ヲ爲シタルトキ亦同シ  
前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

本條ノ趣旨現行法第百二十六條ニ同シ罰金ヲ過料ニ改メタルハ第百九十條ニ付説明シタル所ニ同シ

虚偽ノ宣誓ヲ爲シタル場合ヲ加ヘタルハ宣誓ヲ以テ證言ヲ拒ム事由ノ疏明ニ代フルヲ得ルノ制ヲ設ケタルヲ以テナリ

第二百一十一條 裁判所ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

本條ノ趣旨現行法第二百二十八條ニ同シ

第二百十二條 裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問スヘキトキハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人ノ現在地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得  
受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得  
受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲

スコトヲ得但シ第九十條及第二百十條ノ決定ハ裁判所亦之ヲ爲スコトヲ得

本條第一項ハ現行法第九十一條ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ證人正當ノ事故ニ因リ出頭スル能ハサルコトヲ疏明シタル場合ニ其ノ所在ニ就キ訊問セシムル旨ヲ規定スルモ狹キニ失スルヲ以テ裁判所外ニ於テ訊問スヘキトキト改メタリ

本條第二項及第三項ノ規定ハ第五十四條第二項第三項ト其ノ趣旨異ナルコトナシ

第二百十三條 豫審判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

證人訊問モ亦裁判所ヲ本位トシテ規定シタルヲ以テ本條ニ依リ豫審判事ノ權限ヲ定メ豫審ニ於テモ前數條ノ規定ニ從フヘキコトヲ示ス

第二百十四條 檢事ハ第二百二十三條第十項各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限り第八十四條乃至第二百一十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限り第八十四條乃至第二百十

一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

本條ハ檢事及司法警察官ノ爲ス證人訊問ニ關スル規定ナリ本條ニ規定スル場合ニ於テ檢事及司法警察官カ押收、搜索竝檢證ヲ爲シ得ヘキコトハ既ニ述ヘタル所ナリ同一ノ場合ニ於テ檢事及司法警察官ヲシテ證人ヲ訊問スルコトヲ得セシメタルハ之ト同一ノ理由ニ基クモノナリ

第二百十五條 檢事證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得  
司法警察官ハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

檢事證人ヲ訊問スヘキ場合ニ於テモ供述ノ正確ヲ期スル爲之ニ宣誓ヲ命スルノ權ヲ與フルハ當然ナリ唯檢事ノ訊問シタル證人ハ後ニ裁判所又ハ豫審判事ニ於テ更ニ訊問スヘキ場合多カルヘキヲ以テ必スシモ宣誓ヲ命スルニ及ハサルモノトシ之ヲ命スルト否トハ當該檢事ノ裁量ニ一任ス  
司法警察官ニ宣誓ヲ爲サシムルノ權ヲ與フルハ從來ノ觀念ニ反シ其ノ地位ニ顧テ穩當ナラサルヲ以テ第二項ノ規定ヲ設ケタリ

第二百十六條 司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

本案證人訊問ニハ必ス裁判所書記ノ立會ヲ要スルコト爲シ其ノ規定ハ第二百十四條ニ依リ檢事訊問ヲ爲ス場合ニ準用スヘキモノナリ司法警察官ノ爲ス訊問ニ付司法警察吏ノ立會ヲ必要トスルハ第二百十九條ト同一ノ趣旨ニ出ツ

第二百十七條 第二百十四條ノ規定ニ依リ證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキトキハ證人ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ

證人ヲ過料ニ處スルノ規定ハ檢事及司法警察官ノ訊問スル場合ニ準用スヘキモノナルモ檢事又ハ司法警察官ハ自ラ裁判ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ本條ニ於テ其ノ請求ニ依リ裁判ヲ爲スヘキ裁判所ヲ定メタリ

第二百十八條 證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ證人ヲシテ旅費、日當、止宿料ヲ請求スルコトヲ得セシム唯正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ證言ノ義務ヲ盡ササルモノナルヲ以テ之ヲ除外シタリ

### 第十四章 鑑定

現行法ハ鑑定ニ關スル規定ヲ豫審ノ章ニ置キタルモ第九章ニ述フルト同一ノ理由ニ依リ之ヲ總則中ニ規定

第二百十九條 裁判所ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

本條ノ趣旨現行法第三百三十五條第一項ニ同シ現行法ニハ犯罪ノ性質、方法、結果ヲ分明ナラシムル爲トアレトモ此ノ如ク目的ヲ限定スヘキ理由存セサルヲ以テ之ヲ削除セリ

第二百二十條 鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

本條ノ趣旨現行法第三百三十七條ニ同シ現行法ニ從ヘハ宣誓書ニ良心ニ從ヒノ文字ナキモ自ラ此ノ精神ヲ含ムモノト解スルヲ至當トスヘシ本案ハ此ノ趣旨ヲ以テ宣誓書ノ式ヲ改ムルコトトセリ

第二百二十一條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ

鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ説明ヲ爲サシム

ルコトヲ得

本條ハ現行法第四百十條ニ相當ス現行法ニ於テハ鑑定人ハ常ニ鑑定書ヲ作ルヘキモノトセルモ簡單ナル事項ニ付テハ口頭ヲ以テ報告セシムルヲ便ト爲スカ故ニ本案ニ於テハ鑑定ノ手續及結果ハ書面又ハ口頭ヲ以テ報告セシムルコトトシ尙書面報告ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ其ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトス鑑定人數人アル場合ニ於テハ各別ニ報告ヲ爲サシムヘキ場合アリ又共同シテ報告ヲ爲サシムヘキ場合アリ殊ニ複雑ナル事項ニ付キテハ數人ノ鑑定人相協力シテ研究ヲ遂ケ其ノ研究ノ結果ヲ共同シテ報告スヘキ場合ナシトセス其ノ孰レニ依ルヘキヤハ一ニ裁判所ノ定ムル所ニ從フ

第二百二十二條 裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ裁判所外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得

被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メ病院其ノ他ノ相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得

本條第一項第二項ニ規定スル所ハ現在明文ナキニ拘ハラス慣例上實行シ來レル所ナリ本案ニ於テハ

（手記）  
1. 被告の心神及び身體に關する鑑定は、必要あるときは、裁判所が、期間を定め、病院その他相當の場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得

之ヲ明示スルヲ妥當トシ前上ノ規定ヲ設ケタリ第三項ノ處分ハ鑑定ノ目的ヲ達スル爲ニ缺クヘカラナルモノナルモ現行法之ヲ定メス故ニ之ヲ明示シテ其ノ缺點ヲ補正シタリ

第二百二十三條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ身體ヲ検査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得

第七十六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

鑑定ノ爲必要トスル場合ニ於テ死體ヲ解剖シ墳墓ヲ發掘シ得ルコトハ現行法第三百三十五條第二項ニ之ヲ規定ス本案ハ其ノ外身體ヲ検査シ又ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得ヘキモノトシ之ヲ補足シタリ  
鑑定ノ場合ニ於テモ婦女ノ身體検査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘ヲ爲スニ付特別ノ注意ヲ爲スヘキコト當然ナルヲ以テ本條第二項ノ規定ヲ設ケ此ノ義ヲ明ニセリ

第二百二十四條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閱覽シ若ハ謄寫シ又ハ被告人若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得  
鑑定人ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得

本條所載ノ手續ハ鑑定ノ目的ヲ達スル爲必要ナルモノナリ故ニ之ヲ明示ス

第二百二十五條 裁判所ハ部員ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ハ此ノ限ニ在ラス

鑑定ヲ命スル手續又ハ鑑定ニ必要ナル處分ハ裁判所自ラ之ヲ行ハスシテ部員ニ命シテ之ヲ行ハシムルヲ得ヘキハ當然ナリ但シ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ハ事態頗ル重キヲ以テ之ヲ部員ニ委セス常ニ裁判所ノ判斷ニ待ツヘキモノト爲ス

第二百二十六條 裁判所ハ鑑定ヲ十分ナラストスルトキハ鑑定人ヲ増加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

本條ノ趣旨現行法第三百二十九條ニ同シ

第二百二十七條 檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得

第二百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條ノ趣旨ハ前ニ押收、搜索ニ關スル第五百五十八條及第五百五十九條ト異ナルコトナシ

第二百二十八條 第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外鑑定ニ付之ヲ準用ス但シ檢事及司法警察官ハ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ヲ爲スコト

ヲ得ス

本條ハ現行法第三百三十六條第三百三十八條トニ相當ス即チ鑑定ハ前ニ規定シタル事項ノ外證人ノ訊問ニ付定メタル規定ニ依ルヘキモノニシテ鑑定人ハ證人ノ如ク召喚ニ應セサルノ理由ニ依リ勾引スルコトヲ得サルノ差異アルノミ

檢事及司法警察官特定ノ場合ニ於テ押收、搜索竝證人訊問ヲ爲シ得ヘキコトハ前ニ示スカ如シ檢事及司法警察官ハ同一ノ場合ニ於テ鑑定ヲ命シ裁判所ノ鑑定ニ付定メタル規定ニ準シテ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ唯第二百二十二條第三項ノ處分ハ事態重ク其ノ性質裁判所又豫審判事ノ外許容スヘカラサルモノナルヲ以テ之ヲ檢事及司法警察官ノ權限ニ屬セシメサルコトトセリ

第二百二十九條 鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

現行法ニ於テハ鑑定料ヲ請求シ得ルコトヲ認メスト雖鑑定ハ特別ノ技能ト勞力ニ待ツモノ多ク時間ト費用ヲ要スル場合アルヘキヲ以テ之ヲ請求シ得ヘキモノトセリ

第二百三十條 裁判所ハ官署又ハ公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得

第二百三十一條乃至第二百二十三條及第二百二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之

ヲ準用ス但シ第二百二十一條第三項ノ規定ニ依ル鑑定書ノ説明ハ官署又ハ公署ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

鑑定ハ専門ノ研究場、試験場其ノ他相當ノ設備ヲ有スル官署又ハ公署ニ之ヲ囑託スルヲ便宜トスル場合尠カラサルヲ以テ本條ノ規定ヲ設ケタリ

本條第一項ノ鑑定ニ付テハ大體一般ノ鑑定ニ關スル規定ヲ適用スルモ個人ニ對シテ命シタルモノニ非サルヲ以テ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス是レ第二項ヲ以テ第二百二十一條以下ヲ準用スル所以ナリ又書面ノ報告ニ對スル口頭説明ハ之ヲ爲ス者ヲ明ニスル必要アリ是レ第二項末段ノ規定アル所以ナリ

第二百三十一條 特別ノ知識ニ因リ智得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本章ノ規定ニ依ラス第十三章ノ規定ヲ適用ス

本條ハ所謂鑑定證人ニ關スル規定ニシテ其ノ趣旨民事訴訟法第三百三十三條ニ同シ即チ特別ノ智識ニ因リ智得タル過去ノ事實ニ付訊問スル場合ニハ其ノ智得タル事實カ特別ノ智識ニ因ルコトヲ理由トシテ其ノ證人タルコトヲ失ハシメサルモノトシ之ニ證人訊問ニ關スル規定ヲ適用スルコトトセリ

### 第十五章 通譯

本章ハ通譯及翻譯ニ關スル規定ヲ示シタルモノニシテ之ヲ現行法ノ如ク豫審ノ章ニ規定セスシテ總則中ニ規定シタル理由ハ第九章ニ於テ述フル所ニ同シ

第二百三十二條 國語ニ通セサル者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

本條ハ現行法第百條第二項ニ相當ス而シテ現行法ニ被告人及對質人國語ニ通セサル場合トアルハ狹キニ失スルヲ以テ本條ヲ以テ之ヲ修正セリ

第二百三十三條 聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得

聾者啞者文字ヲ解スルトキハ書面ヲ以テ問答スルコトヲ得ヘキモ必スシモ此ノ方法ニ依ルコトヲ要セス適當ト認ムルトキハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得ルヲ便トス之ニ由テ現行法第百條第一項ヲ本條ノ如ク修正シタリ

第二百三十四條 國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

國語ニ非サル文字又ハ符號ヲ翻譯セシムヘキコトハ勿論ナルモ現行法其ノ規定ヲ缺如スルヲ以テ新ニ本條ノ規定ヲ設ケタリ

第二百三十五條 裁判所ハ官署又ハ公署ニ翻譯ヲ囑託スルコトヲ得

翻譯ニ付テモ鑑定ト同シク特殊ノ事項ニ付テハ之ヲ官署、公署ニ囑託スルコトヲ便宜ト爲スカ故ニ本條ノ規定ヲ設ケタリ

第二百三十六條 第十四章ノ規定ハ通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス

通譯及翻譯ハ其ノ性質ニ牴觸セサル限り凡テ鑑定ニ關スル規定ニ準據スヘキモノナルヲ以テ本條ノ規定ヲ設ケタリ

### 第十六章 訴訟費用

現行法ニハ訴訟費用ノ裁判ニ關シ僅ニ第二百一條ノ規定ヲ存スルニ過キスシテ不完全ナルカ故ニ本案ニ於テハ第二百三十七條乃至第二百四十五條ノ規定ヲ設ケ之ヲ詳細ニ規定スルコトトセリ

第二百三十七條 刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ



被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ハ刑ノ言渡ヲ爲ササル場合ト雖  
被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

本條第一項ハ現行法第二百一條第一項ノ規定ニ字句ノ修正ヲ加ヘタルモノニシテ其ノ趣旨之ト異ナルコトナシ

現行法第二百一條第二項ノ規定ニ依レハ免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ公訴ニ關スル訴訟費用ハ常ニ國庫ノ負擔トシ被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ト雖被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ許サス本案ハ之ヲ改メ被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ハ刑ノ言渡ヲ爲ササル場合ニ於テモ被告人ヲシテ負擔セシムルヲ得ヘキモノト爲ス凡ソ刑ノ言渡ヲ爲ササル場合ハ無罪免訴刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ニ因リ訴訟手續ヲ終了スル場合ト上訴ノ取下アリタルトキノ如ク裁判ニ因ラスシテ訴訟手續ヲ終了スル場合トアリ被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ヲ其ノ負擔ニ歸スルハ其ノ何レノ場合タルトヲ問ハサルナリ

第二百三十八條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

本條ハ共犯ニ關スル訴訟費用ノ負擔ニ付定メタルモノニシテ刑事訴訟費用法第七條ヲ修正シテ本法

中ニ規定シタルモノナリ

第二百三十九條 告訴又ハ告發ニ因リ公訴ノ提起アリタル事件ニ付被告人無罪又ハ免訴ノ裁判ヲ受ケタル場合ニ於テ告訴人又ハ告發人ニ故意又ハ重大ナル過失アルトキハ其ノ者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十七條ニ關シ説明シタル如ク現行法第二百一條第二項ノ規定ニ依レハ免訴又ハ無罪ノ言渡アリタルトキハ如何ナル事情アルモ公訴ニ關スル訴訟費用ハ常ニ國庫之ヲ負擔スルコトトナリ居レトモ告訴又ハ告發ニ因リ公訴ヲ提起シ無罪又ハ免訴ノ裁判アリタル場合ニ於テ告訴人又ハ告發人カ故意又ハ重大ナル過失ニヨリ不實ノ申告ヲ爲シタル場合ノ如キハ告訴人、告發人ニ其ノ責アルヲ以テ是等ノ者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルヲ適當ナリト認メ其ノ旨ヲ規定セリ

第二百四十條 親告罪ニ付告訴ノ取消アリタル場合ニ於テハ告訴人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

親告罪ハ告訴ヲ待テ後始メテ公訴ヲ提起シ得ヘク公訴提起後ト雖告訴ヲ取消シタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得サルモノトス故ニ特別ノ明文ナキトキハ親告罪ニ付告訴ノ取消アリタルトキハ第二百三十七條第二項ノ適用アル場合ニ非サレハ國庫ニ於テ訴訟費用ヲ負擔セサルヘカラス然レトモ元

來親告罪ニ關スル事件ハ告訴ニ基キテ發生シ又告訴人カ任意ニ取消ヲ爲スニ因リ消滅セシメ得ルモノナルヲ以テ其ノ取消アリタル場合ニ於テ告訴人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルヲ適當ナリト認メ本條ノ如ク規定セリ

第二百四十一條 檢事ニ非サル者上訴ノ取下ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ上訴ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ取下ケタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ再審ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

檢事ニ非サル者上訴ノ取下ヲ爲シ又ハ再審ノ請求ヲ取下タル場合ニ於テ上訴又ハ再審ノ手續ハ無用ニ歸シ之ニ關シテ生シタル費用ハ上訴又ハ再審ノ請求ヲ爲シタル者ノ責ニ歸スヘキ場合多カルヘキヲ以テ之ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシメ得ルモノトセリ本條ハ取下ヲ爲シタル者被告人ナルト其ノ他ノ者ナルトヲ問ハス被告人ニ付テハ第二百三十七條第二項ノ適用ニ依リテモ同一ノ結果ヲ生スルコトアルヘシ

第二百四十二條 裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲スヘシ此ノ裁判ニ對シテハ本案

ノ裁判ニ付上訴アリタルトキニ限り不服ヲ申立ツルコトヲ得

被告人ニ對スル訴訟費用ノ裁判ハ本案ノ裁判ニ附隨スヘキモノナルヲ以テ本案ノ裁判ヲ爲ストキハ之ト同時ニ職權ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス而シテ訴訟費用ニ關スル裁判ハ從タル裁判ナルヲ以テ本案ノ裁判ニ付上訴ヲ爲スニ非サレハ獨立シテ之ニ對シ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ許ササルコトトセリ

第二百四十三條 裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ニ非サル者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ別ニ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ニ非サル者(例ヘハ第二百四十條ニ規定セル告訴人ノ如シ)ニ訴訟費用ヲ負擔スヘキコトヲ命スルトキハ本案ノ裁判ヲ受クル者ト訴訟費用ノ裁判ヲ受クル者ト相異ナルヲ以テ訴訟費用ノ裁判ハ本案ノ裁判ト分チテ別ニ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトセリ此ノ場合ニ於テハ訴訟費用ノ裁判ハ獨立ノ運命ヲ有シ本案ノ裁判ニ拘ハラヌ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十四條 裁判ニ因ラスシテ訴訟手續終了スル場合ニ於テ訴訟費用ヲ負擔

セシムルトキハ最終ニ事件ノ繫屬シタル裁判所職權ヲ以テ其ノ決定ヲ爲スヘシ  
此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

裁判ニ因ラスシテ訴訟手續終了スル場合ニ於テハ訴訟費用ニ關スル裁判ハ別ニ之ヲ爲ササルヘカラ  
ス而シテ其ノ裁判ハ最終ニ事件ノ繫屬シタル裁判所職權ヲ以テ之ヲ爲スヲ便トスルヲ以テ其ノ旨ヲ  
規定セリ

**第二百四十五條 訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ執  
行ノ指揮ヲ爲スヘキ檢事之ヲ定ム**

訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ其ノ數額ヲ定メタルトキハ其ノ額ニ從フヘキハ勿論ナレトモ若  
シ其ノ裁判ニ於テ之ヲ定メサルトキハ其ノ執行ヲ指揮スヘキ檢事ニ於テ刑事訴訟費用法ノ定ムル所  
ニ從ヒ算出シテ其ノ執行ヲ爲スヲ適當ナリト認メ其ノ旨ヲ規定セリ此ノ場合ニ於テ檢事ノ確定額ニ  
不服アル者ハ執行ニ對スル異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキヤ言フ俟タス

**第二編 第一審**

**第一章 搜查**

搜查ノ目的ハ公訴ノ提起及實行ノ爲必要ナル資料ヲ蒐集スルニ在リ犯罪ハ時日ヲ經過スルニ從ヒ漸次其ノ  
證跡ヲ失ヒ終ニハ其ノ存否ヲ判別スルコト能ハサルニ至ルヘキヲ以テ搜查ヲ爲スニ當テハ迅速ニ事ヲ處理  
シ機會ヲ逸セサルコトニ留意シ克ク表裏ヲ識別シテ證據ノ保全ニ努メサルヘカラス然レトモ搜查ハ人ノ權  
利ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ其ノ職ニ在ル者ハ慎重事ニ從ヒ常ニ越ユヘカラサルノ限界ヲ確守  
シ意ヲ人權ノ尊重ニ致ササルヘカラス本案ハ公益ノ要求ト個人ノ保護トヲ考察シテ適當ナル規定ヲ設ケ偏  
重ノ弊ナカラシメムコトヲ期セリ

**第二百四十六條 檢事犯罪アリト思料スルトキハ犯人及證據ヲ搜查スヘシ**

本條ハ現行法第四十六條ヲ改正シタルモノニシテ規定ノ趣旨之ト異ナルコトナシ現行法第四十六條  
ニハ搜查開始ノ理由トシテ特ニ例示スル所アレトモ檢事ハ理由ノ如何ヲ問ハス苟モ犯罪アリト思料  
スルトキハ常ニ搜查ヲ開始スヘキモノナレハ本案ニ於テハ例示ノ必要ナキモノト認メ之ヲ删除シタ  
リ

**第二百四十七條 警視總監 地方長官及憲兵司令官ハ各其ノ管轄區域内ニ於テ司**

法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付地方裁判所検事ト同一ノ權ヲ有ス但シ東京府知事ハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ現行法第四十七條第一項ヲ改正シタルモノナリ現行法ハ警視總監及地方長官ヲ擧ケ憲兵司令官ヲ脱ス本案ニ於テハ憲兵司令官ニモ亦同一ノ權限ヲ與フルノ必要アリト認メ之ヲ警視總監及地方長官ト同列ニ置クコトトセリ

第二百四十八條 左ニ掲クル者ハ檢事ノ輔佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スヘシ

一 廳府縣ノ警察官

二 憲兵ノ將校、准士官及下士

本條ハ現行法第四十七條第二項ヲ改正シタルモノナリ現行法ニ於テハ檢事ノ輔佐機關タル司法警察官トシテ本條ニ定メタルモノノ外島司、郡長、林務官、市町村長等ヲ列記セルモ社會ノ變遷ニ伴ヒ各種ノ知識經驗ヲ有スル者ヲシテ犯罪捜査ノ任ニ當ラシムル必要アルコトヲ豫想スヘク又犯罪ノ行ハルル場所ニ依リ特種ノ機關ヲシテ之ニ當ラシムルヲ便トスル場合アルヘキヲ以テ本案ニ於テハ現行法ノ如ク之ヲ法文ニ列記限定スルコトヲ避ケ第二百五十條及第二百五十一條ニ依リ勅令ヲ以テ司

法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキモノヲ定メ得ルコトトセリ

第二百四十九條 左ニ掲クル者ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ司法警察吏ト

シテ捜査ノ補助ヲ爲スヘシ

一 巡查

二 憲兵卒

現行法ハ巡查、憲兵卒ヲ捜査ノ補助機關ト認メ居レトモ其ノ根據ハ散在セル條文ニ求ムルノ外ナク之ニ關スル概括的ノ規定ヲ缺如セリ本條ハ此ノ缺點ヲ補正シタルモノナリ

第二百五十條 前三條ニ規定スル者ノ外勅令ヲ以テ司法警察官吏ヲ定ムルコトヲ得

第二百四十八條ノ說明ヲ參照セハ其ノ理由明瞭ナリ

第二百五十一條 森林、鐵道其ノ他特別ノ事項ニ付司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百四十八條ノ說明ヲ參照セハ其ノ理由明瞭ナリ

第二百五十二條 第十一條第一項ノ規定ハ檢事及司法警察官吏ノ爲ス搜查ニ付之ヲ準用ス

本條ハ檢事及司法警察官吏管外ニ於テ職務ヲ執行シ得ルコトヲ定ム第十一條第一項ノ説明ヲ參照スレハ其理由自ラ明ナリ

第二百五十三條 搜查ニ付テハ祕密ヲ保チ被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

檢事及司法警察官ハ犯罪アリト思料スル場合ニ於テハ搜查ヲ開始シテ其ノ存否ヲ探査スルノ職責ヲ有スルモノナリ而シテ搜查ニ著手スル當初ニアリテハ固ヨリ端緒ヲ得ルニ止マリ存否未タ明カナラサルヲ以テ之ヲ明カニスル爲諸種ノ取調ヲ爲ササルヘカラス而シテ搜查ヲ進行スルニ當リテハ克ク祕密ヲ保ツニ非サレハ罪證ヲ湮滅セラルルノ虞アリ此ノ點ヨリ考察シテ搜查ノ祕密ヲ嚴守スルノ必要アルハ明カナリ又特ニ注意スヘキハ搜查ノ爲ニ關係人ノ取調ヲ爲ス場合ニ能ク祕密ヲ保タサル時ハ種々ノ疑惑ヲ生シ動モスレハ取調ヲ受ケタルノ一事ヲ以テ人ヲ罪人視シ其ノ甚シキニ至リテハ揣摩憶測ニ依リ紙上ニ虛偽ノ事實ヲ掲載シテ憚ラサル者アリ斯ノ如キハ良民保護ノ精神ニ背反スルモノナルヲ以テ慎ヲ加ヘテ搜查ノ漏洩ヲ防キ人ノ名譽ヲ傷ケサル事ヲ努メサルヘカラス特ニ本條ヲ設

ケタル理由此ニ存ス

第二百五十四條 搜查ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ強制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

搜查ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

搜查ヲ爲スニ當リテハ其ノ目的ヲ達スルニ必要ナル限度ニ於テ各般ノ取調ヲ爲スヘキモノニシテ其ノ手段方法ノ如キハ之ニ從事スル者ノ知識ト經驗ニ待ツヘク一々之ヲ法文ニ掲クルコトヲ得ス之ニ對スル重要ナル制限ハ原則トシテ強制ノ處分ヲ用ユルコトヲ得サルニアリ即チ搜查ニ付強制ノ處分ヲ許スハ例外ニシテ特別ノ規定ニ基クコトヲ要ス現行犯處分其ノ他總則ニ依リ特ニ檢事及司法警察官ニ許シタル勾引、勾留、押收、搜索、被疑者及證人ノ訊問、鑑定ノ命令並第二百五十五條ニ依リ判事ノ爲スヘキ各般ノ處分ノ如キハ搜查ノ階段ニ於テ認容スヘキ強制處分ノ最モ顯著ナルモノナリ

本條第二項ハ檢事及司法警察官ハ搜查ニ付公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムル權アルコトヲ規定ス此ノ規定ニ依ルトキハ公務所ハ正當ノ事由ナクシテ請求ヲ拒絕スルヲ得サルモノトス

第二百五十五條 檢事搜查ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提起

前ト雖押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

檢事捜査ヲ爲スニ付必要アル場合ニハ公訴提起前ト雖豫審判事又ハ區裁判所判事ニ強制處分ヲ請求スルコトヲ得即チ檢事ハ總則ニ特例アル場合ノ外自ラ強制處分ヲ爲スコトヲ得サルモ判事其ノ請求ヲ受クルトキハ捜査ノ階段ニ於テモ必要ナル處分ヲ爲ササルヘカラス請求ヲ受ケタル判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有スルヲ以テ總則中豫審ニ適用アル規定及豫審ノ章ニ示シタル規定ハ皆本條ノ處分ニ適用スヘキモノナリ

第二百五十六條 判事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

第二百五十七條 第二百五十五條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル事件ニ付公訴ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘシ

第二百五十五條ノ規定ニ依リ押收ヲ爲シタル事件ニ付公訴ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ檢事ハ速ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時効完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

第二百五十六條及第二百五十七條ハ第二百五十五條ノ強制處分ヲ爲シタル後ニ履行スヘキ手續ヲ規定シタルモノナリ

第二百五十八條 犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

本條乃至第二百七十七條ハ捜査ノ原由タル告訴、告發ニ關スル規定ナリ

本條ハ現行法第四十九條ヲ改正シタルモノニシテ其ノ趣旨之ト異ナルコトナシ即チ犯罪ニ因リ害ヲ受ケタルモノハ原則トシテ告訴ヲ爲シ加害者ノ處罰ヲ求ムル爲捜査ノ職權ヲ有スル官署ニ犯罪事實ノ申告ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定ス

第二百五十九條 祖父母又ハ父母ニ對シテハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ前條ニ對スル重要ナル例外ナリ子孫ニシテ其ノ父母祖父母ヲ告訴スルカ如キハ我國固有ノ道德ニ背反スルモノナリ法ヲ以テ之ヲ禁スルハ我良風美俗ヲ維持シ綱紀ノ頹廢ヲ防止スル所以ナリ

第二百六十條 被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ハ告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス  
前二項ノ規定ハ刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セス

本條第一項ハ現行法第五十四條第二項ニ相當ス現行法第五十四條第二項ハ被害者ノ法律上ノ代理人ノミヲ舉クレトモ本案ニ於テハ被害者妻ナルトキハ其ノ夫ニモ亦告訴權ヲ與フルヲ適當ナリト認め之ヲ加ヘタリ

本條第二項ハ被害者死亡シタル場合ニ於ケル告訴權者ヲ定ム告訴權ハ一身ニ專屬スル權利ナルヲ以テ被害者ノ告訴權ハ相續人ニ移ルヘキモノニ非ス故ニ被害者死亡シタル場合ニ於テ法律ヲ以テ特ニ告訴ヲ爲シ得ヘキ者ヲ定メサルトキハ被害者ノ保護ヲ完ウスルコトヲ得サルニ至ルヘシ故ニ被害者ノ明示シタル意思ニ反セサル限りハ被害者ト密接ノ關係ヲ有スル家督相續人、直系親族及兄弟姉妹告訴ヲ爲シ得ヘキモノト定メタリ

刑法第百八十三條ニ規定セル姦通罪ニ付テハ告訴權本夫ニ專屬スルヲ以テ本條第一項及第二項ヲ適用スルノ餘地ヲ存セス

第二百六十一條 被害者ノ法定代理人被疑者ナルトキ、被疑者ノ配偶者ナルトキ

又ハ被疑者ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

現行法第五十四條第二項ハ法律上ノ代理人カ無能力者ニ代リテ告訴ヲ爲シ得ヘキコトヲ定ムルニ止マリ法律上ノ代理人ヲ無能力者ノ爲ニ告訴ヲ爲シ得サル地位ニ在ル場合ニ付テハ何等ノ規定ヲモ設ケサル爲無能力者ノ保護ヲ完ウスルコト能ハス之ニ由テ本條ヲ設ケ其ノ不備ヲ補フコトトセリ

第二百六十二條 死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

名譽ヲ毀損シタル罪ニ付被害者告訴ヲ爲サシテ死亡シタルトキ亦前項ニ同シ但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

刑法第二百三十條第二項ニ依レハ死者ノ名譽ヲ毀損シタル者誣罔ニ出テタル場合ニ於テハ之ヲ處罰ス然ルニ此ノ場合ニ於テ何人カ告訴權ヲ有スルヤ不明ナルヲ以テ本條第一項ノ規定ヲ設ケテ此ノ場合ニ於ケル告訴權者ヲ明示セリ

本條第二項ハ被害者其ノ名譽ヲ毀損セラレ告訴ヲ爲サシテ死亡シタル場合ニ於テモ第一項ノ場合ト同シク親族、遺族又ハ後裔告訴ヲ爲シ得ルコトヲ定メタリ此ノ場合ニ於テモ第二百六十條ノ場合

ト同シク被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得サルモノト爲ス

第二百六十三條 親告罪ニ付告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢察ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

本條ハ前三條ノ規定ニ依リ告訴權ヲ有スルモノナキトキハ檢察ニ於テ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲シ得ル者ヲ指定スルヲ得ヘキモノトシ偶々告訴權者ノ存在セサルカ爲親告罪ヲ罰スル能ハサルニ至ルノ憾ナカラシム

第二百六十四條 刑法第八十三條ノ罪ニ付テハ婚姻解消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非サレハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス再ヒ婚姻ヲ爲シ又ハ離婚ノ訴ヲ取下ケタルトキハ告訴ヲ取消シタルモノト看做ス

刑法第八十三條ニ規定セル姦通罪ノ告訴ヲ爲スニハ婚姻解消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタルコトヲ要スルコトトセリ夫一面ニ於テ姦夫姦婦ニ對シ姦通罪ノ告訴ヲ爲シ其ノ處罰ヲ請求シナカラ依然トシテ姦婦ト夫婦ノ關係ヲ持續スルカ如キハ告訴權ヲ正當ニ行使スルモノトイフヲ得サルノミナラス之カ爲往々告訴ヲ利用シ人ヲ恐喝スルカ如キ弊ヲ生スルコトナキヲ保セス是レ新ニ本條ヲ設クル

所以ナリ

第二百六十五條 親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知りタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定シタル日ヨリ六月内ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ

親告罪ヲ訴追スルニハ告訴アルコトヲ要ス故ニ告訴權者カ告訴權ヲ行使セサル間ハ起訴スヘキヤ否全ク不定ノ状態ニアリ永ク此ノ如キ状態ヲ持續スルハ秩序ヲ害スルノ虞アリ之ニ由テ本案ハ一定ノ期間内ニ告訴ヲ爲ササレハ告訴權ヲ消滅セシムルノ主義ヲ採リ之ヲ本條ニ規定セリ

第二百六十六條 告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ對シ其ノ效力ヲ及ボサス

告訴權者數人アル場合ニ於テ各自獨立シテ告訴權ヲ有スルヲ以テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ告訴權者ニ影響ヲ及ボササルモノト爲ス

第二百六十七條 告訴ハ第二審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得  
告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ス



前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求ニ之ヲ準用ス

本條ハ現行法第五十五條ヲ改正シタルモノナリ現行法ニ於テハ告訴取消ノ時期ニ制限ヲ附セサル爲上告審ニ於テ之ヲ取消シ第一審及第二審ニ於ケル審理ヲ徒勞ニ歸セシムルコトアリ思フニ告訴ノ取消ハ敢テ嫌忌スヘキニ非スト雖既ニ二審級ヲ經テ判決ノ言渡アリタルニ拘ハラズ仍告訴ヲ維持スヘキヤ否ヲ決セサルカ如キハ誠實ニ權利ヲ行使スルモノトイフヲ得サルモノニシテ裁判權ヲ蔑如スルノ嫌アリ之ニ由テ告訴ノ取消ハ控訴審ノ判決アルマテ爲シ得ヘキモノトシ其ノ判決後ハ之ヲ許ササルコトトセリ

告訴ノ取消ヲ爲シタルトキハ告訴權ヲ喪失シ同一ノ事件ニ付再ヒ告訴ヲ爲スコトヲ得サルハ事理當然ナレトモ失權ノ事由ナルヲ以テ特ニ法文ヲ以テ之ヲ明ニセリ

現行刑事訴訟法ハ刑法以前ノ制定ニ係ルヲ以テ請求ヲ待チテ論スヘキ罪ニ關シ規定スル所ナシ故ニ本條ヲ以テ之ヲ補足セリ即チ刑法ニ定ムル請求ヲ待チテ論スヘキ罪ハ元來親告罪ト同一ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ其ノ請求ハ訴訟手續上告訴ト同一ニ取扱フモノトセリ

第二百六十八條 親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用ス

刑法第八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ者ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

本條ハ親告罪及請求ヲ待チテ論スヘキ事件ノ被告數人アル場合ニ於テ共犯ノ一人又ハ數人ニ對スル告訴又ハ告訴ノ取消ハ共犯全體ニ對シテ效アル旨ヲ規定シ告訴不可分ノ原則ヲ明示セリ

第二項ハ相姦者ヲ共犯ト同一ニ取扱フヘキコトヲ規定ス

第二百六十九條 何人ト雖犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得

官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スヘシ

本條ハ告發ニ關スル規定ナリ本條第一項ハ現行法第五十三條ニ相當シ本條第二項ハ現行法第五十二條第一項ニ相當スルモノニシテ其ノ趣旨相異ナルコトナシ

第二百七十條 第二百五十九條ノ規定ハ告發ニ付之ヲ準用ス

告發ハ捜査ノ職權ヲ有スル官署ニ犯罪ヲ申告スルノ點ニ於テ告訴ト異ナルコトナシ故ニ告訴ニ關スル第二百五十九條ノ規定ハ告發ニ之ヲ準用ス殊ニ注意スヘキハ官吏、公吏ハ告發ノ義務ヲ有スルモ

ノナリ官吏、公吏ヲシテ祖父母、父母ニ對シテ告發ヲ爲スノ義務ヲ負ハシムカ如キハ人倫ニ反スルノ甚シキモノナリ故ニ此場合ニハ第二百五十九條ニ依ラシムルノ理由最顯者ナリトイフヘシ

第二百七十一條 告訴ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得告訴ノ取消ニ付亦同シ

本條ハ現行法第五十四條ヲ改正シタルモノナリ現行法ニ於テハ告發モ亦告訴ト同シク代人ニ委任シテ爲シ得ヘキモノナレトモ告發ハ告訴ト異ナリ自己ノ救濟ヲ求ムルノ意ヲ包含セスシテ全ク公益ノ爲申告ヲ爲スニ止マルモノナリ故ニ本案ニ於テハ告發セントスル者ハ自ラ之レヲ爲スヘキモノトシ代人ヲ以テ爲スコトヲ許ササルモノトセリ

第二百七十二條 告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

本條ハ現行法第四十九條第一項第五十一條第五十二條第五十三條ノ各一部ヲ一括シ規定シタルモノニシテ告訴告發ノ手續及告訴告發ヲ受クヘキ官署ヲ定メタルモノナリ

第二百七十三條 檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付之ヲ準用ス

本條ハ現行法第五十一條第二項及第五十三條ノ一部ニ相當シ檢事及司法警察官口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキ調書ヲ以テ之ヲ明確ニスヘキコトヲ定ム

第二百七十四條 檢事ハ告訴人又ハ告發人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

檢事告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ先ツ告訴人又ハ告發人ニ就キ其ノ申告セル事實ノ眞否ヲ確カメ然ル後捜査ヲ進ムルヲ以テ普通ノ順序トス若シ捜査ノ基本タルヘキ告訴、告發ニシテ事實ノ眞相ニ違フコトアラムカ檢事ハ之カ爲捜査ノ方針ヲ誤リ必要ナキ取調ヲ爲スニ至ルコトナキヲ保セス、且夫レ告訴、告發ハ他人ノ罪惡ヲ摘發スルモノナリ他人ノ罪惡ヲ摘發スル者己レニ責任ノ歸スヘキコトヲ覺悟シ確乎タル信念ヲ以テ爲スハ道義ノ要求スル所ナリ故ニ檢事ハ一面ニ於テ告訴人及告發人ヲシテ重キ責任ヲ感セシムルト共ニ己ノ心證ヲ確ムル爲宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキモノト爲ス

第二百七十五條 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ノ申告ヲ爲シタルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

檢事ハ宣誓書ヲ朗讀シ告訴人又ハ告發人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

前條ニ規定セル宣誓ノ方式ヲ定メタルモノナリ

第二百七十六條 司法警察官告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

本條ハ現行法第四十九條第二項及第五十三條第二項ニ相當スルモノニシテ其趣旨之ト異ナルコトナシ

第二百七十七條 第二百七十二條、第二百七十三條及前條ノ規定ハ告訴又ハ告發ノ取消ニ付之ヲ準用ス

本條ハ告訴、告發ノ取消ハ告訴、告發ト同一ノ手續ニ從フヘキコトヲ示シタルモノナリ

第二百七十八條 第二百七十二條、第二百七十三條及第二百七十六條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

告發ハ他人ノ犯罪事實ヲ申告シ自首ハ自己ノ犯罪事實ヲ申告スルモノニシテ二者犯罪事實ヲ申告スル點ニ於テハ其性質ヲ同シクス故ニ自首ハ告發ト同一ノ法則ニ依ルヘキモノトシ本條ヲ設ケタリ

第二百七十九條 犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ風説アル場合ニ於テハ特ニ其ノ出所

ニ注意シ虛實ヲ探查スヘシ

檢事犯罪ニ付搜查ノ端緒ヲ發見スルトキハ直ニ搜查ヲ開始セサルヘカラス而シテ搜查ノ端緒ト爲ルヘキ告訴、告發ハ申告者其ノ名ヲ表示シ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ爲スモノナリ此ノ場合ニ於テハ搜查官ハ申告者ヲ取調ヘ其ノ申告ノ根據ヲ確メ進ンテ各般ノ證據ヲ蒐集シ申告セラレタル事實ノ有無ヲ判斷スルコトヲ得ヘシ匿名ノ申告又ハ風説ノ如キモノニ至リテハ搜查ノ端緒ト爲ラサルニ非スト雖元來責任アル申告者ナク其ノ根據明ナラス故ニ其ノ出所ニ付詳密ノ内偵ヲ遂ケ其ノ根據アルコトヲ確カメタル後ニ非サレハ輒ク犯罪ノ搜查ヲ開始スヘキモノニ非ス本條此ノ義ヲ明ニシ搜查官ノ輕舉ヲ戒ム

### 第二章 公訴

刑事訴訟ノ目的ハ科刑權ノ存否並範圍ヲ確定スルニ在リ而シテ現今ノ法制ハ彈劾式訴訟主義ヲ採用シ不告不理ヲ原則トス故ニ裁判所ハ請求アルニ非サレハ審判ヲ爲サス公訴ハ科刑權ノ確定ヲ要求スルモノニシテ之ニ依テ刑事訴訟ヲ開始ス

第二百八十條 公訴ハ檢事之ヲ行フ

本條ハ現行法第一條ト其ノ趣旨ヲ同シクシ職權訴追主義ニ依ルコトヲ明ニス即チ犯罪ノ訴追ヲ國家

ノ事務ト爲シ公訴權ノ行使ヲ國家ノ代表者タル檢事ノ專權ニ屬セシム

第二百八十一條 犯人ノ性格、年齢及境遇竝犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要トセサルトキハ公訴ヲ提起セサルコトヲ得

本條ハ犯罪訴追ニ付任意主義ヲ確立シタルモノナリ現行刑事訴訟法ハ此ノ點ニ關シ何等ノ明文ヲ設ケスト雖現行刑法既ニ犯罪必罰ヲ主義トセス事情ヲ斟酌シテ執行ヲ猶豫スルノ制ヲ採用セリ蓋シ罰條ノ明文ニ入ルモノト雖之ニ刑ヲ加フルノ不可アルモノアリ之ニ刑ヲ加フルノ可否未タ定マラサルモノアリ此ノ問題ハ起訴後ニ於テノミ生スルモノニ非ス必スヤ起訴不起訴ヲ決スルニ付考慮セサルヘカラス是ヲ以テ現行刑事訴訟法ノ下ニアリテモ久シク任意主義ヲ實行シ豫期ノ如ク好結果ヲ收ムルコトヲ得タリ本案ハ亦此ノ主義ヲ採用シ法文ヲ以テ之ヲ明示ス

第二百八十二條 公訴ハ檢事ノ指定シタル被告人以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ホサス  
現行法ハ裁判官ノ職權追及ノ制ヲ認メ彈劾式主義即チ不告不理ノ原則ニ例外ヲ設ケタリ本案ニ於テハ此ノ例ニ從ハス國家ノ代表者タル檢事原告ノ地位ニ立チ被告ニ對シテ訴追ヲ爲シ訴追ヲ受ケタル被告ハ當事者ノ地位ニ立チテ之ト對立シ裁判所ハ雙方ノ上ニアリテ審判ノ職務ノミヲ行フヘキモノトシ檢事訴追ヲ爲スニ非サレハ絶對ニ刑事ノ審判ヲ爲スヲ得サルモノト爲シ不告不理ノ原則ヲ貫徹

シタリ故ニ檢事公訴ノ提起ヲ爲スニ付テハ必ス被告人タルヘキ者ヲ指定スルコトヲ要シ公訴ノ效力ハ指定シタル被告人以外ニ及フヘカラサルモノト爲ス本條ハ此ノ義ヲ明ニシタルモノナリ

第二百八十三條 時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

- 一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年
- 三 長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年
- 四 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年
- 五 長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年
- 六 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ六月
- 七 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

本條ハ現行法第八條ノ規定ヲ修正シ長期五年以上ノ有期刑ニ該ル罪及刑法第百八十五條ノ罪ニ付時効ノ期間ヲ短縮シタリ

第二百八十四條 一以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪

ニ付テハ其ノ重キ刑ニ從ヒ前條ノ規定ヲ適用ス

第二百八十五條 刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ加重又ハ減輕セサル刑ニ從ヒ第二百八十三條ノ規定ヲ適用ス

二七六

時効ノ期間ハ現行法ノ如ク各犯罪ニ付定メタル重キ刑ヲ標準トシテ定ムヘキモノナルヲ以テ一ノ罪ニ付二個以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二個以上ノ主刑中其ノ一個ヲ科スヘキモノナルトキハ其ノ重キ刑ニ付定メタル期間ヲ以テ時効ノ期間ト爲スヘキハ當然ナリ又刑ヲ加重若ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ加重減輕セサル刑ニ付定メタル期間ヲ以テ時効ノ期間ト爲スヲ相當トス然ルニ現行法此ノ點ニ付明文ヲ缺如ス兩條此ノ趣旨ヲ明ニシ現行法ノ不備ヲ補足ス

第二百八十六條 時効ハ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ進行ス

共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行爲ノ終リタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時効ノ期間ヲ起算ス

現行法第十條ニ於テハ犯罪ノ日ヨリ時効期間ヲ起算スヘキ旨規定シ犯罪行爲終了ノ日ヲ起算日トスヘキヤ將結果ノ發生シタル日ヲ起算日トスヘキヤ不明ナリ本案ハ判例ノ示ス所ヲ相當トシ本條第一項ヲ以テ犯罪行爲終了ノ日ヨリ時効期間進行スヘキコトヲ明ニス本條第二項ハ數人共犯ノ場合ニ關

スル規定ニシテ現行法ノ不備ヲ補足シタルモノナリ

第二百八十七條 時効ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處分ニ因リ中斷ス但シ其ノ手續規定ニ違反シタル爲無効ナルトキハ此ノ限ニ在ラス  
共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時効ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第二百八十八條 時効ハ中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ進行ス

現行法第十一條ト其ノ趣旨ヲ同シクス唯本案ニ於テハ第二百五十五條ニ依リ公訴提起前判事ノ爲スヘキ強制處分ヲ認メタルヲ以テ之ヲ中斷ノ理由ニ加ヘタリ

第二百八十九條 時効ハ第三百七條第一項第二號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第三百五十四條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

被告人心神喪失ノ状態ニ在ルノ故ヲ以テ豫審、公判ノ手續ヲ進行セシメサル場合ニ於テハ時効ヲ進行セシムヘキ理由ナシ故ニ本條ヲ設ク

第二百九十條 公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リテ之ヲ爲ス

公訴ノ提起ハ豫審ヲ請求スルニ依リテ爲スモノト直ニ公判ヲ請求スルニ依リ爲スモノトアリ豫審ノ請求ヲ公訴提起前ノ手續ト爲スヘキヤ將之ヲ公訴ノ提起ト爲スヘキヤニ付議論アリシカ本案ニ於テハ之ヲ公訴ノ提起ト爲スコトニ決セリ

第二百九十一條 拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ罰金以上ノ刑ニ該ル事件ト同時ニ取調ヲ爲スヘキ場合ニ限り豫審ヲ請求スルコトヲ得

豫審ノ請求ハ拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ之ヲ爲スコトヲ得サルヲ原則トシ罰金以上ノ刑ニ該ル事件ト同時ニ其ノ取調ヲ爲スヘキ場合ニ於テノミ此ノ例ニ依ラサルモノト爲ス現行法第六十二條ハ重罪ト輕罪トヲ區別シ重罪ニ付テハ必ス豫審ヲ請求スヘキモノト爲スモ本案ニ於テハ此ノ如キ區別ヲ認メス

第二百九十二條 公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限り口頭又ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審判事裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

公判開廷中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ公判ヲ請求スル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

本條ハ公訴提起ノ方式ヲ規定ス公訴提起ハ書面ヲ以テ爲スヲ原則トス豫審ノ請求急速ヲ要スル場合竝公判開廷中被告人ニ未タ起訴セサル犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ付例外ヲ設クルハ正式ノ書面ニ依ル能ハサルヲ以テナリ

第二百九十三條 公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ示スヘシ  
被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

公訴ハ科刑權ノ確定ヲ要求スルモノナルヲ以テ其ノ基礎ト爲ルヘキ犯罪事實ヲ舉示セサルヘカラス而シテ本案ニ於テハ不告不理ノ原則ヲ貫徹シ如何ナル場合ニ於テモ公訴ヲ以テ指定シタル被告人以外ノ者ニ對シテ審判ヲ開始スルコトヲ得ス故ニ公訴ヲ以テ被告人ヲ指定スヘキハ當然ナリ唯被告人ノ指定ハ其ノ人ヲ確定スルヲ以テ足ル故ニ氏名知レタル者ハ必ス氏名ヲ以テスヘキモ氏名知レサル者ハ之ヲ確定スルニ足ルヘキ他ノ徵表ヲ以テセハ可ナリ

第二百九十四條 公訴ハ豫審終結決定又ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ

得

公訴ノ取消ハ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

公訴提起ニ付任意主義ヲ採用シタルコトハ第二百八十一條ニ於テ説明シタル所ノ如シ既ニ任意主義ヲ採リ公訴提起ニ付檢事ノ處分權ヲ認メタル以上ハ理論上公訴提起後ト雖其ノ實行ニ付檢事ノ處分權ヲ認メ公訴ノ取消ヲ許スヲ相當トス又實際ニ於テモ公訴ヲ提起シタル當時ニ於テハ起訴ノ必要アリト爲シタルニ公訴提起後ノ取調ニ於テ起訴ヲ不適當ト爲ス新事實ヲ發見スル場合ナキニシモアラズ斯ル場合ニ於テ裁判所ハ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘキモ執行猶豫ノ制タルヤ起訴猶豫又ハ宣告猶豫ト其ノ效果ヲ異ニシ有罪ノ裁判ヲ免レシムルコトヲ得サルモノナリ故ニ公訴提起前起訴ヲ猶豫スヘキ情狀分明ナレハ全ク起訴ヲ免カレ其ノ情狀公訴提起後ニ發見セララルトキハ有罪ノ宣告ヲ受ケサルヘカラス斯ノ如キハ公平ヲ得タルモノト言フコトヲ得ス即チ之ヲ理論ニ照スモ之ヲ實際ニ顧ルモ公訴取消ノ制ヲ認ムル必要アルヤ言フ俟タス但シ既ニ裁判所ニ繫屬スル事件ニ付無制限ニ公訴ノ取消ヲ許ストキハ之ヲ悪用スルノ弊ヲ生スルコトアルヘシ本案ハ深ク此ノ點ヲ考慮シ豫審ヲ請求シタル事件ニ付テハ其ノ終結決定アルニ至ル迄公判ヲ請求シタル事件ニ付テハ第一審ノ判決アル迄取消ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトシ其ノ以後ニ於テハ一切之ヲ許ササルモノトセリ又ハ公訴ノ取消ハ其ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘキコトトシ相當ノ理由ナクシテ恣ニ取消ヲ爲スノ弊ナカラシメンコトヲ期シタリ

弊ナカラシメンコトヲ期シタリ

第二百九十五條 檢事事件其ノ所屬裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料スルトキハ書類及證據物ト共ニ其ノ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ被疑者ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

本條第一項ハ現行法第六十四條第一項ト其ノ趣旨ヲ同シタス第二項ハ當然ノ規定ナリ

第二百九十六條 告訴ニ係ル事件ニ付公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ告訴人ニ通知スヘシ公訴ヲ取消シ又ハ事件ヲ他ノ裁判所ノ檢事若ハ相當官署ニ送致シタルトキ亦同シ

本條ノ趣旨現行法第六十五條ニ同シ

### 第三章 豫審

判決裁判所ノ審理ハ科刑權ノ存否並其ノ範圍ヲ確定スルヲ目的トシ豫審ノ審理ハ判決裁判所ニ於テ審理ヲ開始スヘキヤ否ヲ決スル爲必要ナル資料ヲ蒐集スルヲ目的トス本章ハ此ノ趣旨ニ基キ豫審ニ關スル規定ヲ

第二百九十七條 豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキカ否ヲ決スル爲必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ其ノ目的トス

豫審判事ハ公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦取調ヲ爲スヘシ

本條ハ豫審ニ於ケル取調ノ範圍ヲ示スト共ニ豫審ノ本質ヲ暗示ス現行法第九十一條ニ豫審判事ハ事實發見ノ爲必要ナリトスル證據懲憑ヲ集取スヘシトアリ此ノ條文ハ限度ヲ示ササルヲ以テ其ノ範圍ニ付テハ區々ノ解ヲ爲スノ餘地アリ實際ノ取扱振リトシテ豫審ノ取調ハ頗ル詳密ニ亘リ公判ニ於テハ多ク豫審調書ノ記載ヲ以テ證據ト爲シ直接審理主義ノ實ナクシテ間接審理ニ傾クノ弊アリ本條ハ取調ノ限度ニ付特ニ規定ヲ爲シ判決裁判所ニ於ケル直接審理ノ遂行ヲ現實ニスヘキコトヲ期シタリ唯證據ノ保全ハ訴訟ノ如何ナル階段ニ於テモ之ヲ怠ルヘカラス時期後ルルニ因リ證據ヲ逸スルコトアルヘケレハナリ故ニ公判ニ於テ取調難シト思料スル事項ニ付テハ公訴維持ノ資料タルト被告ノ利益ト爲ルヘキ資料タルトヲ問ハス豫審ニ於テ之ヲ取調ヘ遺漏ナカラシムルコトヲ要ス即チ此ノ如キ事項ニ付公判ニ付スヘキヤ否ヲ決スル爲必要ナラサルコトヲ理由トシテ其ノ取調ヲ爲ササルハ豫審ノ本旨ニ背戾スルモノナリ

第二百九十八條 豫審ニ於テハ取調ノ祕密ヲ保チ被告人其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損

セサルコトニ注意スヘシ

豫審ノ起訴ニ因リ開始シ形式上訴訟ノ一階段ヲ成スト雖其ノ目的トスル所ハ公判ノ前提トシテ各般ノ證據ヲ蒐集スルニ在リ故ニ捜査ト同シク密行ヲ旨トセサレハ其ノ目的ヲ達成シ難シ又被告人ハ既ニ訴訟當事者トシテ防禦權ヲ行使スヘキ地位ニ在ルモ未タ公判ニ付セラルルヤ否不明ノ状態ニ在ルモノナリ然ルニ世人動モスレハ豫審ニ付セラレタルノ一事ヲ以テ之ヲ罪人視スルノ傾向アリ其ノ取調ヲ祕密ニスルニ非サレハ實際其ノ名譽ヲ保護スル能ハス故ニ本條ハ捜査ニ付設ケタル第二百五十三條ト同一ノ趣旨ヲ以テ本條ノ規定ヲ設ケタリ

第二百九十九條 豫審判事豫審中共犯アルコト又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス豫審ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

豫審判事前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第三百條 檢事前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ豫審ヲ請求スヘキモノト思料スルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ



豫審判事檢事ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ナキトキハ前條ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得ス被疑者ヲ勾留シタルトキハ釋放ノ決定ヲ爲シ押收シタル物アルトキハ還付ノ決定ヲ爲スヘシ

現行法第四百二十二條ハ檢事ノ豫審請求ヲ待タスシテ豫審ヲ開始シ之ヲ進行スル場合ヲ認ムレトモ本案ハ之ヲ採ラス唯豫審判事カ檢事ノ請求ニ因リ豫審ヲ開始シタル後共犯又ハ他ノ犯罪アルコトヲ知リ之ニ對シ急速ノ處分ヲ必要トシ檢事ノ請求ヲ待ツノ暇ナキコトアリ斯ル場合ニ於テハ其ノ急ニ應スル爲必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ相當トシ第二百九十九條第一項ヲ設ケタリ豫審判事ノ處分ハ審理ノ開始ニ非ス審理ノ開始ハ檢事ノ起訴ニ待タサルヘカラス故ニ豫審判事前上ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知シ檢事ハ四十八時間内ニ豫審ノ請求ヲ爲スヘキヤ否ヲ決スヘキモノナリ而シテ檢事豫審ノ請求ヲ爲ササルトキハ豫審判事ハ其ノ處分ヲ繼續シテ行フコトヲ得ス是レ不告不理ノ原則ヨリ生スル當然ノ結果ナリ

第三百一條 豫審判事ハ豫審處分ニ付其ノ裁判所ノ豫審判事ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

豫審事件中重大且複雑ナルモノアリ又被告人数數ニ上ルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テ一人ノ手ヲ以テ處理スルトキハ往々時機ヲ失シ適當ナル結果ヲ見ル能ハサルノ虞アリ是レ本條ノ規定ヲ設クル所以ナリ

第三百二條 豫審判事ハ被告人ヲ訊問スヘシ

豫審判事ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

豫審判事ノ爲ス被告人ノ訊問ハ裁判所内ニ於テ爲スヲ原則トス然レトモ被告人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ出頭スルコト能ハサル場合アリ又特別ノ事由ノ爲所在ニ就キ訊問スルヲ便宜トスル場合アリ此ノ如キ場合ニ於テハ必スシモ召喚シテ訊問スルニ及ハス本條ハ此ノ義ヲ明ニシタルモノナリ現行法第七十四條ハ同趣旨ナルモ其ノ適用ノ範圍狭キニ失スルヲ以テ之ヲ修正シタリ

第三百三條 豫審判事ハ豫審終結前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル原由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

被告人ハ訴訟當事者トシテ辯護權ヲ行使シ得ヘキ地位ニ在ルモノナリ然ルニ嫌疑ノ原由ヲ知ラサルトキハ適當ナル辯解ヲ爲スコト能ハサル爲不利益ナル推斷ヲ受クルニ至ルヘシ此ノ如キハ防禦權ノ

行使ヲ阻害スルモノニシテ被告人ノ地位ヲ保護スル所以ニ非サルナリ故ニ豫審ノ終了ニ先チ被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル原由ヲ告知シテ辯解ヲ爲サシムヘキモノト定ム然レトモ被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ此ノ手續ヲ履行スルヲ得ス更ニ其ノ出頭ヲ待ツトキハ徒ニ豫審ノ終結ヲ遷延スルノ嫌アリ且正當ノ事由ナクシテ出頭セサルハ被告人ノ怠慢ニ外ナラサルヲ以テ斯ル場合ニ於テハ其ノ手續ヲ爲サスシテ豫審ヲ終了スルヲ適當トス

第三百四條 豫審判事公判ニ於テ召喚シ難シト思料スル證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢事及辯護人ハ其ノ訊問ニ立會フコトヲ得

第三百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

檢事及辯護人ハ豫審ニ於ケル證人訊問ニ立會ハサルヲ原則トス然レトモ後日公判ニ呼出シ難キ證人ハ公判ニ於テ訊問スルノ機會ナク豫審判事ノ訊問ニ立會フニ非サレハ親シク之ニ接シテ其ノ證言ヲ聽クノ機會ナカルヘシ故ニ本條ヲ設ケ檢事及辯護人ニ立會ノ權ヲ與ヘ急速ヲ要スル場合ノ外訊問ノ日時及場所ヲ之ニ通知スヘキモノト爲ス

第三百五條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ豫審中何時ニテモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得

檢事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケサル限り書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得

辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得

本條ハ現行法第六十八條ノ規定ヲ修正シ被告人及辯護人モ檢事ト同シク其ノ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求シ得ヘキモノト爲ス本條ハ書類及證據物ノ閱覽ニ付テモ現行法ノ規定ヲ改メ檢事ハ閱覽ノ權ヲ有スルモ之カ爲豫審ノ進行ヲ妨クルコトヲ得サルモノトシ辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ條件トシ檢事ト等シク閱覽スルコトヲ得ルモノト爲ス

第三百六條 豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

豫審判事カ取調ヲ爲スニ當リテハ公務所ニ照會シテ取調ニ付必要ナル事項ノ報告ヲ得ルコトヲ便利トスル場合尠カラス殊ニ警察官署ニ對シテ此ノ要求ヲ爲シ得ヘキモノトスルハ最モ必要ナリ現行法ノ下ニ於テモ實際上斯ノ如キ取扱ヲ爲スト雖法規上依ルヘキノ根據ナシ故ニ本條ヲ以テ之ヲ明ニシ照會ヲ受ケタル公務所ニ於テハ所要ノ報告ヲ爲スノ義務ヲ有スルモノト爲シタリ

第三百七條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續

ヲ中止スルコトヲ得

一 被告人ノ所在分明ナラサルトキ

二 被告人心神喪失ノ状態ニ在ルトキ  
前項ノ決定ハ之ヲ送達セス

豫審ノ取調ハ被告本人ノ訊問ヲ爲スニ非サレハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合多シ然ルニ被告  
人ノ所在分明ナラサルトキ又ハ被告人心神喪失ノ状態ニアルトキハ其ノ訊問ヲ爲スコトヲ得ス故ニ  
斯ノ如キ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ豫審手續ヲ中止スルノ決定ヲ爲スコトヲ得シム

第三百八條 豫審判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢事ニ  
送付シテ其ノ意見ヲ求ムヘシ

第三百九條 檢事豫審判事ノ取調十分ナラスト思料スルトキハ事項ヲ指示シテ取  
調ヲ請求スルコトヲ得

豫審判事檢事ノ請求ニ應シタルトキハ更ニ其ノ取調ニ關スル書類及證據物ヲ檢  
事ニ送付スヘシ請求ニ應セサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三百十條 檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ  
意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ

第三百八條乃至第三百十條ハ現行法第六十一條第六十二條ヲ修正シタル規定ニシテ豫審手續終  
了ニ關スルモノナリ

第三百十一條 被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管  
轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十二條 豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル  
事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十三條 豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ  
言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十一條乃至第三百十七條ハ豫審終結決定ニ關スル規定ヲ網羅ス第三百十一條乃至第三百十三  
條ハ事物及土地ノ管轄ニ付豫審判事ノ爲スヘキ決定ニ關スルモノナリ第三百十一條ハ原則ヲ示シ現  
行法第六十三條ノ如ク豫審ヲ求メラレタル事件カ豫審判事ノ屬スル地方裁判所ノ管轄ニ屬セサル  
トキハ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキモノト爲ス第三百十二條及第三百十三條ハ前示ノ原則ニ對スル例外  
ヲ示ス第三百十二條ニ依レハ豫審判事ハ其ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ  
言渡ヲ爲スコトヲ得ス此ノ規定ハ下級裁判所ノ管轄スル事件ヲ上級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト爲

スニ因ルヤ將管轄權ヲ有セサルモ尙ホ管轄違ノ言渡ヲ爲スヲ得ストスルモノナルカ議論アレトモ結果ニ於テ何等ノ差異ナキヲ以テ強テ解決スルモ實益アルヲ見ス第三百十三條ハ第三百十一條ニ對スル重要ナル制限ナリ我國ノ如ク統一シタル裁判權ノ下ニ劃一ノ制ヲ布キ全國到ル所構成ヲ同シクスル裁判所ヲ有スル國柄ニアリテハ土地ノ管轄ニ關スル規定ヲ施行スル必要ナク被告人異議ナキ限りハ管轄違ノ言渡ヲ爲ササルヲ相當トスヘシ第二百十三條ノ規定ヲ設ケタルハ此ノ趣旨ニ從フモノナリ

第三百十四條 公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ  
前項ノ決定ニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ

本條ハ豫審ノ取調ニ依リ公判ヲ開クニ足ルヘキ罪證アリト認メタル場合ニ於テ爲スヘキ決定ニ關スルモノニシテ現行法第六十七條第一項第六十九條第一項ト其ノ趣旨ヲ同シクス此ノ決定ハ罪ノ有無ヲ斷スルモノニ非ス公判ヲ開クニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルヤ否ヲ決スルモノナリ是レ豫審ノ性質ニ基ク當然ノ結果ナリ本條第二項ハ決定ニ記載スヘキ要件ヲ示ス即チ此ノ決定ニハ判決裁判所ノ判斷ヲ求ムヘキ事實ト之ニ對スル法令ノ適用ヲ示スヘキモノナリ

第三百十五條 被告事件罪ト爲ラス又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十六條 左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

- 一 確定判決ヲ經タルトキ
- 二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ
- 三 大赦アリタルトキ
- 四 時効完成シタルトキ
- 五 法令ニ於テ刑ヲ免除スルトキ

第三百十五條及第三百十六條ハ現行法第六十五條ヲ修正シテ豫審終結決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ第三百十五條ハ被告事件罪トナラス又ハ公判ヲ開クニ足ルヘキ罪證具ハラサル場合ニ免訴ノ決定ヲ爲スヘキコトヲ定ム此ノ決定ハ事件ノ實體ニ關スルモノナリ第三百十六條ニ依ル免訴ノ決定ハ公訴權ノ存セサルコト(多クノ場合ニ於テハ公訴權ノ消滅)ヲ理由トスルモノニシテ事件ノ實體ニ關セサルモノナリ現行法ハ同一ノ條文ヲ以テ兩者ヲ規定スルモ現行法ハ其ノ性質ノ相異ナルコトニ留意シ兩者ヲ分別シ各別條ニ之ヲ規定シタリ